

判ヲ爲スニ至ラシムヘキモノヲ發見シタルトキナ規定シタルモノナリ

○民事訴訟法第四百六十九條第七號ノ「原告若クハ被告ノ利益ト爲ルヘキ裁判ヲ爲スニ至ラシムヘキモノ」ナル規定ニ適合スヘキ證據ハ若シ前訴ニ於テ提出シ得ヘカリシナラハ利益ノ裁判ヲ受クヘキモノナルヲ要スルヲ以テ必ス證據其モノカ利益ノ裁判ヲ受クルニ足ルヘキモノナルコトハ論ヲ竣タス而シテ新ニ發見シタル證書カ前訴ニ於テ提出シタル他ノ證據ト相埃テ利益ノ裁判ヲ受クルニ足ルヘキトキハ之ヲ再審ノ理由ト爲シ得ヘシト雖モ發見シタル證書ヲ他ノ新ナル證據ヲ以テ補充スルニ非サレハ其利益ト爲ルヘキ心證ヲ作ルニ足ラサルモノナルトキハ再審ノ理由ト爲ルヘキモノニ非ス

○地券帳及ヒ見圖帳ハ其所轄役場ノ公簿ニシテ一私人カ自ラ裁判所ニ提出シ得ヘキモノニ非ス從テ一私人カ之ヲ證據ト爲サント欲セハ裁判所ニ其取寄ノ申立ヲ爲ササルヘカラス若シ其申立ヲ爲ササルニ於テハ縱令後日之ヲ發見スルモノ之ヲ理由トシテ原狀回復ノ訴ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

○民事訴訟法第四百六十九條第七號ニ所謂「相手方又ハ第三者ノ所爲ニ依リ以前ニ提出スルコトヲ得サリシ證書」トハ同法第三百三十六條第

二六	二	五五
二五	六	三
二四	七	一
二三	八	一
二二	九	一
二一	一〇	一
二〇	一一	一
一九	一二	一
一八	一三	一
一七	一四	一
一六	一五	一
一五	一六	一
一四	一七	一
一三	一八	一
一二	一九	一
一一	二〇	一
一〇	二一	一
九	二二	一
八	二三	一
七	二四	一
六	二五	一
五	二六	一
四	二七	一
三	二八	一
二	二九	一
一	三〇	一

三百四十三條ニ所謂相手方又ハ第三者ニ於テ提出ノ義務アル證書ニ限ルモノニ非スシテ如何ナル證書ニテモ原告又ハ被告ノ利益ト爲ルヘキ裁判ヲ爲スニ足ルヘキモノハ總テ之ニ包含セラルルモノト解セサルヘカラス

○裁判所カ再審ノ許否ヲ斷按スル爲メ新ニ發見セラレタル證書ノ果シテ原告若クハ被告ノ利益ト爲ルヘキ裁判ヲ爲スニ至ラシムヘキモノナルヤ否ヤヲ判定スルニ付テハ專ラ再審ヲ求ムル訴訟ノ確定判決ノ理由ニ憑據シ之ヲ爲スヘキモノニシテ該判決ノ判定セサリシ係爭事實ノ立證ノ如キハ本案ノ辯論ニ於テ之ヲ審理スヘキモノトス

○民事訴訟法第四百六十九條第一項第七號ノ規定ハ相手方若クハ第三者カ故意ヲ以テ再審原告ノ利益ト爲ルヘキ證書ノ提出ヲ妨ケタル場合ニ限り適用スヘキモノトス

○檢事ノ爲ス起訴猶豫ノ處分ハ刑事訴訟手續ノ開始若クハ實行カ不可能ナルカ爲メニ爲スモノニ非サルヲ以テ民事訴訟法第四百六十九條第二項後段ニ該當セス

第四百七十條

○舉證者其使用セントスル證書カ第三者ノ手ニ存スルコトヲ信スル時ハ

三三	五	五
三二	六	五
三一	七	五
三〇	八	五
二九	九	五
二八	一〇	五
二七	一一	五
二六	一二	五
二五	一三	五
二四	一四	五
二三	一五	五
二二	一六	五
二一	一七	五
二〇	一八	五
一九	一九	五
一八	二〇	五
一七	二一	五
一六	二二	五
一五	二三	五
一四	二四	五
一三	二五	五
一二	二六	五
一一	二七	五
一〇	二八	五
九	二九	五
八	三〇	五
七	三一	五
六	三二	五
五	三三	五
四	三四	五
三	三五	五
二	三六	五
一	三七	五

民事訴訟法第三百四十二條第三百四十四條第三百四十條ニ從ヒ之ヲ提出セシムルカ又ハ本人訊問ノ手續ヲ盡スヘキモノナルニ此法定ノ手續ニ據ラス漫然第三者ノ言ヲ信シ訴訟中其證書存在ノ事實スラ之ヲ申立テサリシトキハ舉證者ニ於テ民事訴訟法第四百七十條ノ所謂過失アルモノナルニ依リ他日判決確定ノ後第三者ヨリ其證書ノ交付ヲ受クルモ之ヲ以テ再審ヲ求ムル原由ト爲スコトヲ得ス

第四百七十二條

○事實ノ認定上ニ屬スル原狀回復ノ訴ハ事實ニ立入ラサル上告裁判所ノ管轄ニ非ス
○再審ヲ求ムル訴ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所ノ管轄ニ專屬ス

○第一審ニ於テ敗訴ノ言渡ヲ受ケ控訴審ニ於テ控訴棄却ノ言渡ヲ受ケ尙ホ上告審ニ於テ上告棄却ノ言渡ヲ受ケタル後民事訴訟法第四百六十九條第四百七十條ノ原由アリトシテ原狀回復ノ訴ニ依リ再審ヲ求ムルニハ控訴棄却ヲ言渡シタル控訴審ニ之ヲ提起セサルヘカラス
○上告裁判所カ控訴裁判所ノ裁判ニ採證上ノ不法ナキコトヲ判斷シテ上告ヲ棄却シタルニ止マルトキハ上告裁判所ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所ニ非サレハ再審ノ訴ハ上告裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノトス

第四百七十三條

○控訴審ニ於テ原狀回復ニ因リ再審ヲ求ムル訴ヲ受理シ本案ニ付テノ審理ヲ爲ストキハ控訴審ノ訴訟手續ニ關スル規定ヲ準用スヘキモノトス
○代理欠缺ノ爲メ取消ノ訴ヲ提起スヘキ不變期間ハ正當ニ代理セラレサル者カ適式ニ判決正本ノ送達ヲ受ケ之ニ因リ判決アリタルコトヲ知リタル日ヲ以テ進行ヲ始ム

第四百七十四條

○取消ノ訴ハ正當ニ代理セラレサル者カ他人ニ送達シタル判決正本ニ因リ其事實ヲ了知スルモ此時ヨリ不變期間ノ進行ヲ始メス
○正當ニ代理セラレサル者カ判決アリシコトヲ聞知シタルトキハ適式ニ判決正本ノ送達ヲ受ケサルモ自己ノ權利トシテ取消ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

○正當ニ代理セラレサル者カ適式ニ判決正本ノ送達ヲ受ケサルトキハ其裁判確定後幾年ヲ經過スルモ取消ノ訴ヲ提起スル權利ヲ失ハス
○民事訴訟法第四百七十四條第四項ニ所謂原告若クハ被告トハ訴狀又ハ

三	二	六
二	四	二
六五	一〇六	三九
		五五

七	七	一八六
三	三	九二六
二	二	八〇
二	二	八〇
二	二	八〇
二	二	八〇

第五編 證書訴訟及ヒ爲替訴訟

○爲替訴訟ハ民事訴訟法第四百八十四條第四百八十五條第四百九十四條及ヒ第四百九十六條第一項ノ規定ニ適合スルニ於テハ之ヲ許スヘキモノニシテ其請求ノ緩漫ナルヤ否ヤハ之カ許否ヲ決スヘキ標準ト爲ラス

〔第四百八十四條〕

○被告入ハ某者ノ遺産相續人ナル事原告人ハ被告ノ先代某者ニ金員ヲ貸與シタル事及ヒ其辨濟期限ノ經過シタル事ヲ證書等ニ依リ證明シ其相續遺産ヲ限度トシテ請求ヲ起シタルハ民事訴訟法第四百八十四條ノ所謂「其請求ヲ起ス理由タル總テノ必要ナル事實ヲ證書ニ依リ證スルコトヲ得云云」ニ適合スルモノト云ハサルヘカラス然ルニ原院カ此證書ヲ以テ完全ニ證明スルヲ得スト判定シタルハ該法條ヲ不當ニ適用セシモノナリ

〔第四百八十五條〕

〔第四百八十五條〕

〔第四百八十五條〕

○民事訴訟法第四百八十五條ニ所謂證書訴訟トシテ訴フル旨ノ陳述ハ訴狀中ニ其意思顯ハルルヲ以テ足り必スシモ該陳述ノ特記ヲ要セス

○民事訴訟法第四百八十五條ノ規定ハ請求ヲ起ス理由タル總テノ必要ナル事實ヲ證明スヘキ證書ノ原本又ハ謄本ヲ訴狀ニ添附スヘシトノ義ニ外ナラサレハ此要件ヲ具備スル證書ノ抄本ヲ添附スレハ足ルモノニシテ必スシモ其謄本ヲ添附スルコトヲ要スルモノニ非ス

○證書訴訟ノ訴狀ニ添附スヘキ證書ノ謄本ハ訴訟法上別段ノ意義ヲ有スルモノニ非サルヲ以テ苟モ其證書ニ記載セル主要ノ事項ヲ謄寫シ其證書ノ謄本タルコトヲ認メ得レハ足ルモノニシテ縱令其請求ヲ起ス理由タル必要事項ノ謄寫ニ多少遺脱スル所アルモ之カ爲メニ謄本タルノ性質ヲ滅却スヘキモノニ非ス

○民事訴訟法第四百八十五條ハ證書訴訟ニ特別ナル起訴ノ方式ヲ定メタルモノナレハ苟モ原告ニ於テ請求ノ理由タル事實ヲ證スル爲メ證書ノ原本又ハ謄本ヲ訴狀ニ添附シタルニ於テハ之ニ依リテ請求ノ理由タル總テノ事實カ證シ得ラルルト否トヲ問ハス起訴ノ要件ハ充タサレタル

民事訴訟法 證書訴訟及ヒ爲替訴訟

一七二三

三五 六 七一

三六

三七

三八

三九

四〇

四一

四二

四三

四三

四四

四四

四五

四五

四六

四六

四七

四七

四八

四八

四九

(第四百八十七條)

○手形金額ノ請求ト手形記載ノ特約ニ基ク請求トヲ併セ主張スル場合ニ於テ訴狀ニ爲替訴訟トシテ訴フル旨ヲ掲ケタル以上ハ特約ニ基ク請求ニ付キ特ニ證書訴訟トシテ訴フル旨ヲ掲クルコトヲ要セス

『第四百八十七條』

○民事訴訟法第四百八十七條第二項ハ其第四百八十四條ニ掲ケタル以外ノ事實ニ關スルモノノ外證書ノ眞否ニ付テモ亦書證ノミヲ以テ適法ノ證據方法ト爲シタル規定ナリトス
○證書ヲ手蹟又ハ印章ノ對照ニ供スルハ書證ニ非サルカ故ニ斯ノ如キ證據調ハ證書訴訟ニ於テハ許スヘカラサルモノトス

(同主旨)

證書ニ押捺シタル印章ノ眞正ナルコトヲ立證スルニ他ノ印章トノ對照ヲ以テスルカ如キハ證書訴訟ニ於テ適法ノ證據方法ト爲ス得ス

(第四百八十八條)

『第四百八十八條』

○證書訴訟ヲ止メ通常訴訟手續ニ繫屬セシムルカ如キハ民事訴訟法第六十五條第二項ニ規定セル訴訟行爲ニ非サルヲ以テ同條第一項ノ範圍ニ入ルヘキモノトス故ニ證書訴訟ノ委任ハ該訴訟カ通常訴訟トシテ繫屬

スル場合ニ於テモ亦有效ナリ

○訴訟提起ノ時ニ於テ爲替訴訟タリシモノニシテ通常訴訟ニ變更シタルモノハ縱令其訴狀ノ方式爲替訴訟ノ要件ニ適合セサル場合ト雖モ通常訴訟ノ訴狀タル方式ニ缺クル所ナキトキハ權利拘束ノ效力ヲ生スルニ妨ナシ

○民事訴訟法第四百八十八條ノ規定ハ之ヲ擴充シテ第二審ニ繫屬シタル證書訴訟若クハ爲替訴訟ニ適用スルコトヲ得サルモノトス
○支拂地ノ裁判所ニ爲替訴訟ヲ提起シタルトキハ之ヲ通常訴訟ニ引直スモ同裁判所ハ依然其管轄權ヲ持續スルモノトス
○原告カ證書訴訟トシテ提起シタル訴訟ヲ通常訴訟ト爲スコトヲ得ルカ爲メニハ其訴訟カ通常訴訟ノ提起ニ要スル一般要件ヲ具備スルヲ以テ足り證書訴訟ノ要件ヲ具備スルコトヲ要セス

(同主旨)

證書訴訟トシテ提起シタル訴訟カ其特別要件ヲ具備セサルトキト雖モ一般訴訟要件ヲ具備スルモノナルトキハ其事件ノ權利拘束ヲ生スルコトヲ妨ケサルヲ以テ若シ原告カ更ニ通常訴訟手續ニ依リテ審理ヲ求メントスル場合ニ於テハ裁判所ハ其申立ニ因リ本案ニ付キ裁判ヲ爲ササルヘカラス

(第四百八十九條)

『第四百八十九條』

民事訴訟法 證書訴訟及ヒ爲替訴訟

三五	四五	三六	三五	三五	三三
八	一九三	九七六	二	九	三
二四			六	二二	六〇

三	五	三七	三四	三四	三
	二三八	一〇八四	一	一	九七

○證書訴訟トシテ許スヘキモノニ非ストノ理由ヲ以テ其訴ヲ却下セスシテ請求ヲ棄却シタルハ不當ナリトス

○利息ノ有無ハ元本ノ消長ト相關スルコトナケレハ證書訴訟ノ場合ト雖モ元本ノ請求ニシテ適法ノ證據ヲ具備スル以上ハ縱令利息ニ付キ適法ノ證據方法ヲ申出テサルモ其訴訟全部ヲ却下スヘキモノニ非ス

第四百九十九條

『第四百九十條』

○證書訴訟ニ於テ被告カ適法ノ證據方法ヲ以テ證據ヲ申出ツヘキ場合ハ被告カ舉證責任ヲ負擔スルトキニ限ルモノトス

○證書訴訟ノ被告ハ裁判所ヲシテ其抗辯事實ノ存在ヲ推定セシムヘキ資料タル事實ニ付キ書證ニ據リテ證明スレハ足り該事實ヨリ推定シ得ヘキ結果タル事實迄モ悉ク證據自體ニ現レタル書證ノ提出ヲ要スルモノニ非ス

第四百九十一條

『第四百九十一條』

○爲替訴訟ニ留保ヲ掲ケタル判決ハ確定ノ終局判決ト同シク其執行ヲ爲スヘキモノニテ假執行ト同視スヘカラス

○爲替訴訟ニ於テ請求ヲ争ヒタル被告ニ敗訴ヲ言渡シ權利行使ノ留保ヲ掲ケサルトキハ其判決ハ普通ノ終局判決ナリ

第四百九十二條

『第四百九十二條』

○證書訴訟ニ於テ敗訴ノ被告ニ權利ノ行使ヲ留保スル旨ノ判決アリタルトキ被告カ該判決ノ送達ヨリトキ被告ヨリ期日指定ノ申請ヲ爲サス判決ノ送達後一年餘ヲ經過スルトモ其事件ハ普通訴訟トシテ依然繫屬スルモノトス而シテ期日指定ノ申請ハ原告ヨリモ之ヲ爲スコトヲ得

(同主旨)

爲替訴訟ニ於テ被告ニ權利ノ行使ヲ留保スル旨ノ判決アリタルトキ被告カ該判決ノ送達ヨリ一個年内二期日指定ノ申請ヲ爲ササルモ訴訟ヲ取下ケタルモノト看做スヘキモノニ非ス

○民事訴訟法第四百九十二條第一項ニ依ル通常ノ訴訟手續ノ續行ニ關シテハ法律ニ別段ノ規定ナケレハ留保判決ノ言渡後之ヲ爲スコトヲ得ヘク其判決ノ確定ヲ必要トセサルモノトス

○民事訴訟法第四百九十二條第二項ニ依リ通常ノ訴訟手續ニ於テ證書訴訟ヲ以テ主張シタル請求ノ理由ナカリシコトノ顯ハルルトキハ當事者ノ申立有無如何ニ拘ハラヌ裁判所ハ前判決ヲ廢棄シ原告ノ請求ヲ却下スヘキモノトス

『第四百九十四條』

○商法手形ノ規定ニ因ル請求ヲ證書訴訟ヲ以テ主張セントスルトキハ其

第四百九十四條

民事訴訟法 證書訴訟及ヒ爲替訴訟

三三	四	六
三九	二	一五
四	二〇七	
四	二〇七	
二六	二	一五
三四	一〇	

三五	三	二六
三四	一〇	一
三六	二	一三六
三七		二六三

訴狀ニハ一般訴狀要件ノ外尙ホ「爲替訴訟トシテ訴フル旨」ヲ掲ケ爲替訴訟ノ特別手續ニ依リテ裁判上ノ保護ヲ求ムル意思ヲ表示セサルヘカラス

(同旨)

商法ニ規定シタル手形ニ因ル請求ヲ證書訴訟ヲ以テ主張スルトキハ爲替訴訟トシテ訴フル旨ヲ訴狀ニ掲グルヲ要ス若シ此手續ヲ爲ササルニ於テハ民事訴訟法第四百九十五條ニアル特別規定即チ支拂地ノ裁判所ニ起訴スルコトヲ得ルトノ規定ヲ適用スルコトヲ得ス

第四百九十五條

『第四百九十五條』

○支拂地ノ裁判所ニ爲替訴訟ヲ提起シタルトキハ之ヲ通常訴訟ニ引直ス

モ同裁判所ハ依然其管轄權ヲ持續スルモノトス

○同一ノ手形ヨリ生シタル手形債務ヲ負荷セル者二人以上アル場合ニ於テ其債權者カ各手形債務者ニ對シテ支拂命令ヲ發セラレンコトヲ申請セントスルトキハ民事訴訟法第四百九十五條第二項ニ準據シ債務者中ノ一人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ニ其申請ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第四百九十六條

『第四百九十六條』

○商法手形ノ規定ニ因ル請求ヲ證書訴訟ヲ以テ主張セントスルトキハ其

訴狀ニハ一般訴狀要件ノ外尙ホ「爲替訴訟トシテ訴フル旨」ヲ掲ケ爲替訴訟ノ特別手續ニ依リテ裁判上ノ保護ヲ求ムル意思ヲ表示セサルヘカラス

○訴狀ニ爲替訴訟ノ特別事項ノ記載ヲ缺クトキト雖モ一般ノ要件ヲ具備スル場合ニハ其訴ハ通常訴訟トシテ繫屬シ權利拘束ノ效力ヲ發生スルヲ以テ爾後其特別事項ノ記載ヲ補充シ以テ爲替訴訟ニ變更スルコトヲ得ス

○手形金額ノ請求ト手形記載ノ特約ニ基ク請求トヲ併セ主張スル場合ニ於テ訴狀ニ爲替訴訟トシテ訴フル旨ヲ掲ケタル以上ハ特約ニ基ク請求ニ付キ特ニ證書訴訟トシテ訴フル旨ヲ掲クルコトヲ要セス

第六編 強制執行

第一章 總則

○執行裁判所カ強制執行ニ關シ漸次數箇ノ命令ヲ發シタル場合ニ於テハ強制執行ノ基ク命令ニシテ取消サルル以上ハ其以後之ニ續キテ發セラレタル命令ノ如キハ從ヒテ效力ヲ失フヘキモノトス

○強制執行ハ新ニ權利ヲ作成スルモノニ非ス從テ正當ノ債務原因ニ基カ

三 一三六

二 二八三

三 九六

三 三九七

三 一三六

三 一三六

五 二六

三 三

○サル以上ハ強制執行ヲ無事ニ遂了スルモ爲メニ執行行爲ヲシテ正當ニ歸セシムルコトナシ

三七

四七三

○不動産ノ強制競賣ニ於テハ競落ヲ許スノ決定アリタル後競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行シ不動産ノ引渡ヲ請求シ得ル時ヲ以テ強制執行ノ終了時期トス

三六

一五〇

○債務者ノ有スル會社ノ持分ニ對スル換價ニ因ル賣得金ヲ債權者ニ交付スル行爲ハ執行裁判所ノ職權ニ屬スヘキモノトス從テ執達吏カ如上ノ行爲ヲ爲スモ強制執行終了スルコトナシ

三四

三七

○債權者ノ執行權ハ債務名義ニ於テ表示セラレタル債權カ更改契約其他ノ事由ニ因リテ消滅シタルトキト雖モ形式上ノ存在ヲ有シ之ニ因ル強制執行ハ形式上適法ナリトス從テ債務名義ニ表示セラレタル債權ニ關シ更改契約アリタル爲メ債權者カ執行權ヲ拋棄シタルモノト爲ルコトナシ

三四

六九八

○強制執行ハ債務者カ任意ニ債務ヲ履行セサル場合ニ於テ債務名義ニ基キ公ノ威力ニ依リ之ヲ盡サシムル方法ニシテ債務者ニ對シ履行ノ請求ヲ爲スモノニ非ス

三三

九二九

○債權者ノ同時ニ爲スヘキ反對給付ニ繫ル給付債權ニ付キ不動産ニ對シ

強制執行ヲ爲ス場合ニ於テハ執行裁判所ハ債權者カ反對給付ヲ履行シ又ハ其履行ノ提供ヲ爲シタルコトヲ證明書ヲ以テ證スルニ非サレハ其執行ニ著手スルコトヲ得サルモノトス

三五

一四一

○同一ノ事實ニ因リテ所謂代位訴權及ヒ直接訴權發生スル場合ニ在リテハ債權者ハ一箇ノ訴ニ依リ之ヲ主張スルコトヲ得ルモノニシテ斯ル二箇ノ訴權ヲ是認シタル判決アリタルトキハ權利者ハ其孰レカヲ選擇シテ強制執行ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

三五

二二五

○訴訟上ノ保證ハ當事者ノ一方ヲシテ其行爲ニ因リ相手方ニ生スルコトアルヘキ損害ヲ償フ爲メニ擔保トシテ立テシムルモノナレハ其保證トシテ金錢又ハ有價證券ノ供託セラレタル場合ニ於テ相手方カ損害ノ賠償ヲ受クヘキトキハ右ノ供託物ニ付キ優先ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得ルモノトス

三五

二二七

(同主旨)

訴訟上ノ保證ハ當事者ノ一方ヲシテ其訴訟行爲ニ因リ他ノ一方ニ生スルコトアルヘキ損害ノ擔保トシテ之ヲ立テシムルモノナレハ保證トシテ現金又ハ有價證券ノ供託セラレタル場合ニ於テ他ノ一方カ損害ノ賠償ヲ受クヘキトキハ物的擔保タル供託物ヨリ優先シテ之ヲ受クルコトヲ得

二

二

(參照)

我ニ所有權アルコトヲ主張スル物件カ既ニ公賣處分濟ト爲リタル上ハ其買得者ニ對抗シ之ニ打撻ツニ非サルヨリハ其公賣ヲ取消シ得ヘカラサルヲ以テ縱令當初公賣ヲ爲シタル者ニ不當ノ行爲アリトスルモ其者ノミニ對シテハ到底取消シ得ヘカラサルモノトス
從タル債務者カ負擔擔償ノ爲メ其抵當物件ヲ公賣セラルルコトヲ認諾シタル事實アルニ於テハ直ニ公賣ニ付スルモ妨ナシ必スシモ公賣著手以前ニ公式的ノ通知ヲ爲シ承諾ヲ得ルニ非サレハ其公賣ハ無効ナリト云フヲ得ス

第四百九十七條

○判決ハ縱令其實質ニ不法アルモ確定スルニ於テハ之ヲ執行スルコトヲ得ヘクシテ當然無効ノモノニ非ス

○判決ニ因リ確定シタル權利關係ニ付キ裁判外ノ和解契約成立シタル場合ニ於テ債權者カ其判決ニ基キ強制執行ヲ爲シタルトキハ債務者ハ民事訴訟法第五百四十五條ノ訴ヲ以テ判決ノ執行力ヲ排斥スルコトヲ得ヘシト雖モ當事者カ契約ヲ以テ和解契約ヲ廢罷シタルトキハ判決ノ執行力ヲ排除スヘキ事由ハ消滅シ判決ハ完全ニ其執行力ヲ保有スルヲ以テ之ニ基キ爲シタル強制執行處分ハ有效ナリトス

第五百條

○民事訴訟法第五百條第一項ノ「保證ヲ立テシメテ爲ス強制執行」ハ未タ執行手續ニ著手セサル場合ヲ包含スルノミナラス其強制執行ノ停止ニ

第五百一

付テモ既ニ執行手續ニ著手シタル場合ナルト否トヲ區別セサルヲ以テ未タ強制執行ノ開始セサルトキト雖モ事情ニ因リ相當ト認ムルトキハ豫メ其停止ヲ命スルコトヲ得ルモノトス
○民事訴訟法第五百十二條第五項第三項ハ裁判所カ同條第一項ノ裁判ニ付キ實質上ニ審査ヲ爲シタル上與ヘタル裁判ニ關スルモノニシテ同條ノ要件ニ適合セサルニ依リ許スヘカラサルモノトシ不適法トシテ却下シタル裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ妨ケサルモノトス

第五百一

○不動產所有權ノ移轉登記ヲ爲スヘシトノ請求ハ相手方ノ意思ノ陳述ヲ求ムルモノニシテ斯ノ如キ判決ハ其確定前ニ假執行ノ宣言ヲ付スヘキモノニ非ス

第五百三

○控訴裁判所カ第一審判決ヲ變更シ扶養料ノ一部ニ付テノミ民事訴訟法第五百一條第五號ヲ適用シ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲シタルニ止マリ其餘ノ金額ニ付テハ債權者ノ第一審ニ於ケル申立アルニ拘ハラス同第五百三條第一號ヲ適用シテ假執行ノ宣言ヲ爲ササルハ失當ナリトス

二六

二

三四

二七

二

二四〇

二

二

一三三

七

七

一三七六

六

六

一八〇四

六

六

一八〇四

四五

四五

三七七

六

六

一〇一一

第五百九條ノ規定ノミニ止マラス第五百三條等ノ規定モ亦之ヲ適用シ得ヘキ法意ナルコトハ同第四百八條ノ規定ニ依リ自ラ明カナリ

○民事訴訟法第五百三條ハ第一審裁判所ニ限リタル法規ニ非サレハ第二審裁判所ニ於テモ亦之ヲ適用シ得ルモノトス

○第一審ノ勝訴者タル債權者カ民事訴訟法第五百三條ニ從ヒ假執行ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ第二審判決ノ確定前第一審判決ノ執行ヲ爲サントスルモノニシテ第一審判決ノ變更ヲ求ムルモノニ非サレハ控訴又ハ附帶控訴ニ依リテ之ヲ爲スヘキモノニ非ス唯訴訟ノ繫屬セル第二審裁判所ニ其申立ヲ爲スヲ以テ足レリトス

○控訴裁判所カ第一審判決ヲ變更シ扶養料ノ一部ニ付テノミニ民事訴訟法第五百一條第五號ヲ適用シ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲シタルニ止マリ其餘ノ金額ニ付テハ債權者ノ第一審ニ於ケル申立アルニ拘ハラヌ同第五百三條第一號ヲ適用シテ假執行ノ宣言ヲ爲ササルハ失當ナリトス

第五百八條

○控訴裁判所カ假執行ヲ宣言スヘキ申立ヲ看過シタルトキハ補充判決ノ申立ヲ爲シ得ルニ止マリ援テ以テ上告ノ理由トスルヲ得ス

第五百九條

○控訴裁判所ニ於テ假執行ニ關スル宣言ヲ爲スニ當テハ單ニ民事訴訟法第五百九條ノ規定ノミニ止マラス第五百三條等ノ規定モ亦之ヲ適用シ得ヘキ法意ナルコトハ同第四百八條ノ規定ニ依リ自ラ明カナリ

○控訴棄却ノ判決ハ第一審判決ヲ是認セルモノニ外ナラサレハ之ト共ニ爲シタル假執行ノ宣言ハ第一審判決ヲ執行スルコトヲ得セシムル旨趣ナリトス

第五百十條

○民事訴訟法第五百十條第二項ハ本案ノ判決ヲ廢棄若クハ變更セル結果ニ依リ假執行ノ宣言ニ從ヒテ給付シタルモノヲ返還セシムル規定ナレハ本項ノ場合ハ同法第五百十一條第三項ニ包含スヘキモノニ非ス

○民事訴訟法第五百十條第二項ニ所謂被告トハ假執行ノ宣言アリタル案件ノ被告ヲ指稱ス從テ公正證書ニ依リ強制執行ヲ爲ス場合ニ於テハ其債務者ニ該當セルモノトス

民事訴訟法 強制執行 總則

三五九

三三〇

一三〇〇

一〇二一

三七六

一五三

四六六

二九三

一〇〇

ヲ得ス

○控訴裁判所カ民事訴訟法第五百十條第二項ノ裁判ヲ脱漏シタル場合ニ於テハ當事者ハ追加裁判ノ申立ヲ爲シ判決ノ補充ヲ求ムルコトヲ得ル

○モ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

○民事訴訟法第五百十條ニ假執行ノ宣言アリタル本案ノ判決ヲ破毀スルトキトアルハ破毀シテ差戻ス場合ヲモ包含スルモノトス

○民事訴訟法第五百十條第二項ハ判決ノ假執行ニ因リ生シタル結果ヲ原狀ニ回復スル法意ナレハ支拂又ハ給付ヲ爲シタル場合ノミナラス原狀ニ回復スルコトノ可能ナル以上ハ其適用アルモノトス

〔第五百十一條〕

○民事訴訟法第五百十一條第三項ノ規定ハ第一審判決ニ假執行ノ宣言アリテ其宣言ニ付キ第二審裁判所カ判決シタル場合ト第二審裁判所カ新ニ該宣言ヲ爲シタル場合トヲ間ハス假執行ニ付キ第二審ノ爲シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ許ササルモノトス

(同義旨)

民事訴訟法第五百十一條第三項ノ規定ニ依レハ第一審判決ニ假執行ノ宣言アリテ其假執行宣言ニ付キ第二審裁判所カ判決シタル場合ト第二審裁判所カ新ニ假執行ノ宣言ヲ爲シタル場合トヲ間ハス假執行ニ付テ第二審ノ爲シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得サルモノトス

〔第五百十二條〕

○保證ヲ立テシメテ假執行ノ宣言ヲ付シタル場合ト雖モ上訴アリタルトキハ民事訴訟法第五百條ノ規定ヲ準用シ其宣言ニ基ク強制處分ノ取消ヲ命シ得ルモノトス

○假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ニ對シ被告ヨリ控訴ヲ提起スルト同時ニ其宣言ニ基ク強制執行ノ停止ヲ申請シタル場合ニ於テ該申請ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

○民事訴訟法第五百十二條第五百條第三項ハ裁判所カ同條第一項ノ裁判ニ付キ實質上ノ審査ヲ爲シタル上與ヘタル裁判ニ關スルモノニシテ同條ノ要件ニ適合セサルニ依リ許スヘカラサルモノトシ不適法トシテ却下シタル裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ妨ケサルモノトス

〔第五百十六條〕

○執行文ハ執行ヲ爲シ得ル裁判ニ付與スヘキモノナレハ強制執行ヲ許サ

四二

六

四二

六

四二

六

四二

六

四二

六

四二

六

三五

九六

三六

二九三

三六

二六

三五

二六

三六

一八〇四

○債務名義ノ無効ヲ理由トシテ債務名義其者ニ關スル形式上ノ異議ヲ主張スルニハ執行文付與ニ關スル異議ノ申立ヲ爲スヘク請求ニ關スル異議ノ訴ニ依ルヘキモノニ非ス

〔第五百三十一條〕

○執達吏カ當事者ノ委任ニ基キ裁判ヲ執行スルニ當テハ普通ノ受任者ト異ナリ法令ニ別段ノ規定アラサル以上ハ必スシモ常ニ當事者ノ指圖ニ服從スヘキ義務ヲ負フモノニ非ス

〔第五百三十二條〕

○債權者カ執行力アル正本若クハ假差押命令ノ正本ヲ執達吏ニ交付シ執行ノ委任ヲ爲シタルトキハ執達吏ハ獨立シテ其職務ヲ執ルヘキモノニシテ債權者ノ指揮ニ從フヘキモノニ非ス從テ違法ノ手續ニ因リ損害ヲ被ムラシメタルトキハ執達吏ニ於テ第一ニ其責ニ任スヘキモノトス
○執達吏ハ司法機關ノ一ニシテ獨立ノ職責ヲ有スルモ同時ニ當事者ノ代理人タル資格ヲ有スルカ故ニ執行ヲ爲スニ當リテ債權者ヨリ債務者ノ所有物ニ非サルコトノ告知ヲ受クルトキハ執達吏ハ之カ差押ヲ爲ササルヲ以テ當然トス
○債權者ノ委任ニ因リテ強制執行ヲ爲ス執達吏ハ民法上ノ受任者ト異ナ

〔第五百三十三條〕

○差押物保存ノ爲メ特別ノ處分ヲ必要トスル場合ニ在テハ執達吏ハ適當ノ方法ヲ以テ之カ處分ヲ爲スヘキ職責ヲ有ス從テ其保存方法宜キヲ得サルカ爲メニ損害ヲ生シタルトキハ執達吏第一ニ其責ニ任スヘキモノニシテ債權者ニ對シ之カ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

(同旨)

〔第五百三十四條〕

○執達吏ニシテ法規ニ從ヒ債權者ヨリ強制執行ノ委任ヲ受ケタル以上ハ其強制行為カ債權者ノ意思ニ適合スルヤ否ヤヲ顧ミルコトナク執達吏タル職務ヲ執行スヘキモノトス從テ強制執行上執達吏ニ過失アルモ委任者タル債權者ハ必スシモ其責ヲ分ツヘキモノニ非ス

(同旨)

○執達吏カ差押ニ關シ職務上ノ義務ノ違背ヨリシテ損害ヲ生セシメタルトキハ執達吏第一ニ其責ニ任スヘキモノトス
○執達吏カ其差押ヘタル物件ニ對シ相當ノ處分ヲ爲ササルカ爲メ損害ヲ生スルニ至リタルトキハ第一ニ其責ニ任セサルヘカラサルハ當然ナリ

○執達吏カ債權者ヨリ有體動産ニ對スル強制執行ノ委任アリタルトキハ其職權ニ基キ強制執行ヲ實施スヘク差押フヘキ動産ノ選擇ニ付キ債權

三	三	四	三	四
六	三			
四三	六七	六四六	一五七六	六四六

三七	三	三	三	六
	二〇			
八七七	三	一六五		一〇八九

者ノ指示ヲ受クヘキモノニ非ス從テ縱令執達吏カ差押フヘカラサル動
産ヲ差押ヘタリトスルモ債權者ニ特別ノ行爲アラサル限ハ之ヲ以テ債
權者ノ過失ニ歸セシムルヲ得ス

○執達吏カ債權者ノ委任ニ因リテ爲ス職務行爲ニ付キ關係人ニ對シ損害
ヲ生セシメタルトキハ執達吏ニ於テ其責ニ任スヘキモノナルモ執達吏
ノ職務執行ニ際シ債權者ニ故意又ハ過失ノ責ムヘキモノアリテ一般不
法行爲ヲ以テ論スヘキ場合ニ於テハ債權者ハ其損害賠償ノ責ヲ免ルル
コトヲ得サルモノトス

○執達吏カ民事訴訟法第五百七十一條所定ノ義務ニ違背シ差押物ノ保存
方法其當ヲ得サルカ爲メ損害ヲ生セシメタルトキハ執達吏ニ於テ第一
ニ其責ニ任スヘキモノトス

〔第五百三十三條〕

○執達吏ヨリ差出スヘキ受取證書ニハ一定ノ書式ナキヲ以テ執達吏ノ肩
書ナク且受取書ト爲サスシテ預リ書ト爲シタルモ之ヲ執達吏ヨリ差出
シタル領收證書ノ效ナシト謂フヘカラス

〔第五百二十九條〕

○民事訴訟法第五百二十九條ノ規定ハ日曜日祝祭日及ヒ夜間ト雖モ債務

者ニ於テ拒マサルトキハ裁判所ノ許可ナキモ執行行爲ヲ爲シ得ルノ精
神ナリ

〔第五百四十四條〕

○執達吏ノ行爲ニ對シ當事者一方ヨリ異議ノ申立ヲ爲シ其行爲ノ取消ヲ
命セラルルコトアルモ執達吏ハ民事訴訟法第八十三條ノ如キ場合ノ外
ハ利害ノ關係ナキヲ以テ之ニ對シ不服ヲ唱ヘ抗告ヲ爲シ得ヘキモノニ
非ス

○民事訴訟法第七百三十三條同第七百三十四條ノ規定ニ依ル第一審ノ受
訴裁判所ノ決定ニ基キ強制執行ヲ爲スニ當リ執達吏カ執行文ヲ付セサ
ル決定ヲ以テ財産ヲ差押ヘタルトキハ債務者ハ同法第五百四十四條ノ
規定ニ依リ異議ノ申立ヲ爲シ其執行行爲ノ取消ヲ求メ得ヘシト雖モ請
求ニ關スル異議ノ訴中ニ併セテ其不服ヲ主張スルカ如キハ許スヘキ限
ニ在ラス

○所有權ヲ主張シテ物件ノ引渡ヲ請求スル訴ニ在リテハ其物件ニ關スル
執行手續ノ不法ニ對シ相當ノ時期ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得サリシ
トテ權利ノ消長ニ關係スヘキ虞ナシ

○民事訴訟法第五百四十四條第一項ノ異議ハ強制執行ノ實施ニ際シ手續

二六 二 一六九

二五 三 一四

三六 四 四〇六

四五 二 二四〇

二 四八六

五 一四〇九

七 一三六五

二六 二 一六九

- ノ不法ヲ匡正スルト同時ニ執行手續ヲ適法ニ進行終了セシムルコトヲ目的トシテ認めタル不服申立ニシテ執行ノ終了後既往ニ遡リ不法執行ノ效果ヲ除却スルコトヲモ目的トスル救済方法ニ非ス
- 金錢債權ニ對スル強制執行ニ於テ執行裁判所カ債權差押命令ヲ發シタル後債務者ニ債務名義ヲ送達スルハ不法ナレトモ差押命令及ヒ轉付命令ニシテ適法ニ第三債務者ニ送達セラレタルトキハ其執行手續既ニ終了シタルモノナレハ利害關係人ハ執行異議ノ方法ニ依リ其不法ヲ主張スルコトヲ得ス
- 占有者ノ意思ニ反シテ差押ヲ爲シタルコトヲ異議ノ理由トスルトキハ民事訴訟法第五百四十四條ニ依ルヘキモノナルヲ以テ斯ノ如キ理由ハ第三者カ所有權ヲ主張シテ異議ヲ申立ツル場合ニハ之ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス
- 日本帝國領事ノ發シタル差押解除命令ニ對シ不服ヲ唱フルニハ先ツ民事訴訟法第五百四十四條ニ從ヒ異議ノ申立ヲ爲スヘキモノニシテ其裁判ニ對シ抗告ヲ爲スハ格別差押解除命令ニ對シ直ニ抗告ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス
- 如上ノ場合ニ於テ執行機關カ土地ノ賃借人ニ對スル債務名義ノミニ基

二	七二九
六	七二九
二	七二九
三	四三
四	一〇八四

キ強制執行ヲ爲スニ當リ第三者タル抵當權者カ執行ノ方法ニ關スル異議其他ノ手續ニ依リ異議ヲ主張セスシテ執行完結シタル以上ハ建物收去ノ爲メ不法行爲ニ因リテ其權利ヲ侵害セラレタルモノト云フヲ得ス
(民法第六百十六條五年八六一頁其一參照)

- 不必要ナル執行費用ニ付キ強制執行ヲ爲シ又ハ執行費用ニ非サルモノヲ執行費用トシテ執行ヲ爲ストキハ債務者カ民事訴訟法第五百四十四條ニ依リ異議ノ申立ヲ爲スモ不法ニ非ス
- 債權者ニ對スル強制執行ハ執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ爲スモノナレハ裁判所カ差押命令及ヒ轉付命令ヲ發スルハ債權ニ對スル強制執行ノ方法ニ外ナラス從テ利害關係人カ之ニ對シ異議アルトキハ民事訴訟法第五百四十四條第一項ニ依リ異議ノ申立ヲ爲シ裁判ヲ受ケタル後ニ非サレハ同法第五百五十八條ニ依ル抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス
- (同法四)
- 不動産強制競賣開始決定ニ對シ不服ノ點アルトキハ民事訴訟法第五百四十四條ノ規定ニ依リ執行裁判所ニ向ヒ異議ノ申立ヲ爲スヘキモノニシテ同法第五百五十八條ノ規定ニ據リ抗告ヲ爲スカ如キハ法律ノ許ス所ニ非ス
- 不動産強制競賣開始決定ニ對シ不服ノ點アルトキハ民事訴訟法第五百四十四條ノ規定ニ據リ執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲シ其裁判ヲ受ケヘキモノニシテ同法第五百五十八條ノ規定ニ依リ

三	一五五
五	一五五
五	一一三七
五	八六二

抗告ヲ爲スコトヲ得ス

不動産強制管理手續ノ開始決定ハ強制執行ノ方法ナルヲ以テ之ニ對シ不服ノ點アレハ民事訴訟法第五百四十四條ノ規定ニ依リ其決定ヲ爲シタル執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲シ其裁判ニ對シ抗告スヘク直ニ之ニ對シ抗告ヲ爲スヲ得サルモノトス

○如上ノ異議ハ管轄權ヲ有セサル裁判所ノ發シタル命令ニ對スルトキト雖モ強制執行ノ終了後ハ訴其他ノ方法ニ依リ手續ノ無效ヲ主張スルノ外之ヲ許ササルモノトス

〔第五百四十五條〕

○確定ノ請求ニ關スル異議ハ訴ヲ以テ之ヲ主張スルヲ得ルモノトス然ルニ此訴ニ對シ執行命令取消ヲ提起スヘキモノニ非スト言渡シタルハ不法ナリ

○民事訴訟法第五百四十五條ノ規定ハ判決ニ依リ確定シタル請求ノ實體ニ付キ口頭辯論ノ終局後ニ至リ異議ノ原因發生シタル時ニ限り訴訟ヲ許シタルモノニシテ執行上ノ手續ニ過キサル場合ニ於テ適用スルヲ得ス

○判決確定後ニ生シタル事項ヲ以テ請求ノ理由トスルトキハ確定判決ニ對スル異議ノ訴ヲ提起スヘキモノトス

四三	二	五	二六	二七	二九
五五二	四八六	一五三五	二〇五	七九	八

○民事訴訟法第五百四十五條ハ單ニ執行費用ニ關シ異議アル場合ニ適用スヘキモノニ非ス

○民事訴訟法第五百四十五條ハ強制執行ノ方法若クハ其手續等ニ關スル形式上ノ異議ヲ主張スル場合ニ適用スヘキモノニ非スシテ確定シタル請求ニ關スル實體上ノ異議ヲ主張スル場合ニ限り適用スヘキモノナリ

○民事訴訟法第五百四十五條同第五百四十六條ニ規定シアル異議ノ訴ハ之ヲ同一ニ看倣シ之ニ對スル裁判モ亦同一ニ執行處分ノ取消若クハ變更ヲ爲シ得ヘキ法意ナリトス

○確定判決ノ強制執行上民事訴訟法第七百三十四條ノ規定ニ基キ第一審ノ受訴裁判所カ宣言シタル決定ニ對シ其決定自體ヲ不法トシ之ニ因ル執行ヲ不當トスル場合ハ同法第五百五十八條ノ規定ニ從ヒ抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘキモノニ該當シ判決ニ依リ確定シタル請求ニ關スル實體上ノ理由ニ非サレハ固ヨリ訴ヲ以テ其不服ヲ主張スヘキモノニ非ス

○請求ニ關スル債務者ノ異議ノ訴(民事訴訟法第五百四十五條)ニ於テハ原告ハ債權者ノ爲シタル強制執行ヲ許ササル旨ノ宣言ヲ求ムヘキモノトス

二九	三七	三三	三六	四二
二六	一	七五	四〇六	二七〇

○如上ノ訴ニ於テ原告カ強制執行ハ之ヲ取消スヘシトノ判決ヲ求メタル場合ト雖モ其請求原因ニシテ強制執行ヲ爲シタル債權者ノ債權ヲ否定シ執行ヲ避ケントスルニ在ル以上ハ之ヲ以テ不適法ノ訴訟ト爲スヲ得ス

○債務者カ強制執行ノ完結後請求ニ關スル異議ノ訴ヲ提起シタルトキハ異議ノ事由ノ何タルヲ問ハス直ニ其請求ヲ却下スルヲ當然トス

○民事訴訟法第五百四十五條ニ依ル異議ノ訴ハ確定シタル債務名義ノ效力ヲ排除スルヲ以テ目的ト爲スモノニシテ唯其債務名義ニ依リ現ニ差押ヘラレタル財産ノ解除ヲ目的トスル訴ニ非サレハ該訴狀ニ貼附スヘキ訴訟用印紙ハ債務名義ノ債權額ヲ標準ト爲ササルヘカラス

○民事訴訟法第五百四十五條ノ規定ニ基キ異議ノ訴ヲ提起スルニハ確定判決ノ存在ヲ前提ト爲スモノナレハ強制執行ノ基本タル執行命令ニシテ確定力ヲ有セサルトキハ同條ニ依リ執行ノ排除ヲ請求スルコトヲ得ス

○請求ニ關スル異議ノ訴ニ於テ現實ノ強制執行處分ヲ許ササル旨ノ宣言ヲ求ムルモ其訴ニ副ハサル申立ナリト謂フヲ得ス

○債務名義タル判決ニ因リテ確定シタル請求ニ對シ辨濟ヲ爲シタル者カ執行ヲ停メントスルニハ民事訴訟法第五百五十條第四號ノ如キ例外ノ場合ノ外ハ同法第五百四十五條ノ訴ニ依ルヘキモノニシテ同法第六百七十二條第一號ノ手續ニ依ルヘキモノニ非ス

○債務者カ不動産ノ競落許可決定アリタル後ニ於テ債權者ニ對シ債權額其他費用等ノ辨濟ヲ提供シ及ヒ供託手續ヲ完了シタルトキハ債務者ハ民事訴訟法第六百八十一條第二項ニ從ヒ抗告ヲ申立テ競落不許可ノ決定ヲ求メ得ヘク必スシモ同第五百四十五條ニ從ヒ請求ニ關スル異議ノ訴ヲ提起スルコトヲ要スルモノニ非ス

○債務名義ノ無効ヲ理由トシテ債務名義其者ニ關スル形式上ノ異議ヲ主張スルニハ執行文付與ニ關スル異議ノ申立ヲ爲スヘク請求ニ關スル異議ノ訴ニ依ルヘキモノニ非ス

○如上ノ場合ニ於テ訴訟費用ノ完済ヲ受ケタル當事者ノ申立ニ因リ其費用ニ關スル強制執行アリタルトキハ訴訟費用ノ完済ヲ爲シタル當事者ハ民事訴訟法第五百五十條第四號ノ規定ニ依リ執行ノ停止ヲ求メ又ハ同第五百四十五條ノ規定ニ依リ異議ノ訴ヲ提起シ其利益ヲ防禦スルコトヲ得ルモノトス(第八十四條六年七二五頁參照)

○執行異議ノ原因トスル一ノ目的カ異議者ノ曾テ起シタル訴訟ノ進行中

四二

二七〇

四三

二七

四四

三〇

四四

一一

三

五三

四

九六七

五

一一五三

六

一〇八九

六

七三

○ニ消滅シタルトキハ民事訴訟法第五百四十五條第二項ニ依リ判決確定後之ヲ主張スルヲ得ス而シテ當事者ノ一方カ契約ノ履行ヲ拒ミタルカ爲メ遂ニ訴訟起リ從テ期限ヲ經過シ或事柄ノ成就ヲ妨ケタルトキハ契約ノ履行ヲ拒ミタル者ニ於テ其條件既ニ成就シタルト同一ノ責ニ任セサルヲ得ス

○民事訴訟法第五百四十五條第二項ハ訴訟當事者カ防禦方法ニ資スルヲ得ヘキ事由ハ其種類ノ如何ヲ問ハス之ヲ主張スルコトヲ得ヘカリシ口頭辯論ニ於テ主張スルコトナク後日ニ留保シ以テ異議トシテ主張スルコトヲ許ササルモノトス

○強制執行ノ債務名義タル判決ノ憑據ト爲リタル法律行為カ取消シ得ヘキモノニシテ債務者カ其判決ノ口頭辯論終結前之ヲ取消スコトヲ得ヘカリシ場合ト雖モ口頭辯論ノ終結後始メテ取消ノ意思表示ヲ爲シ之カ爲メニ法律行為ノ無効ニ歸シタルコトヲ原因トシテ異議ヲ主張スルカ如キハ民事訴訟法第五百四十五條第二項ノ所謂口頭辯論終結後ニ異議ノ原因ヲ生シタルモノナリトス

(聯) ○仲裁判斷ニ付シタル執行判決ニ基キ強制執行ヲ爲ス場合ニ於テ其債務名義タル判決ノ口頭辯論終結前債務者カ相手方ニ對シ相殺ヲ爲スニ適

シタル債權ヲ有スルトキト雖モ口頭辯論ノ終結後始メテ相殺ノ意思表示ヲ爲シ債務ノ消滅シタルコトヲ原因トシテ異議ヲ主張スルカ如キハ民事訴訟法第五百四十五條第二項ノ所謂口頭辯論終結後ニ異議ノ原因ヲ生シタルモノナリトス

(反對)

債務者カ強制執行ノ債務名義タル判決ノ口頭辯論前ニ於テ辨濟期ニ在ル債權ノ讓渡ヲ受ケタル場合ニハ該判決ノ言渡後ニ至リ債權者ニ對シテ相殺ノ意思表示ヲ爲シ異議ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

債務者カ強制執行ノ債務名義タル判決ノ口頭辯論終結前債權者ニ對シテ相殺ニ適シタル債權ヲ有シ且其債權ノ辨濟期ニ在リタル場合ニ於テハ縱令未タ相殺ノ意思表示ヲ爲ササルモ民事訴訟法第五百四十五條第二項ニ所謂異議ノ原因既ニ發生シタルモノトス

○民事訴訟法第五百四十五條第三項ノ規定ハ公正證書ノ執行力アル正本ニ基ク強制執行ニ於テ債務者ヨリ異議ノ訴ヲ提起スル場合ニモ亦之ヲ適用スヘキモノトス

○民事訴訟法第五百四十五條第三項ノ規定ハ異議ノ訴提起ノ當時既ニ其原因ノ生シタルモノニシテ債務者カ主張スルコトヲ得ヘキ數箇ノ異議ハ總テ同時ニ之ヲ主張スルコトヲ要スルノ義ニ外ナラス

(同主旨)

二六

三二〇

四〇

八二七

四二

五八

四三

七六四

三九

一五八二

四〇

八七

四〇

七九七

四三

一七九

民事訴訟法第五百四十五條第三項ノ規定ハ債務者カ強制執行ニ對スル異議ノ訴ヲ提起スルニ當リ其異議ノ原因數箇アルトキハ訴ト同時ニ之ヲ主張スヘキ趣意ナリトス從テ第二審ニ至リ第一審ニ於テ提出セザリシ異議ノ原因ヲ新ニ主張スルカ如キハ之ヲ許スヘキモノニ非ス民事訴訟法第五百四十五條第三項ノ規定ハ數箇ノ異議カ同時ニ存スルトキハ各異議ヲ別訴訟ニ於テ主張スルコトヲ得サルハ勿論同一ノ訴訟ニ在テモ下級審ニ於テ主張シ得タル異議ヲ其審級ニ提出セスシテ上級審ニ至リ新ニ提出スルカ如キハ之ヲ許ササル趣意ナリトス

○民事訴訟法第五百四十五條ノ異議ノ訴提起ノ當時債務者カ數箇ノ異議ヲ有シ同時ニ主張スルコトヲ得ヘカリシモノヲ主張セスシテ其訴訟中ニ追加スルカ如キハ訴ノ原因ヲ變更スルモノトシテ許スヘキニ非スト雖モ被告ニ於テ何等ノ異議ヲ留メサルトキハ之ヲ追加スルコトヲ妨ケス

○判決ニ因リ確定シタル權利關係ニ付キ裁判外ノ和解契約成立シタル場合ニ於テ債權者カ其判決ニ基キ強制執行ヲ爲シタルトキハ債務者ハ民事訴訟法第五百四十五條ノ訴ヲ以テ判決ノ執行力ヲ排斥スルコトヲ得ヘシト雖モ當事者カ契約ヲ以テ和解契約ヲ廢罷シタルトキハ判決ノ執行力ヲ排除スヘキ事由ハ消滅シ判決ハ完全ニ其執行力ヲ保有スルヲ以テ之ニ基キ爲シタル強制執行處分ハ有效ナリトス

〔第五百四十六條〕

○民事訴訟法第五百四十五條同第五百四十六條ニ規定シアル異議ノ訴ハ之ヲ同一ニ看做シ之ニ對スル裁判モ亦同一ニ執行處分ノ取消若クハ變更ヲ爲シ得ヘキ法意ナリトス

○債務者ハ民事訴訟法第五百四十六條ニ依リ承繼ニ關スル異議ヲ主張シテ一箇獨立ノ訴ヲ提起スルハ固ヨリ妨ナキ所ナレトモ請求ニ關シテ數箇ノ異議ヲ主張シ同時ニ承繼ヲ爭フコトヲ以テ一箇ノ異議ト爲ストキハ是レ本來請求ニ關スル一箇ノ訴ニシテ二箇ノ訴ヲ一箇ノ訴ニ併合セラルモノニ非ス

〔第五百四十七條〕

○民事訴訟法第五百四十七條ニ謂フ強制執行ノ停止トハ執行力其モノヲ停止スルノ謂ニ非スシテ執行手續即チ著手シタル差押ノ遂行若クハ競賣ノ如キ行爲ヲ停止スルノ謂ナリ

〔第五百四十九條〕

○強制執行ノ目的物タル係争物件ニ對シ第三者カ所有權ヲ主張スル訴訟ハ民事訴訟法第五百五十八條第六百八十三條ニ關係ナクシテ同法第五百四十九條ニ依リ起訴スヘキモノトス

○強制執行ニ對スル第三者ノ異議ノ訴ハ既ニ開始セラレタル強制執行行

三

二六二

四〇

四七二

四

一七九

七

一三八

三

六 七五

四

六六五

三六

一三〇一

二六

三 二七

以テ異議ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス

三

六

○占有者ノ意思ニ反シテ差押ヲ爲シタルコトヲ異議ノ理由トスルトキハ民事訴訟法第五百四十四條ニ依ルヘキモノナルヲ以テ斯ノ如キ理由ハ第三者カ所有權ヲ主張シテ異議ヲ申立ツル場合ニハ之ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス

三

四三

○強制執行上ノ訴ト雖モ其訴訟手續ハ通常訴訟手續ナルヲ以テ其訴訟手續ニ於テ反訴ヲ起スコトヲ得ルモノトス

四

二二

○民事訴訟法第五百六十五條第五百四十九條ノ規定ニ依ル強制執行異議ノ訴ハ第三者ヨリ差押債權者ニ對シ直接ニ給付ノ請求ヲ爲スヘキモノニ非ス

六

一六三

○強制執行ニ對スル異議ノ訴ハ其執行ヲ許ササル旨ノ宣言ヲ求ムル民事訴訟法上ノ訴ナルヲ以テ強制執行カ債務者ニ屬セサル財産ニ對シテ實施セラレ且訴ヲ提起シタル第三者カ強制執行ノ續行ニ因リ害セララル權利ヲ有シ訴ヲ提起スル利益ヲ有スルトキハ第三者ノ異議ノ訴ニ依ル請求ハ正當ナリトス

六

五〇二

○執行參加ノ訴ニ於テ債務者ヲ共同被告ト爲ストキハ強制執行ニ對スル消極的異議ノ訴ニ積極的所有權確認訴訟ヲ包含スルモノト推定セラル

而シテ執行參加ノ當事者雙方ヲ共同被告ト爲シ所有權確認ノ主參加訴訟ヲ提起スルハ執行參加ノ當事者間ニ爭アル所有權ノ確認ニ付キ自己ニ所有權アルコトヲ確認セシメントスルモノナルヲ以テ此主參加訴訟ハ適法ナリトス

三四

九

二三

○民事訴訟法第五百四十九條ニ依ル異議ノ訴ニ於テ債務者ヲ共同被告ト爲スヘキトキハ債務者カ目的物ニ關シ第三者ノ所有權其他ノ權利ヲ爭フモノナレハ債務者ニ對スル關係ニ於テハ主トシテ實體權ノ實行ヲ目的トスル訴ナリトス

四〇

六三七

〔第五百五十條〕

○強制執行ヲ停止スルハ其執行ニ因リ他日償フコト能ハサル損害ヲ生スヘキ虞アルカ爲メ之ヲ豫防スルニ外ナラス從テ保證ヲ立テシメ強制執行ヲ爲スヘキコトヲ命シタル場合相手方ヨリ更ニ保證ヲ立テ執行停止ヲ申請スルモ之ヲ許容スヘキ法規ナキニ依リ其申請ハ採用スヘキモノニ非ス

三〇

一〇

四

○民事訴訟法第五百五十條第一號ノ中段以下ニ「又ハ強制執行ヲ許サストシテ宣言シ若クハ其停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本」トアル規定ハ強制執行中物件差押ノ解放ヲ命スル旨ヲ記載シ

タル執行力アル判決ノ正本ヲモ包含スヘキ法意ナリ

○當事者ノ一方カ強制執行停止命令ノ申請ヲ爲スニ當リ相手方ニ生スル

コトアルヘキ損害ヲ擔保スル爲メ保證金ヲ供託シタル場合ニ於テ相手

方ハ供託者ニ對シ特約アル場合ハ格別然ラサル場合ニ於テハ供託金還

付ノ申請ニ同意ヲ與フヘキ義務ヲ有スルモノニ非ス

○債權者ノ主張スル債權額カ現實ノ債務額ニ超過スルコトアルモ債務者

ハ辨濟ノ提供ノミヲ以テ強制執行ヲ免ルヘキモノニ非ス

○執行スヘキ判決ノ後ニ債權者カ義務履行ノ猶豫ヲ承諾シタル旨ヲ記載

シタル證書ヲ提出シタルトキハ強制執行ヲ停止又ハ制限スヘキモノナ

ルヲ以テ斯ノ如キ場合ハ執行ヲ續行スルコトヲ得サルモノトス

○債務名義タル判決ニ因リテ確定シタル請求ニ對シ辨濟ヲ爲シタル者カ

執行ヲ停メントスルニハ民事訴訟法第五百五十條第四號ノ如キ例外ノ

場合ノ外ハ同法第五百四十五條ノ規定ニ依ルヘキモノニシテ同法第六百

七十二條第一號ノ手續ニ依ルヘキモノニ非ス

○債權ノ強制執行トシテ發セラレタル轉付命令カ第三債務者及ヒ債務者

ニ送達セラレタル以上ハ強制執行ハ終了シ債權者ノ債權ハ辨濟セラレ

タルヲ以テ債權者ハ更ニ同一債務名義ニ基キ強制執行ヲ爲スコトヲ得

サルモノトス從テ停止スヘキ強制執行アルコトナケレハ停止命令ヲ發
スヘキ限ニ在ラス

○如上ノ場合ニ於テ訴訟費用ノ完濟ヲ受ケタル當事者ノ申立ニ因リ其費

用ニ關スル強制執行アリタルトキハ訴訟費用ノ完濟ヲ爲シタル當事者

ハ民事訴訟法第五百五十條第四號ノ規定ニ依リ執行ノ停止ヲ求メ又ハ

同第五百四十五條ノ規定ニ依リ異議ノ訴ヲ提起シ其利益ヲ防禦スルコ

トヲ得ルモノトス(第八十四條六年七二六頁參照)

『第五百五十八條』

○假處分決定ニ對シ不服ヲ申立ツルトキハ民事訴訟法第七百四十四條第

一項及ヒ第七百五十六條ニ依リ異議ヲ申立ツルコトヲ得ヘキモ同第五

百五十八條ニ從ヒ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

○假差押ノ爲メ供託シタル保證金還付ノ申請ヲ却下シタル決定ハ強制執

行ノ手續上口頭辯論ヲ經スシテ爲シタル裁判ナルヲ以テ之ニ對シテハ

抗告ヲ爲スヲ得ヘシ

○債權轉付命令ニ對シ第三者ノ地位ニ在ル裁判所カ差押債權者ノ供託證

書還付ノ申請ヲ却下スルモ其裁判ハ固ヨリ強制執行ノ手續ニ屬セサレ

ハ民事訴訟法第五百五十八條ニ所謂裁判ニ非ス而シテ斯ノ如キ裁判ニ

(第五百五十八條)

三	三〇	六	五	四	三	三	三	三
九	三							
二二	二七	七六	二三八	九六	六五	一八四	七〇六	二五八

付テハ同法中抗告ヲ許シタル規定ナシ

三六

二五六

○確定判決ノ強制執行上民事訴訟法第七百三十四條ノ規定ニ基キ第一審ノ受訴裁判所カ宣言シタル決定ニ對シ其決定自體ヲ不法トシ之ニ因ル執行ヲ不當トスル場合ハ同法第五百五十八條ノ規定ニ從ヒ抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘキモノニ該當シ判決ニ依リ確定シタル請求ニ關スル實體上ノ理由ニ非サレハ固ヨリ訴ヲ以テ其不服ヲ主張スヘキモノニ非ス

三六

四〇六

○質權ノ目的物ノ強制管理開始ノ決定アリタル場合ニ於テ質權者ハ所謂強制管理ヲ許スコトヲ妨クル第三者ニ外ナラサレハ訴ヲ以テ異議ヲ主張スルコトヲ得ルハ勿論ナレトモ該決定ニ對シテ抗告ヲ申立ツルコトヲ得ヘキモノニ非ス

三六

七三二

○民事訴訟法第五百五十八條ノ規定ハ同法第七百四十八條及ヒ第七百五十六條ニ依リ假處分ノ執行手續ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ル裁判ニ準用スヘキモノニシテ第一審裁判所カ決定ヲ以テ假處分ノ取消ヲ命シタル場合ニ之ヲ準用スヘキモノニ非ス

三六

一一二〇

○裁判所カ強制執行ノ手續ニ關シ爲シタル決定ト雖モ民事訴訟法ニ於テ特ニ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ掲ケサル場合ニハ之ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ス

四二

六八九

○日本帝國領事ノ發シタル差押解除命令ニ對シ不服ヲ唱フルニハ先ツ民事訴訟法第五百四十四條ニ從ヒ異議ノ申立ヲ爲スヘキモノニシテ其裁判ニ對シ抗告ヲ爲スハ格別差押解除命令ニ對シ直ニ抗告ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス

四二

一〇八四

○債權ニ對スル強制執行ハ執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ爲スモノナレハ裁判所カ差押命令及ヒ轉付命令ヲ發スルハ債權ニ對スル強制執行ノ方法ニ外ナラス從テ利害關係人カ之ニ對シ異議アルトキハ民事訴訟法第五百四十四條第一項ニ依リ異議ノ申立ヲ爲シ裁判ヲ受ケタル後ニ非サレハ同法第五百五十八條ニ依ル抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

四五

一五三五

(同法)

○不動産強制競賣開始決定ニ對シ不服ノ點アルトキハ民事訴訟法第五百四十四條ノ規定ニ依リ執行裁判所ニ向ヒ異議ノ申立ヲ爲スヘキモノニシテ同法第五百五十八條ノ規定ニ據リ抗告ヲ爲スカ如キハ法律ノ許ス所ニ非ス
○不動産強制競賣開始決定ニ對シ不服ノ點アルトキハ民事訴訟法第五百四十四條ノ規定ニ據リ執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲シ其裁判ヲ受クヘキモノニシテ同法第五百五十八條ノ規定ニ依リ抗告ヲ爲スコトヲ得ス
○不動産強制管理手續ノ開始決定ハ強制執行ノ方法ナルヲ以テ之ニ對シ不服ノ點アレハ民事訴訟

四三

五五二

三六

一一五五

訟法第五百四十四條ノ規定ニ依リ其決定ヲ爲シタル執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲シ其裁判ニ對シ抗告スヘク直ニ之ニ對シ抗告ヲ爲スヲ得サルモノトス

(反對)

不動産競賣開始決定ヲ不當ナリトスル場合ハ即チ強制執行ノ手續ニ付キ口頭辯論ヲ經スシテ爲シタル裁判ニ對スル不服ノ申立ナレハ民事訴訟法第五百五十八條ノ規定ニ依リ即時抗告ヲ以テスルコトヲ得ヘキモノトス

○執行文付與ニ對スル異議ノ裁判ハ民事訴訟法第五百五十八條ニ所謂強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ル裁判ノ一ニ該當シ從テ其裁判ニ對シテハ同條ニ據リ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

(第五百五十九條)

『第五百五十九條』

○民事訴訟法施行以前ニ行ハレタル勸解ハ和解ノ勸告ニ外ナラスシテ當事者カ裁判所ノ勸告ニ服從シテ濟方ト爲リタルトキハ最早強制的處分ヲ爲スノ必要ナカリシヲ以テ之ヲ以テ民事訴訟法上ノ和解ノ如ク強制執行ノ債務名義ト爲ササリシモノトス

○金圓貸借ノ公正證書ヲ作成セル場合ト雖モ苟モ其貸借ニシテ眞實ニ成立シタルモノニ非ス全然虛偽ノ事項ヲ記載シタルノ事實證明セララルニ於テハ強制執行ノ債務名義ヲ發生スルノ效力ナシ

○公正證書ニ消費貸借及ヒ抵當權ヲ設定セシ旨ノ記載アルモ實際證書作成ノ後登記ヲ經テ貸借ノ目的物ヲ授受シタルトキハ該證書ハ民事訴訟法第五百五十九條ニ規定スル強制執行ノ債務名義ト爲スヲ得スト雖モ其消費貸借及ヒ抵當權設定ハ必スシモ無効ニ非サルノミナラス判決ヲ竣タスシテ競賣法ニ依リ其抵當權ノ實行ヲ爲スコトヲ妨ケス

○未タ發生セサル消費貸借債權ニ對シ豫メ強制執行ヲ受クルコトヲ承諾シタル旨ヲ記載シタル公正證書ハ強制執行ノ債務名義ト爲スコトヲ得サルモノトス

(同義旨)

公正證書ノ記載事項ハ判決ト同シク執行文ニ依リ強制執行ヲ爲シ得ヘキ效力ヲ有ス從テ其證書ニ記載スル所ハ現實ノ事實ナルコトヲ必要トシ苟モ記載事項ニシテ實際ノ事實ニ吻合セサルトキハ其公正證書ハ以テ強制執行ノ基本タル債務名義ト爲スコトヲ得ス

公正證書ニ金錢貸借ヲ爲シタル旨ノ記載アルモ實際證書作成ノ後金錢ヲ授受シタルトキハ其記載事項ハ現實ノ事實ニ吻合セサルモノナレハ該證書ハ以テ強制執行ノ債務名義ト爲スコトヲ得ス

○公正證書ニ於テ其作成前私署證書ヲ以テ成立シタル消費貸借ヲ承認シタル場合モ民事訴訟法第五百五十九條第五號ニ所謂一定ノ金額ノ支拂ヲ目的トスル請求ニ付キ作リタル公正證書ニ該當スルモノトス

二

四八六

三六

四四三

七

一三〇〇

二

四一一

三七

一〇一九

四三

六八四

四四

八九九

三八

一〇一七

四〇

五八五

四五

六五

○公正證書ノ記載ハ事實ニ吻合スルコトヲ要スルカ故ニ證書面ニハ一定ノ給付ヲ爲スヘキコトノ記載アルモ其實債務者カ何等ノ給付ヲ爲スヲ要セサルカ縱令之ヲ要スルモ目的物ノ全然相違スルカ如キ場合ニハ其公正證書ハ效力ナキモノトス

○公正證書記載ノ金額ノ一部カ事實ニ吻合セサルモ其他カ之ニ吻合スル場合ニ於テ其事實ニ吻合スル部分ニ付キ該證書ヲ以テ債務名義ト爲スハ妨ナキモノトス

『第五百六十條』

○強制執行ノ債務名義タル公正證書ノ期限ニ付キ別ニ特約ヲ爲シ藝妓營業契約違背ノトキニ至リ始メテ其期限ニ依ルヘキコトヲ約定シタル場合ニ於テ其強制執行ニ對シ該特約アルカ爲メニ未タ期限到來セサルコトヲ理由トシテ異議ヲ主張スル者ハ其特約履行中ナルコトヲ立證セサルヘカラス

○公證人ノ執行文付與ニ關スル異議ノ申立ニ付キ爲シタル裁判ニ對シテハ抗告ヲ申立ツルコトヲ得サルモノトス

○公證人規則第四十五條第二項ノ規定ハ同規則施行後ノ實施ニ係ル民事訴訟法ニ依リ自ラ廢止ニ歸シ爾後公正證書ノ執行力アル正本ノ作成ニ付テハ同法第五百六十條第五百六十二條第一項第五百十七條ニ從ヒ判決正本ニ對スル執行文付與ニ準シ正本ヲ付與スル公證人署名捺印スルハ足ルモノトス

○公正證書ニ依ル債務名義ハ裁判上確定ノ效力ヲ有スルモノニ非サレハ債務者ハ執行文付與ニ關スル異議ノ申立ニ依リ債務名義其モノノ無効ヲ主張スルコトヲ得ヘキヲ以テ確定判決ニ依ル債務名義ト其效力ニ於テ大ナル差等アルモノトス從テ苟モ公正證書ニ依ル債務ニ付キ當事者間争ノ存スル以上債權者ハ公正證書ニ依ル債務名義ヲ有スルニ拘ハラズ尙ホ訴訟ヲ提起シテ判決ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

『第五百六十二條』

○民事訴訟法第五百六十二條ハ證書ノ執行カ條件ニ繋ル場合ニ於テハ公證人ヲシテ執行文付與ノ際其條件到來シタル證明アルヤ否ヤヲ審査シ之アリト判斷シタル場合ニ限リ執行文ヲ付與セシムル法意ナリトス

○公證人カ民事訴訟法第五百五十九條同第五百六十二條ノ規定ニ從ヒ公正證書ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲メニ執行力アル正本ヲ付與スルニ當リ其承繼人ハ果シテ正當ノ者ナルヤ否ヤヲ判斷スルノ必要アルトキハ自ラ之カ判斷ヲ爲スノ權限ヲ有スルモノトス

四 一三五

四 一三五

四五 二六二

三 二二四

五 六〇八

七 六七

四二 八〇九

四二 二〇九

○公證人カ其權限内ニ於テ成規ノ方式ニ依リ作リタル證書ニシテ一定ノ金額ノ支拂又ハ他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ以テ目的トスル請求ニ付キ作リタルモノハ縱令其請求權カ未必條件ニ繋ル場合ト雖モ執行力アル正本ヲ付與スルコトヲ妨ケス

○連帶債務者數名アル場合ニ於テ其連帶債務者ノ一名ニ對スル強制執行ノ爲メ特ニ執行シ得ヘキ債權額ヲ明記セス債權者ニ公正證書ノ執行力アル正本ヲ付與スルモ違法ニ非ス

○公證人規則第四十五條第二項ノ規定ハ同規則施行後ノ實施ニ係ル民事訴訟法ニ依リ自ラ廢止ニ歸シ爾後公正證書ノ執行力アル正本ノ作成ニ付テハ同法第五百六十條第五百六十二條第一項第五百十七條ニ從ヒ判決正本ニ對スル執行文付與ニ準シ正本ヲ付與スル公證人署名捺印スレハ足ルモノトス

○請求ニ關スル異議ノ訴ハ債務名義ノ有效ニ存在スルコトヲ前提トシ其形式的ニ有スル執行力ノ廢棄ヲ目的トスルモノナルヲ以テ其性質上債務名義其モノニ關スル形式上ノ異議ヲ理由トスルコトヲ得サルモノトス

(同主旨)

民事訴訟法第五百六十二條第三項以下ノ強制執行ニ關スル實體上ノ異議ノ訴ニ於テハ請求ニ關シ實體法上執行ヲ受クヘカラサル理由ヲ主張シ得ルニ止マリ形式上ノ異議ノ理由ヲ主張スルコトヲ許サス

○公正證書カ債務名義タル場合ニ於テ之ニ基ク強制執行ニ對スル請求ニ關スル異議ノ訴ニ付テハ其異議ノ原因カ公正證書作成以前ニ生シタルト否トヲ問ハサルモノトス

(同主旨)

公正證書ノ執行力アル正本ニ基ク強制執行ニ對スル請求ニ關スル異議ノ訴ニ就テハ其異議ノ原因カ公正證書作成以前ニ生シタルト其以後ニ生シタルトヲ問フノ要ナシトス

○請求ニ關スル異議ノ訴ノ原因ノ有無ハ判決ノ基本タル口頭辯論終結當時ノ狀態ニ依リ定ムヘキモノナレハ縱令起訴ノ當時ハ原因ノ未タ完備セサル所アリトスルモ判決當時完備セル以上請求ハ認容セラレヘキモノトス

○公正證書ニ基ク強制執行ノ場合ニ於ケル請求ニ關スル異議ニ於テハ實體法上執行ヲ受クヘカラサル事由カ本來存スルモノナルト後ニ生シタルモノナルトニ拘ハラズ之ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス

第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制

民事訴訟法

強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 通則

四	五	三	四
一五六四	六〇八	二七三	六四三

七	五	三	五	四二
一〇七四	二〇二四	二六	二〇九	四八六

○各法律ニ於テ使用シタル占有ナル語ハ必スシモ民法ニ所謂占有ト同一ノ意義ヲ有スルモノニ非ス

〔第五百六十六條〕

○動産ノ差押ハ執達吏ニ其占有ヲ移シ其使用ヲ禁止スルヲ以テ當然ノ結果トス

(刑)

○民事訴訟法第五百六十六條ニ依レハ債務者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ封印其他ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヲ得ヘキモノナルヲ以テ差押ヲ爲シタルハトテ常ニ封印ヲ爲シタルモノト云フコトヲ得ス

○執達吏カ債權者ノ指示ニ從ヒ或物件ヲ債務者ノ占有シ居ル所有物ナリト認メテ假差押ヲ爲シタル後確定判決ニ依リ該物件ノ所有第三者ニ屬スルコトヲ認メラレタルトキハ執達吏ニ於テ委任行爲ヲ實行スルニ當リ委任者ノ指示ニ從ヒ物件ノ所有者ヲ誤認シタルニ過キスシテ法規ニ違背セル假差押ヲ爲シタルモノニ非ス

(刑)

○執達吏カ債務者ノ有體動産ヲ差押ヘテ之ヲ保管スルモ其競賣得金ヲ債權者ニ配當セサル以上ハ債權者ハ未タ財産上ノ利益ヲ受ケタルモノト云フヲ得ス

○株券ニ對スル強制執行ヲ爲スニハ執達吏之ヲ占有セサルヘカラス故ニ

縦令質權者カ強制執行ノ爲メ擔保物タル株券ノ占有ヲ執達吏ニ移付スルモ其質權ノ喪失ヲ惹起スヘキモノニ非ス

○民事訴訟法第五百六十六條ノ債務者ノ占有及ヒ同第五百六十七條ノ債權者又ハ第三者ノ占有ナルモノハ民法ニ於ケル占有ナル語ノ用例ト異ナリ單ニ物ニ對スル事實上ノ力ヲ指シ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テスル物ノ所持ヲ指スモノニ非サレハ間接占有者ノ如キハ右兩條ノ占有者ニ該當セス

三六

一〇五一

三

七九五

三

七九五

三

七九五

〔第五百六十七條〕

○執達吏カ債務者ノ所有物件ヲ占有スル第三者ノ住居ニ臨ミ差押ヲ爲サントスルニ方リ其家族ニ於テ執行ヲ拒ミタルニ拘ハラス差押ヲ遂行シタリトテ民事訴訟法第五百六十七條ニ違背セルモノト云フヲ得ス

○民事訴訟法第五百六十六條ノ債務者ノ占有及ヒ同第五百六十七條ノ債權者又ハ第三者ノ占有ナルモノハ民法ニ於ケル占有ナル語ノ用例ト異ナリ單ニ物ニ對スル事實上ノ力ヲ指シ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テスル物ノ所持ヲ指スモノニ非サレハ間接占有者ノ如キハ右兩條ノ占有者ニ該當セス

○受任者受寄者運送人間屋又ハ事務管理者ノ如キハ自己ノ爲メニスル意

三

七九五

三六

七六四

思ナキカ爲メ民法上ノ占有者ニ非サレトモ差押ノ目的物ニ對シ事實上
ノ力ヲ有スルヲ以テ民事訴訟法第五百六十七條ノ第三者ニ該當スルモ
ノトス

〔第五百七十一條〕

○差押ハ債權者ノ委任ニ基因スルモノニシテ之ヲ繼續セシムルト否トハ
債權者ノ自由ニ存スルモノナレハ差押物ノ保存ニ付キ特別ノ處分ヲ必
要トスル場合ニ於テ執達吏カ適當ノ方法ヲ講スルニ注意スヘキハ債權
者ノ責任ナリ從テ差押物ノ保存方法其當ヲ得サルカ爲メ損害ヲ生セシ
メタル場合ニ於テ債權者ニ故意又ハ過失アルトキハ債權者モ亦一般不
法行爲ノ責ヲ免レサルモノトス

〔第五百七十四條〕

○執達吏カ金錢ヲ差押ノ目的トシテ占有スルトキハ之ト同時ニ其金錢ハ
債權者ニ交付セラレタルト同一ノ效力ヲ生シ其時ヨリ債權者ノ所有ニ
歸屬スルモノト解スルヲ相當トス

〔第五百七十九條〕

○動産ノ強制執行ニ關スル民事訴訟法第五百七十九條ニハ「執達吏賣得
金ヲ領收シタルトキハ債權者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス」トア

リ從テ執達吏カ動産ノ賣得金ヲ領收スルト同時ニ其金錢ハ債權者ニ交
付セラレタルト同一ノ效力ヲ生シ其瞬間ヲ以テ該金錢ハ債權者ノ所有
ニ歸シタルモノトス

○債務者カ有スル不動産ノ公賣ニ付テハ民事訴訟法第五百七十九條ノ如
キ特別ノ規定ナケレハ其公賣代金ハ依然債務者ノ所有ニ屬スルモノニ
シテ各債權者ノ共有ニ非ス

○民事訴訟法ノ規定ニ因ル競賣賣得金ニ關スル法律上ノ推定ハ固ヨリ債
權者カ賣得金ニ對スル配當要求ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ妨クル理由ト
爲ルモノニ非ス

〔第五百八十一條〕

○債權者カ其債務者ニ屬スル有價證券ヲ第三者ヨリ取立ツルニ當リ民事
訴訟法第五百八十一條ニ依リ相場アルモノハ賣却日ノ相場ヲ以テ適宜
ニ之ヲ賣却シ相場ナキモノハ一般ノ規定ニ從ヒ競賣シタルトキニ於テ
強制執行ハ終了スヘキモノトス

○執達吏ハ有價證券ヲ差押ヘタル場合ニ當事者ヨリ賣却ノ日ヲ指定シ其
日ノ相場ヲ以テ換價スヘキ旨ノ申立アルモ必スシモ其旨趣ニ拘束セラ
ルルモノニ非ス唯現ニ擔當スル事件ノ緩急ニ從ヒ遲滯ナク換價ノ手續

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ
對スル強制執行 有體動産ニ對スル強制執行

三

七九五

七

一三六五

七

二七二

三六

一三七〇

三七

一四二一

七

五五五

三四

三

三三

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 有體動産ニ對スル強制執行

ヲ完結スルヲ以テ足レリトス

○強制執行上有價證券ノ換價價格ハ債權者ノ任意ニ定メ得ヘキモノニ非ス 執達吏ニ於テ規則ニ依リ處分スヘキモノナルカ故ニ縱令債權者カ其換價價格ニ付キ執達吏ニ對シテ自己ニ不利益ナル申込ヲ爲スモ民事訴訟法ニ所謂自白ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス

○有價證券ノ名義人カ債務者以外ノ第三者ニシテ質權者カ其有價證券ノ上ニ有效ニ質權ヲ取得シタルトキハ民事訴訟法第五百八十二條ニ依リ爲スヘキ有價證券ノ名義書換ニ必要ナル陳述ハ其有價證券ノ名義人ニ代リ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

〔第五百八十九條〕

○執行力アル正本ニ因ラスシテ爲ス競賣金ノ配當要求ハ債務者ノ財産中他ニ差押フヘキモノナキカ又ハ其財産アルモ之カ辨濟ニ不足ヲ生スル場合ニ限ルモノトス

○民事訴訟法第五百八十九條ニ所謂民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者トハ民法上優先權ヲ有スル者ノミナラス普通ノ債權者モ亦之ヲ包含スルモノトス

○配當要求ノ原因タル債權證書ハ確定日附アルヲ要セスシテ配當ノ結果

間接ニ第二者ニ對シ其效力ヲ及ホスモノトス

〔第五百九十一條〕

○配當ヲ要求スル債權ニ對シ債務者カ之ヲ認メテ爭ハサル場合ニ於テ其債權ヲ虛偽ナリ不成立ナリト主張スル第三者ハ之ヲ立證スル責任アリ

〔第五百九十二條〕

○民事訴訟法第五百九十二條ノ規定ハ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スルモノト否トヲ區別セサルニ因リ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル者モ亦同條ニ依リ競賣期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得ルハ勿論ナリ

第三款 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

○債務者ハ第三債務者ヨリ金錢ヲ支拂ヒタルトキ自己ノ債務ノ支拂ヲ爲シタルモノト看做シ其義務ヲ免レ得ヘキモ支拂ヲ受ケタル差押債權者カ其取立ヲ届出テスシテ他ニ配當要求ヲ爲ス債權者ノ存スルニモ拘ハラス自己ノ債權ニ宛テ辨濟ヲ受ケタルモノト云フカ如キハ固ヨリ之ヲ採用スルヲ得ス

○同一ノ債權ニ對スル二箇以上ノ差押命令ハ其前後ヲ問ハス均シク差押ノ效果ヲ發生スレトモ差押債權者ハ更ニ取立命令又ハ轉付命令ヲ受ク

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

三七	三六	七	二元	三三
一六五	二七一	一九	三	三九
				三九
				三九
				三九

三五	三五	三五	三五	三五
二	二	二	二	二
七九	七九	七九	七九	七九

ルニ非サレハ執行行為ヲ爲シ得サルモノトス

○金錢債權ニ對スル強制執行ニ於テ執行裁判所カ債權差押命令ヲ發シタ
ル後債務者ニ債務名義ヲ送達スルハ不法ナレトモ差押命令及ヒ轉付命
令ニシテ適法ニ第三債務者ニ送達セラレタルトキハ其執行手續既ニ終
了シタルモノナレハ利害關係人ハ執行異議ノ方法ニ依リ其不法ヲ主張
スルコトヲ得ス

○手形債權ニ基ク場合ト雖モ強制執行ヲ爲スニ際シ債務者ニ手形ヲ呈示
スルコトヲ必要トセス

○元本債權ノ差押ハ其後ニ生スヘキ利息ニ付テハ格別既ニ生シタル利息
債權ニ對シテハ當然其效力ヲ及ホスヘキモノニ非ス

○開通後滿一今年間讓渡スコトヲ得サル電話加入權ハ縱令裁判ノ結果ニ
因ルモ之ヲ移轉シ得ヘキモノニ非サレハ強制執行ニ因リ之ヲ競賣シ得
サルヘク從テ又差押フルコトヲ得サルモノトス

○差押命令及ヒ轉付命令ノ如キ法律ノ規定ニ依ル命令ハ適法ノ手續ニ依
リ其執行ヲ停止シ若クハ之ヲ取消ササル限ハ其效力ヲ失ハサルモノニ
シテ強制執行ノ基本タル債務名義カ虛無ノ債權ニ基ク無効ノモノタル
一事ニ因リ當然無効ニ歸スヘキモノニ非ス

(同左)

差押命令及ヒ轉付命令ノ如キ法律ノ規定ニ依ル命令ハ適法ノ手續ニ依リテ其執行ヲ停止シ若
クハ之ヲ取消ササル限リ其效力ヲ失フモノニ非ス故ニ強制執行ノ基本タル債務名義ノ無効タ
ル一事ニ因リ如上ノ命令カ當然無効ニ歸スヘキ理ナシ

○如上ノ債務名義ニ基キ發セラレタル差押命令及ヒ轉付命令ハ適法ノ手
續ニ依リ停止若クハ取消サレサル以上形式上確定シ債務者又ハ第三債
務者ハ之ヲ拒否スルコトヲ得スト雖モ之カ爲メニ實體上ノ效力ヲ生シ
債權者ニ非サル者カ債權者ト爲ルヘキモノニ非ス

○債權ニ對スル假差押債權者ハ他ノ債權者ノ強制執行ニ對シテ配當要求
ヲ爲シタルト同一ノ權利ヲ有スルモノトス

(第五百九十四條)

『第五百九十四條』

○株主カ會社ニ對シ利益ノ配當ヲ請求シ得ヘキ權利ハ利益配當ニ關スル
株主總會ノ決議ニ因リテ始メテ發生スルモノニ非スシテ其決議以前ニ
在リテモ後日配當金ノ支拂ヲ受クヘキ債權ノ性質ヲ具有スルモノナレ
ハ民事訴訟法上之カ差押ヲ許スヲ妨ケス

(同左)

株式會社ノ利益配當ノ債權差押ハ株主總會ニ於テ配當ノ金額ヲ確定セサルモ訴訟法上之ヲ爲
スコトヲ妨ケスト雖モ同債權ノ轉付命令ニ至リテハ株主總會ニ於テ配當金額ヲ確定スルニ非

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對ス
ル強制執行 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對ス
ル強制執行 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

〔第五百九十五條〕

○民事裁判所カ民事事件ニ付キ爲シタル裁判ハ單ニ管轄ノ規定ニ違背シタルカ爲メ當然無効ニ歸スヘキモノニ非ス

(反對)

○管轄權ヲ有セサル裁判所ノ發シタル債權差押命令及ヒ轉付命令ハ共ニ不適法ニシテ第三債務者ニ對シ其效力ヲ生セサルモノトス

〔第五百九十七條〕

○差押命令ハ債務者ニ執行力アル正本ヲ送達シタル後ニ非サレハ第三債務者ニ對シ有效ニ之ヲ發スルコトヲ得ス

○裁判所カ債權差押命令ヲ發スル場合ニ於テハ其差押ノ目的タル權利ノ存否ヲ調査スルコトヲ要セス

〔第五百九十八條〕

○債權ノ差押アリタル場合ト雖モ債務者ハ差押債權者ノ權利ヲ害セサル限度ニ於テ其第三債務者ニ對スル債權ヲ處分スルコトヲ妨ケス

○債權ノ差押アリタル場合ニ於テハ他ノ債權者ハ配當要求ヲ爲スノ權利ヲ有スルモ未タ其要求ヲ爲ササルトキハ該差押ニ付キ何等利害ノ關係

ナケレハ其債權ノ處分ニ對シテ無効ヲ主張スルコトヲ得ス

○衆議院議員ハ歳費ヲ辭スルコトヲ得ト雖モ差押ヲ受ケタル歳費ハ縱令之ヲ辭スルモ單ニ差押債權者ノ權利ヲ害セサル範圍内ニ於テノミ其效力ヲ有シ差押ハ之カ爲メニ毫モ影響ヲ受クルコトナク之ニ基キ爲シタル轉付モ亦依然其效力ヲ保有スルモノトス

○手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因レル債權ノ差押ニ付テハ債權差押命令ヲ第三債務者ニ送達スル外尙ホ執達吏カ其證券ヲ占有スルニ非サレハ差押ノ效力ヲ生セサルモノトス

〔第五百九十九條〕

○民事訴訟法第五百九十九條ハ抵當物ニ付キ正當ノ利害關係ヲ有スル第三者ヲ保護スルカ爲メ債權差押ノ場合ニハ其差押ヲ登記簿ニ記入スル手續ヲ定メタルモノニシテ債權差押ト併行シテ抵當權ノ差押ヲ爲シ得

ヘク二者獨立ノ效力ヲ生スル旨ヲ定メタルモノニ非ス

○抵當アル債權ヲ差押ヘタル場合ニ其債權ニシテ差押前既ニ有效ニ第三者ニ對抗シ得ヘキ方法ニ於テ讓渡セラレタルトキハ縱令其債權ノ差押ヲ登記簿ニ記入スルモ之ヲ以テ第三者ニ對シ抵當權ニ付キ差押ノ效力ヲ主張スルヲ得サルモノトス

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

三七 二四四

四三 四〇五

三六 一五九二

三〇 四 二二

三 二七三

四二 六八一

四二 六八一

四五 四六九

三 二五〇

元 一〇〇五

元 一〇〇五

第六百條

第六百條

○約束手形ノ如キ裏書ヲ以テ移轉シ得ル證券ニ因ル債權ノ差押ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲スヘキモノナレハ若シ執達吏カ證券ヲ占有シテ差押ヲ爲シタル事實ナキニ拘ハラズ執行裁判所ニ於テ轉付命令ヲ發シタルトキハ其命令ハ轉付ノ效力ヲ生スルコトナシ

○同一ノ債權ニ對スル二箇以上ノ差押命令ハ其前後ヲ問ハス均シク差押ノ效果ヲ發生スレトモ差押債權者ハ更ニ取立命令又ハ轉付命令ヲ受クルニ非サレハ執行行爲ヲ爲シ得サルモノトス

○二人以上ノ債權者カ同一ノ債權ニ對シテ各別ニ取立命令若クハ轉付命令ヲ受ケタルトキハ民事訴訟法第六百二十條第一項及ヒ第二項ノ區別ニ從ヒ取立命令ノ場合ニハ其第一項ニ依リ各配當要求ヲ爲シ得ルモ轉付命令ノ場合ニハ同第二項ニ據リ絶對的ニ此要求ヲ爲シ得サルモノトス

○差押ニ係ル債權ノ額カ差押ノ原因タル請求額ニ超過スル場合ト雖モ取立又ハ轉付ノ命令ヲ求ムルニハ必スシモ請求全部ニ對シテ之カ申請ヲ爲スヘキ旨ノ法規ナケレハ其全部ニ付キ取立若クハ轉付ヲ申請スルト否トハ差押債權者ノ自由ニシテ縱令請求ノ一部ノミニ對シ此申請ヲ爲スモ直ニ他ノ請求ヲ拋棄シタルモノトスルヲ得ス

○債權者カ代位訴權若クハ取消訴權ニ依ラス唯其債權ヲ主張シテ同一債務者ニ對スル他ノ債權者カ債權轉付命令ノ效力ニ因リテ收受セシ金錢ノ給付ヲ請求スル場合ニ在テハ縱令前者ノ得タル轉付命令後者ノ得タルモノニ先チテ效力ヲ生シタリトスルモ其請求ハ仍ホ失當タルコトヲ免レヌ

○苟モ債權ニシテ成立シタルトキハ之カ性質上又ハ法律上轉付ヲ許ササルモノノ外其轉付命令ハ有效ナリトス

(聯) ○債權差押ノ競合スル場合ニ發シタル轉付命令ハ優先權ヲ有スル債權者カ得タル場合ノ外其效力ヲ生セサルモノナルヲ以テ差押ヲ受ケタル第一債務者カ右轉付命令ニ基キ拂渡ヲ爲シタルトキハ他ノ差押債權者ハ民法第四百八十一條第一項ニ依リ其損害ヲ受ケタル限度ニ於テ更ニ第三債務者ニ對シ辨濟ヲ請求シ得ルモノトス

(同主旨)

債權ノ差押ハ優先權ヲ生スルモノニ非サレテ以テ數箇ノ差押カ競合シタル場合ニ於テモ單ニ配當要求ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有スルニ過キス從テ斯ル場合ニ發シタル轉付命令ハ優先權ヲ有スル者カ得タル場合ノ外其效力ヲ生セス

三九	三六	三九	三六	三九	三六
一三五〇	九四	五九	五九	二四七	二五三
				二	三五

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對ス
債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行 一七八二

(反對)

民事訴訟法中債權ノ差押ニ付テハ同第五百八十七條若クハ第六百四十五條第二項ノ如キ規定
ナケレハ金錢ノ債權ニ對スル差押ハ配當要求ノ效力ヲ生セス。

○衆議院議員カ歳費ヲ受クル權利ハ公法上ノ權利ナリト雖モ民事訴訟法
上繼續收入ノ權利タル性質ヲ具有シ又支拂ニ換ヘ券面額ニテ轉付ヲ受
クルコトヲ得ルモノナルヲ以テ之ニ對スル差押及ヒ轉付ハ有效ナリト
ス。

○衆議院議員ハ歳費ヲ辭スルコトヲ得ト雖モ差押ヲ受ケタル歳費ハ縱令
之ヲ辭スルモ單ニ差押債權者ノ權利ヲ害セサル範圍内ニ於テノミ其效
力ヲ有シ差押ハ之カ爲メニ毫モ影響ヲ受クルコトナク之ニ基キ爲シタ
ル轉付モ亦依然其效力ヲ保有スルモノトス。

○株主總會ノ決議ニ因リテ配當金額及ヒ時期ノ確定シタル後ハ如上ノ債
權ニ付キ支拂ニ換ヘ券面額ニテ差押債權者ニ之ヲ移轉スヘキ轉付命令
ヲ發シ以テ債務者ヲ免責セシメ得ルモノトス。(第五百九十四條二年九

七四頁參照)
(同主旨)
株式會社ノ利益配當ノ債權差押ハ株主總會ニ於テ配當ノ金額ヲ確定セサルモ訴訟法上之ヲ爲
スコトヲ妨ケスト雖モ同債權ノ轉付命令ニ至リテハ株主總會ニ於テ配當金額ヲ確定スルニ非
サレハ之ヲ發スルコトヲ得ス。

七四頁參照)

(同主旨)

○配當金額確定前ニ於ケル轉付命令ノ申請ハ不當ナルモ裁判所ハ其申請
ニ付キ裁判スルニ先チ配當金額カ株主總會ニ於テ確定セラレタルニ於
テハ該申請ニ對シ轉付命令ヲ爲スヲ妨ケサルモノトス。

○轉付命令ハ有效ナル債權差押ノ存在ヲ前提トシテ效力ヲ生スヘキモノ
ナレハ差押ノ效力ヲ生セサル債權ニ付キ轉付命令カ第三債務者ニ送達
セラレルコトアルモ其效力ヲ生セサルノミナラス轉付命令ノ送達後ニ
於テ既往ニ遡リ債權差押ニ關スル手續ノ欠缺ヲ補充シ以テ轉付命令ヲ
有效ナラシムルコトヲ得ス。

(同主旨)
轉付命令ハ差押ヘタル金錢ノ債權ニ非サレハ之ヲ發スルコトヲ得ス從テ不適法ニ差押ヘタル
債權ニ對シテハ該命令ヲ發スルコトヲ得サルモノトス。

轉付命令ハ差押ヘタル金錢ノ債權ニ非サレハ之ヲ發スルコトヲ得ス從テ差押手續ニ不法ノ點
アルトキハ轉付命令モ亦其效ナキモノトス。

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對ス
債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行 一七八三

二	九七四
三七	二四四
二	九七四
三	二五〇
三六	一五九二
四二	七七七

三九	一五六
三九	一五六
三九	一五六
四五	四六九
四五	四六九
四五	四六九

○數人ノ差押債權者ノ債權總額カ差押債權額ヲ超過セサル場合ニ各、自己ノ債權額ノ範圍内ニ於テ差押ヲ爲シタルトキハ數箇ノ債權差押カ相競合スルモノニ非サレハ之ニ基キ發シタル轉付命令ハ孰レモ有效ナリトス

○債權ノ性質カ讓渡ヲ許ササルモノナルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ轉付スルモ其效力ヲ生セサルモノナレハ會社カ其株主ニ對シテ有スル株金拂込請求權ハ之ヲ轉付スルモ其效力ナキモノトス

(同主旨)

債權ノ性質カ讓渡ヲ許ササルトキハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ轉付スルモ其效力ヲ生スヘキモノニ非サレハ株金拂込請求權ノ轉付命令ハ無効ナリ

○數箇ノ債權差押ノ競合スル場合ニ發セラレタル轉付命令ハ其債權差押カ假差押ニ因リテ配當要求ヲ爲シタルト同一ノ權利ヲ有スルモノナルト本差押ニ因リテ配當要求ノ效力ヲ生スルモノナルト問ハス其效力ヲ生セサルモノトス

○假差押債權者及ヒ差押債權者ノ債權總額カ差押債權額ヲ超過シ差押債權カ相競合スル以上ハ轉付命令ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ債權ヲ轉付スヘキモノナレハ他ノ債權者ノ債權ヲ害セサル範圍ニ於テノミ有效ナルモノト論斷スルコトヲ得サルモノトス

第六百一條

第六百一條

○債權ノ轉付ハ債務ノ存在スルトキニ限リテ法律上其效力ヲ有ス故ニ既ニ辨濟ヲ受ケタル證書ヲ轉付スルモ何等ノ效力ヲ生セス

○債權ノ轉付ヲ受ケタル者ハ其債權者ノ權利ヲ承繼シ即チ被承繼者ノ地位ニ代リタルモノナリ故ニ被承繼者カ債務者ニ對シ負フ所ノ債務アルトキハ縱令轉付ノ債權ニ關係ヲ有セサルモ被承繼者カ其相殺ノ請求ヲ拒ミ得サルト同シク承繼者モ其請求ニ應スルノ義務アリ

(同主旨)

差押債權者ハ債權ノ轉付ニ因リ債權讓受人ノ地位ヲ得ルモノナレハ第三債務者ハ自己ノ債權者ニ對抗シ得ヘカリシ權利ヲ差押債權者ニ向テ主張スルコト得

○債權轉付ノ命令ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ債權ヲ差押債權者ニ轉付スルノ效力ヲ生スルモノナレハ他ノ債權者ヨリ配當要求アリタル後ハ此命令ヲ爲スヘキモノニ非ス

○債權ノ轉付命令ニシテ第三債務者及ヒ債務者ニ送達セラレタル以上ハ

四	一三五
三	二八七
六	七二
三九	五四
六	一八三四
六	一八三四
二九	六
二九	一五七
三	二
三	二二
二九	一〇四
三	一〇
三	二五

縦合差押債權者ニ其送達アリタル旨ノ通知ナキモ債權轉付ノ效力ヲ生スルモノトス

三七

二四

(刑) ○甲者カ乙者ニ對シ債權アルコトヲ主張シ勝訴ノ判決ヲ受ケ其執行トシテ第三債務者ニ對スル債權ヲ差押ヘ之カ轉付命令ヲ受ケタル場合ニ於テ縦合甲者ノ債權ハ假裝ナリトスルモ之カ爲メ既ニ宣言セラレタル判決及ヒ命令ハ當然無効ニ歸スヘキモノニ非サレハ民事訴訟法第六百一條ニ依リ乙者ハ甲者ニ辨濟ヲ爲シタルモノト看做サルヘク從テ乙者ハ該命令ニ因リ其債權ヲ失ヒタルモノトス

三七

二四三

(刑) ○債權轉付命令ハ第三債務者及ヒ債權者ニ之ヲ送達スルニ非サレハ完全ニ其效力ヲ發生セサルモノトス

四四

七九

○債權カ轉付セラルルトキハ其債權擔保ノ爲メニ存シタル抵當權モ亦共ニ移轉スルモノトス

四四

一五七六

○債權ノ強制執行トシテ發セラレタル轉付命令カ第三債務者及ヒ債務者ニ送達セラレタル以上ハ強制執行ハ終了シ債權者ノ債權ハ辨濟セラレタルヲ以テ債權者ハ更ニ同一債務名義ニ基キ強制執行ヲ爲スコトヲ得サルモノトス從テ停止スヘキ強制執行アルコトナケレハ停止命令ヲ發スヘキ限ニ在ラス

五

二四八

○強制執行ハ之ニ依リテ債權者カ債權ノ辨濟ヲ得タル時ニ於テ終了スルモノナレハ金錢債權ニ付キ轉付命令ノ發セラレタル場合ニハ債權ノ存スル限り民事訴訟法第五百九十八條第二項ノ手續ノ爲サレタル時ニ終了スルモノトス

六

一

(同主旨) 第六百十四條

債權ニ對スル強制執行ハ債權者カ債權ノ満足ヲ得ルトキ終局スルモノナレハ轉付命令ヲ第三債務者ニ送達スルニ因リテ完結スヘキモノトス

四三

二七

差押命令及ヒ轉付命令カ第三債務者ニ送達セラレタル後ハ債務者ハ債務ノ辨濟ヲ爲シタルモノト看做サレ債權者ハ債權ノ満足ヲ得テ強制執行ノ目的ヲ達シ執行手續ハ之ニ依リテ完結スルモノニシテ其手續完結ノ關係ハ債務者ニ對スルト第三債務者ニ對スルトニ依リ差別ヲ設クヘキモノニ非ス

五

一五三五

第六百三條

『第六百三條』

○約束手形ノ如キ裏書ヲ以テ移轉シ得ル證券ニ因ル債權ノ差押ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲スヘキモノナレハ若シ執達吏カ證券ヲ占有シテ差押ヲ爲シタル事實ナキニ拘ハラズ執行裁判所ニ於テ轉付命令ヲ發シタルトキハ其命令ハ轉付ノ效力ヲ生スルコトナシ

三六

九四四

○手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因レル債權ノ差押ニ付テハ債權差押命令ヲ第三債務者ニ送達スル外尙ホ執達吏カ其證券ヲ占

民事訴訟法

強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

有スルニ非サレハ差押ノ效力ヲ生セサルモノトス

第六百六條

第六百六條

○差押債權者カ轉付命令ニ因リ債務者ノ第三債務者ニ對シテ有スル債權ヲ取得シタル場合ニ於テ第三者カ該債權證書ヲ所持スルトキハ其自由ノ意思ニ因リ之カ引渡ヲ受クルハ格別差押命令若クハ轉付命令ニ基キ強制執行ノ方法ヲ以テ之ヲ引渡サシムルコトヲ得ス

第六百十條

第六百十條

○有體物ノ請求ニ對スル強制執行ノ差押ニ於テ第三債務者カ其義務ヲ履行セサルトキハ債權者ハ第六百條第六百十七條ノ規定ニ則リ代位ノ手續ヲ要セスシテ其債權ヲ取立テ得ヘキ命令ヲ受クルニ非サレハ第六百十條ニ規定スル所ノ第三債務者ニ對スル訴ヲ起スコトヲ得サルモノトス

第六百十四條

第六百十四條

○引渡スヘキ動産カ第三者ノ手中ニ存スル場合ニ於テ債務者ノ引渡請求權カ債權者ニ轉付セラレタルトキハ其請求權ハ債權者ニ移轉シ債權者ハ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ實行スルコトヲ得ルモノトス從テ他ノ差押債權者ノ爲メ發セラレタル取立命令アリトスルモ其命令ハ第三債務者ニ對シ何等ノ效力ヲ生セス

對シ何等ノ效力ヲ生セス

第六百十七條

第六百十七條

○有價證券ニ對スル執行ニ付テハ民事訴訟法第六百十七條ノ規定ニ依リ轉付命令ヲ發スルコトヲ得ス

○有體物ノ請求ニ對スル強制執行ノ差押ニ於テ第三債務者カ其義務ヲ履行セサルトキハ債權者ハ第六百條第六百十七條ノ規定ニ則リ代位ノ手續ヲ要セスシテ其債權ヲ取立テ得ヘキ命令ヲ受クルニ非サレハ第六百十條ニ規定スル所ノ第三債務者ニ對スル訴ヲ起スコトヲ得サルモノトス

○民事訴訟法ノ後ニ公布セラレタル軍人恩給法ニ依リ軍人ノ恩給ハ絶對ニ差押ヲ禁シタルカ故ニ民事訴訟法第六百十八條第二項ハ軍人ノ恩給ニ對シテハ其適用ヲ除外セラレタルモノトス

第六百二十條

第六百二十條

○同一ノ債權ニ對シ二人以上ノ債權者カ逐次差押命令ヲ受クルトキハ其前後ヲ問ハス等シク其債權差押ノ效果ヲ生ス而シテ其内ノ一名カ取立命令ヲ得タルトキハ他ノ者ハ之ニ對シ配當要求ヲ爲シ得ルモ轉付命令ヲ得タルトキハ何等ノ要求ヲ爲シ得サルモノトス

民事訴訟法

強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

三	三	三六	三四	四四
五			六	
五	三七	六十四	七	二二〇

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對ス
ル強制執行 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

(同主旨)

二人以上ノ債權者カ同一ノ債權ニ對シテ各別ニ取立命令若クハ轉付命令ヲ受ケタルトキハ民事訴訟法第六百二十條第一項及ヒ第二項ノ區別ニ從ヒ取立命令ノ場合ニハ其第一項ニ依リ各配當要求ヲ爲シ得ルモ轉付命令ノ場合ニハ同第二項ニ據リ絶對的ニ此要求ヲ爲シ得サルモノトス

○債務者カ支金庫ニ供託シタル公債證書ニ付キ二箇ノ差押アル場合ニ於テ取立命令ヲ得タル債權者カ他ノ一名ノ配當要求ヲ無視シ其命令ノ旨趣ニ違背シテ直接ニ該證書ヲ受取り一人ニテ之ヲ領得シタルトキハ即チ法律上ノ原因ナクシテ他人ノ財産ニ因リ利益ヲ受ケ之カ爲メ他人ニ損失ヲ及ホシタルモノニ外ナラス

○債權ニ對スル強制執行ニ在テハ民事訴訟法第六百二十條ニ於テ他人ノ債權者モ配當ヲ要求シ得ルコトヲ規定シタルカ故ニ同條ハ間接ニ假差押債權者カ假差押ノ目的物ヨリ辨濟ヲ得ヘキ權利ノ他ノ債權者ト平等ナルコトヲ定メタルモノトス

○苟モ執行裁判所カ轉付命令ヲ發シタル以上ハ縱令其命令カ未タ第三債務者ニ送達セラレサル以前ニ在リテモ他ノ債權者ハ差押債權ニ對シ配當要求ノ申立ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

第六百二十一條

○民事訴訟法第六百二十二條ハ第三債務者ノ債務存在スルコトヲ前提ト爲シタル規定ニ外ナラサレハ差押債權者ト第三債務者トノ間ニ債務ノ存否ヲ争フヘキ場合ニ於テハ差押債權者ハ債務ノ存在スル事實ヲ立證スル責アリ

第六百二十五條

○鑛山採掘權ニ對スル強制執行ハ民事訴訟法第六百二十五條ノ規定ニ遵據スヘキモノナレハ特ニ公示ノ手續ヲ爲ササルモ第三者ニ對シ有效ナリ

○執行裁判所カ民事訴訟法第六百二十五條第三項ニ依リ強制執行ノ目的物タル採掘權ニ付キ強制競賣ノ處分ヲ爲シ競落許可決定ヲ與ヘタルトキハ該決定ハ鑛業條例施行ノ當時ニ在テハ直ニ完全ナル採掘權移轉ノ效力ヲ生セサルモ更ニ同法所定ノ手續ヲ經テ完全ニ其效力ヲ生セシムルコトヲ得ルモノナレハ競落人ハ之カ對價トシテ競落代金ヲ納付スル義務アリ

○合名會社ノ社員ノ持分ハ社員カ其資格ニ於テ會社ニ對シテ有スル一ノ財産權ニ外ナラサレハ民事訴訟法第六百二十五條ノ規定ニ從ヒ之ヲ差押フルコトヲ得ルモノトス

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

三元

五六九

四元

七六四

三元

八二〇

六元

二八四

四元

一一〇〇

二元

九七

四元

六五〇

五元

一三五〇

○民事訴訟法第六百四十條第二項ハ債權者ノ選擇ニ從ヒ強制競賣及ヒ強制管理ノ中一箇ノ方法ニ依リ又ハ二箇ノ方法ヲ併セテ執行セシメ得ヘキコトヲ規定シタルニ過キスシテ債權者ヨリ強制競賣ノミヲ申立テタル場合ニハ債權者ニ於テ競落許可決定以後迄存續スル賃貸借ノ如キ管理行為ト雖モ尙ホ之ヲ實行シ得ルノ法意ニ非ス

第二款 強制競賣

○競賣開始決定後其債權額ヲ幾部減少スルモ之カ爲メ決定ノ全部カ其效力ヲ失フモノニ非ス

○強制執行ノ目的物競賣代金ニ付キ優先權ヲ主張スル訴ノ判決ニ於テ曩ノ供託命令ヲ取消スヘキニ之ヲ爲ササリシ場合ハ申請若クハ別ニ訴ヲ提起シテ之カ取消ヲ求ムルノ途ナシ唯控訴ヲ以テ不服ヲ唱フヘキモノトス

○曾テ債務者ヨリ不動産ノ所有權ヲ取得シタル者カ其登記ヲ怠リ且其不動産ノ競落許可ノ決定後マテ異議ナク經過シタルトキハ其取得者ハ競落人及ヒ競賣ニ付テノ利害關係人ニ對シ所有權ヲ對抗スルコトヲ得サルモノトス

○強制執行終了後ニ至リ競賣申立ノ委任ニ欠缺アルコトヲ主張シ競落人

ニ對シテ不動産買取行為ノ無効確認並ニ所有權移轉登記ノ抹消手續ヲ訴求スルカ如キハ法律ノ許ササル所ナリ

○不動産ノ強制競賣ニ付キ異議ノ訴又ハ抗告ノ提起ナクシテ執行手續ヲ完結シタル後ト雖モ其執行ニ關シ實體法上無効ノ原因存在スルニ於テハ該不動産ノ所有權ヲ主張スル第三者ハ尙ホ訴ヲ提起シテ權利ノ回復ヲ請求シ得ルモノトス

○債務者ノ所有トシテ登記シタル不動産ニ付キ他人ノ所有權取得ノ假登記アル場合ト雖モ之ヲ強制競賣ニ付スルコトヲ得サルモノニ非ス

○公證人ノ作りタル證書ノ債務名義ニ因レル強制競賣ト雖モ競賣法ニ依ル競賣ト等シク權利實行ノ方法ニ外ナラサレハ其強制競賣カ適法ニ完結ヲ告クルモ唯權利實行ノ方法カ手續上有效ニ行ハレタルニ止マリ之カ爲メニ所有權移轉ニ關スル實體上ノ效力ヲ確定スルモノニ非ス

○競賣ノ場合ニ於ケル賣主ハ競賣ヲ申立テタル債權者ニ非スシテ競賣ノ目的物ヲ所有スル債務者ナレハ債權者ノ代理人トシテ競賣ノ申立ヲ爲シタル者カ競落人ト爲リタリトテ民法第百八條ノ規定ニ牴觸スルモノニ非ス

○強制競賣其他金銭債務ニ關スル執行處分トシテ債務者ノ財産ヲ處分ス

民事訴訟法 強制執行 金銭ノ債權ニ付テノ強制執行 一七九五

強制執行 金銭ノ債權ニ付テノ強制執行 一七九五

三九	一五三四
四〇	五六五
四一	六二
四二	六二
四五	一八五
四六	二〇一

三六	一四七六
三九	一四七六
四〇	一四七六
四一	一四七六
四二	一四七六
四五	一四七六
四六	一四七六

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行
不動産ニ對スル強制執行 強制競賣

ル場合ニ於テハ讓受人ハ現状ノ儘其財産ニ關スル權利ヲ取得スルニ止
マリ讓渡人ノ地位ニ立ツ所ノ債務者等ニ對シ其權利行使ヲ可能ナラシ
ムヘキ状態ヲ以テ目的物ノ引渡ヲ爲スヘキキコトヲ請求スルコトヲ得
サルモノトス

○債務名義ト爲シ得ヘカラサル公正證書ニ基キ強制執行ヲ爲スコトヲ非
難スルハ競賣手續ノ開始ニ瑕疵アルコトヲ主張スルモノニ外ナラス
○競賣手續ハ權利實行ノ方法ニ過キサレハ其瑕疵カ手續ノ開始ニ存スル
トキト雖モ手續進行中異議若クハ抗告ニ依リ之ヲ攻撃スルハ格別手續
ノ完結後ニ至リ如上ノ瑕疵アルコトヲ理由トシテ實體上有效ナル權利
ノ存在ヲ否認シ得サルモノトス

〔第六百四十三條〕

○債權者カ民事訴訟法第六百四十三條ノ規定ニ從ヒ登記簿上ノ現所有者
ヲ以テ債務者トシ適法ニ強制競賣ヲ申立テ競賣手續完了シタル以上ハ
縱令其進行中假登記者ニ於テ本登記ヲ爲スモ之カ爲メニ競賣手續ヲ不
適法タラシムヘキ理ナケレハ競落人ハ競落許可決定ニ因リ不動産ノ所
有權ヲ取得シ其不動産ハ登記簿ニ記入スヘキ總テノ負擔ヲ免ルルモノ
トス

〔第六百四十四條〕

○工作物又ハ竹木カ現實地上ニ存在スル爲メ地上權ノ設アル場合ニ於テ
其工作物等ヲ不動産トシテ之ニ對シ競賣ノ申立アルトキハ別ニ反對ノ
意思表示ナキ以上ハ其競賣開始決定ニ依リ該不動産ト共ニ之ニ附隨シ
テ地上權ニマテ差押ノ效力ヲ及ホサシムルヲ通例トス
○抵當權者カ抵當權ノ目的タル山林ニ對シテ權利ノ實行ニ著手シ競賣開
始セラレタル場合ニ於テハ其民事訴訟法ニ依ルモノナルト競賣法ニ依
ルモノナルトヲ問ハス土地及ヒ之ト一體ヲ成ス立木ニ對シ差押ノ效力
ヲ生スルモノトス

〔第六百四十五條〕

○如上ノ場合ニ於テハ不動産所有者ヨリ立木ノミヲ買受ケタル第三者ト
雖モ抵當權ヲ無視シテ其目的物ノ價格ヲ減少スヘキ行爲ヲ爲スコトヲ
得サルモノナレハ抵當權者ハ其者ニ對シテ立木ノ伐採ヲ差止メ得ルハ
勿論既ニ伐採シタルモ尙ホ其地上ニ存スル木材ハ之カ搬出ヲ拒ムコト
ヲ得ルモノトス
○民法施行前ニ在テハ十年ノ期間ヲ超ユル地所ノ賃貸借ヲ以テ民事訴訟
法第六百四十四條第二項ニ所謂不動産ノ利用ト看做ササルノ規定ナシ
○民事訴訟法第六百四十四條ハ不動産ノ差押以後競落許可決定ニ至ル迄

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行
不動産ニ對スル強制執行 強制競賣

三	五	五	三	二	二	二	二	二	二
一六	一〇八三	一〇八三	七九	六〇八	六〇八	六〇八	六〇八	六〇八	六〇八

債務者カ其不動産ヲ利用シ又ハ必要ナル管理ヲ爲シ得ヘキコトヲ規定シタルニ過キスシテ差押ノ後ニ至リ競落許可決定以後迄存續スヘキ貸借ヲ爲スコトヲ許シタルモノニ非ス

〔第六百四十六條〕

○假差押ヲ拋棄シタル意思明カナレハ其假差押解放命令ノ有效ナルト無効ナルト又假差押登記ノ抹消セラレタルト否トヲ問ハス既ニ消滅シタル假差押ヲ理由トシテ競落期日ノ終結後民事訴訟法第六百四十六條第二項ニ依リ配當要求ヲ爲ス權ナシ

〔第六百四十八條〕

○他人ノ犯罪行爲ニ因リテ抵當權ヲ設定シタル場合ニ於テ抵當不動産ノ所有者ハ民事訴訟法第六百四十八條第二號ニ所謂債務者ニ相當セス第三者ノ地位ニ在ルモノトス

○民事訴訟法第六百四十八條第三號ニ所謂登記簿ニ記入アル不動産上權利者トハ不動産上ニ物權ヲ有スル者即チ抵當權者又ハ質權者ノ如キヲ指稱セルモノニシテ賃借人ハ之ニ包含セス

○競賣ノ目的タル不動産ニ對シ競賣手續開始以前ニ賣買契約ニ因ル所有權移轉ノ請求權保全ノ爲メ假登記ヲ爲シ競賣開始決定後競落許可決定

三六

一四七六

二八

三三八

三四

一一三

三六

一八三

前ニ於テ其假登記ニ基キ本登記ヲ爲シタル者ハ民事訴訟法第六百四十八條第三號ニ所謂登記簿ニ記入アル不動産上權利者トハ不動産ニ付キテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ既登記ノ物權ヲ有スル者ヲ指稱シ單ニ所有權取得ノ假登記ヲ爲シタルニ止マル者ハ同條ノ競賣手續ニ於ケル利害關係人ニ該當セス

〔第六百四十九條〕

○水難救護法ニ依ル公賣ニ於テモ他人ノ競賣ニ於ケルカ如ク遭難船舶ノ上ニ存スル抵當權ハ之ニ因リテ消滅スルモノトス

〔第六百五十八條〕

○民事訴訟法第六百五十八條列記ノ事項ヲ不動産競賣期日ノ公告ニ遺脱スルモ其競落ノ許可ニ付テ異議ノ申立ナク裁判所モ亦之ヲ看過シテ競落許可ノ決定ヲ爲シタルトキハ瑕瑾ナキ決定ト同一ニ歸シ當然無効ノモノニ非ス

〔第六百五十九條〕

○競賣期日ノ公告ニ表示セラレタル不動産カ競賣スヘキ不動産ト全然相違スルトキハ競賣期日ノ公告ニ競賣不動産ノ表示ナキニ歸シ民事訴訟

四

七二

五

五〇一

四〇

六八五

三三

九五

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強制執行 強制競賣

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行
不動産ニ對スル強制執行 強制競賣

一八〇〇

法第六百八十一條第二項第六百七十二條第四號ニ依リ抗告ノ理由ト爲
ルモノトス

○民事訴訟法第六百五十八條第三號ノ規定ニ依リ競賣期日ノ公告ニ貸貸
借ノ期限並ニ借賃ヲ掲載セシムル法意ハ敢テ其物權取得者ニ該貸賃借
ヲ甘諾セシムルノ旨趣ニ非スシテ其期限ニ依リ或ハ之ヲ引受ケサルヲ
得サル場合アリ又ハ之ヲ解除セシメ得ヘキ場合アルコトヲ知得セシム
ルト其借賃ニ依リ該不動産ノ價格ノ標準ヲ豫知セシムルトヲ慮リタル
モノニ外ナラス

○不動産競賣期日ノ公告ハ其指定セラレタル時刻ヨリ競賣手續ヲ開始シ
得ヘキコトヲ定メタルモノニシテ同時刻ニ必ス之ヲ開始スルコトヲ要
スル旨趣ニ非サルモノト解スルヲ相當トス

〔第六百六十六條〕

○不動産ノ強制競賣ハ現實競買ノ申出ヲ爲シタル者ノ中ニ就キ最高價競
買人ヲ定メテ之ヲ終局スヘキモノナレハ他ニ一層高價ニ競買セント欲
シタル者カ競買申出人ノ妨害ニ因リ競買ノ申出ヲ爲サザリシ事實アル
モ現ニ最高價ノ競買ヲ申出テタル者ヲ真正ノ最高價競買人トシテ終局
シタル競賣ノ效力ハ之カ爲メニ何等ノ影響ヲ受クルモノニ非ス

〔第六百六十七條〕

○競賣調書ニ債權者ノ代理資格ナキ者ソ署名捺印アルモ之カ爲メニ該調
書ノ無効ヲ惹起スルモノニ非ス

〔第六百七十二條〕

○執行スヘキ判決ノ後ニ債權者カ義務履行ノ猶豫ヲ承諾シタル旨ヲ記載
シタル證書ヲ提出シタルトキハ強制執行ヲ停止又ハ制限スヘキモノナ
ルヲ以テ斯ノ如キ場合ハ執行ヲ續行スルコトヲ得サルモノトス
○債務名義タル判決ニ因リテ確定シタル請求ニ對シ辨濟ヲ爲シタル者カ
執行ヲ停メントスルニハ民事訴訟法第五百五十條第四號ノ如キ例外ノ
場合ノ外ハ同法第五百四十五條ノ訴ニ依ルヘキモノニシテ同法第六百
七十二條第一號ノ手續ニ依ルヘキモノニ非ス

○債務者カ其債務ノ全部ヲ辨濟シタルトキハ其辨濟カ競落許可決定ノ前
後ヲ問ハス苟モ其決定ノ確定以前ナル以上ハ之ニ依リ債務ハ消滅スヘ
ク進テ強制執行ヲ續行スヘキモノニ非ス從テ民事訴訟法第六百七十二
條第一號ニ該當スルモノトス

○民事訴訟法第六百七十二條第一號ニ所謂執行ヲ續行スヘカラサルコト
トハ執行手續ヲ中止若クハ取消スヘキ理由ノ存スル場合ヲ指稱スルモ

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行
不動産ニ對スル強制執行 強制競賣

一八〇一

二

三五七

三

六五一

四

九六七

七

九五四

四

二二二

三七

三六九

六

一〇六九

四二

五二三

ノニシテ競賣ヲ取下クヘキ契約ノ成立ノ如キハ之ニ該當セサルモノトス

第六百七十七條

『第六百七十七條』

○不動産ノ競落ヲ許可セストノ決定ヲ不當ナリトスル抗告カ適法ニシテ理由アルトキハ抗告裁判所ハ原決定ヲ廢棄スルト同時ニ自ラ競落ヲ許ス旨ノ決定ヲ爲スカ又ハ之カ裁判ヲ前審ニ委任スル旨ノ決定ヲ爲スヘキモノトス

○民事訴訟法第六百七十七條ハ競落期日ニ於テ競落ヲ許シ又ハ許ササル決定ノ言渡ヲ爲スヘキコトヲ規定シタルモノト解スルヲ相當トス

○競落許否ノ決定ハ競落期日ヲ開キタルトキハ民事訴訟法第六百七十七條ニ依リ之ヲ言渡スコトヲ要スト雖モ競落許否ノ決定ニ對スル抗告アリタル場合ニ於テ其決定ヲ爲シタル裁判所カ再度ノ考案若クハ新ナル提供ニ基キ更ニ競落許否ノ決定ヲ爲シ又ハ抗告裁判所カ更ニ競落許否ノ決定ヲ爲ストキハ同條ニ依リ言渡ヲ爲スコトヲ要セスシテ口頭辯論ニ基キ決定ヲ爲ストキノ外ハ送達ヲ爲スヲ以テ足ルモノトス

第六百七十八條

『第六百七十八條』

○民事訴訟法第六百七十八條ニ依ル競買ノ取消ハ競落許可決定前ニ限リ之ヲ爲シ得ヘキモノニシテ其決定後ニ在リテハ縱令同條ニ規定セル條件ヲ具備スルモ之ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス

第六百八十條

『第六百八十條』

○民事訴訟法第六百八十條ニ依リ競落許可決定ニ對シテ抗告ヲ爲シ得ヘキ利害關係人ハ同第六百四十八條ニ規定セル第一乃至第四ノ者ニ限ルモノトス

○債務者カ不動産ノ競落許可決定ニ對シテ抗告ヲ爲スニハ本人法定代理人若クハ其委任ニ因ル代理人等ノ外之ヲ申立ツルコトヲ得ス故ニ單純ノ事務管理人ニ於テ本人ノ爲メニ申立タル抗告ハ不適法ナリ

○民事訴訟法第六百八十條ニ依リ利害關係人カ競落許可決定ノ爲メ損失ヲ被ムルヘキモノトシテ抗告ヲ爲シタル場合ニ於テモ裁判所カ抗告人ニ於テ同法第六百八十一條第二三項所掲ノ理由ノ孰レヲモ主張セサルコトヲ判示シタル以上ハ其被ムルヘキ損失ノ有無ニ付キ判斷セサルモ不法ニ非ス

○如上ノ場合ニ於テ執行裁判所カ再度ノ考案ニ基キ競落不許可ノ決定ヲ爲シタルトキハ債權者ハ之ニ因リ損失ヲ被ムルヘキモノト主張シ得サルヲ以テ民事訴訟法第六百八十條ニ依リ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノ

トス(第六百八十一條五年一一五三頁參照)

○數箇ノ不動産ノ一括競賣ハ必スシモ各別競賣ヨリ競賣價額低廉ナルモノニ非サレハ一括競賣ハ當然債務者ニ損失ヲ被ムラシムルモノニ非スシテ其損失ヲ被ムラシムルヤ否ヤハ立證ヲ竣テ知ルヘキ場合アルモノトス

○民事訴訟法規上裁判ノ送達ヲ必要トセサル場合ニ於ケル抗告ノ不變期間ハ不服ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マルモノト解スルヲ相當トス

第六百八十一條

『第六百八十一條』

○競賣期日ノ公告ニ表示セラレタル不動産カ競賣スヘキ不動産ト全然相違スルトキハ競賣期日ノ公告ニ競賣不動産ノ表示ナキニ歸シ民事訴訟法第六百八十一條第二項第六百七十二條第四號ニ依リ抗告ノ理由ト爲ルモノトス

○民事訴訟法第六百八十條ニ依リ利害關係人カ競落許可決定ノ爲メ損失ヲ被ムルヘキモノトシテ抗告ヲ爲シタル場合ニ於テモ裁判所カ抗告人ニ於テ同法第六百八十一條第二三項所掲ノ理由ノ孰レヲモ主張セサルコトヲ判示シタル以上ハ其被ムルヘキ損失ノ有無ニ付キ判斷セサルモ不法ニ非ス

第六百八十六條

○債務者カ不動産ノ競落許可決定アリタル後ニ於テ債權者ニ對シ債權額其他費用等ノ辨濟ヲ提供シ及ヒ供託手續ヲ完了シタルトキハ債務者ハ民事訴訟法第六百八十一條第二項ニ從ヒ抗告ヲ申立テ競落不許可ノ決定ヲ求メ得ヘク必スシモ同第五百四十五條ニ從ヒ請求ニ關スル異議ノ訴ヲ提起スルコトヲ要スルモノニ非ス

○強制執行ニ因ル不動産ノ競落ヲ許シタル決定ニ對シテハ競落ノ許可ニ對スル異議ノ原因ノ一ヲ理由トスルトキハ抗告ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

○曾テ債務者ヨリ不動産ノ所有權ヲ取得シタル者カ其登記ヲ怠リ且其不動産ノ競落許可ノ決定後マテ異議ヲ夕經過シタルトキハ其取得者ハ競落人及ヒ競賣ニ付テノ利害關係人ニ對シ所有權ヲ對抗スルコトヲ得サルモノトス

○競賣ノ目的物ノ所有權カ完全ニ競落人ニ移轉シタル場合ニハ競賣ノ際競落人ノ意思ノ善惡ニ因リテ效果ヲ異ニスヘキモノニ非ス

○不動産ノ競落人ニ對シ效力ヲ生セサル賃貸借カ登記簿ニ登記セラレタル場合ニ於テハ其競落人ハ該登記ヲ抹消セシメ以テ賃貸借ノ存立セサル場合ニ於テハ其競落人ハ該登記ヲ抹消セシメ以テ賃貸借ノ存立セサル

民事訴訟法 強制執行 金銭ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強制執行 強制競賣

五 一一三

七 五〇二

七 二〇五

四 二二二

1002

五 一一三

七 九五四

三 二二三

三 二二三

六 二二三

ルコトヲ明カニスヘキ權利アルモノトス
○債務者ノ所有ニ屬スル不動産ノ強制競賣ニ付テハ債務者自身競落人ト爲ルヲ得サルモノナルヲ以テ縱令債務者カ第三者ニ託シ自己ノ爲メ名義上競落人タラシメタルトキト雖モ債務者ハ之ニ因リテ當然該不動産ノ所有權ヲ取得スルヲ得ス

○如上ノ場合ニ於テ法律上相續ノ開始シタル後他人カ失踪者ニ對シ訴訟ヲ提起シタルトキハ縱令失踪者カ失踪ノ宣告後尙ホ生存シタリトスルモ該訴訟ニ於テ被相續人タル地位ヲ有スルモノニ非サレハ相續人ハ其事件ノ確定判決ニ付テハ承繼人ニ非スシテ第三者ナリトス故ニ起訴者カ該判決ノ債務名義ニ依リ相續財產タル不動産ニ對シテ強制執行ヲ爲シ之ヲ競落スルモ適法ニ其所有權ヲ取得スルコトヲ得ヘキモノニ非ス
(民法第三十一條五年一一二二三頁參照)

○所有權移轉ノ假登記ハ不動産所有權ノ負擔若クハ制限ニ非サレハ縱令競落許可決定アリトスルモ競賣開始決定ノ記入登記以前ニ爲シタル假登記ハ之カ爲メニ其效力ヲ失フモノニ非ス從テ假登記權利者ハ競落ニ因ル所有權取得者ニ對シテモ假登記ノ效力ニ基キ其所有權取得登記ノ抹消ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

○競賣ノ場合ニ於テ特ニ從物ヲ除外セサル以上其競賣ハ主物ト共ニ從物ヲ其目的ト爲シタルモノナレハ競落人ハ主物及ヒ從物ノ所有權ヲ取得スルモノトス

第六百八十七條

第六百八十八條

○不動産ノ強制競賣ニ於テハ競落ヲ許スノ決定アリタル後競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行シ不動産ノ引渡ヲ請求シ得ル時ヲ以テ強制執行ノ終了時期トス

○競落許可ノ決定ハ民事訴訟法第六百八十八條ノ場合其他法律ノ規定ニ依ルノ外效力ヲ失フコトナシ從テ該決定以後ニ於ケル競賣申立取下ノ申請ノ如キハ固ヨリ之ヲ許容スヘキモノニ非ス

○民事訴訟法第六百八十八條ニ所謂「再競賣」ハ第三回以下ノ競賣ヲモ包含スト雖モ第三回又ハ第四回ノ競賣ヲ再競賣ト稱スルトキハ第二回又ハ第三回ノ競賣ニ對シテ立言スルモノニシテ常ニ之カ原因ヲ爲セル競落人ノ干與シタル直近ノ前競賣ニ對シテ用キタル文詞ナリ
○民事訴訟法第六百八十八條第四項ハ競賣手續ヲ完結スル爲メノ便宜規定ナレハ再競賣手續開始後一旦再競賣期日指定セラレタルモ變更セラ

民事訴訟法 強制執行 金銭ノ債權ニ付テノ強制執行
不動産ニ對スル強制執行 強制競賣

三 一四七六

二 一四九八

五 一一三

六 一四四五

七 一四四一

三 一五〇一

三 六三

三 一三〇

レ更ニ新期日ノ指定アリタルトキハ其新期日ハ同條ニ所謂再競賣期日ナリト解スルヲ相當トス

六

二二三

○競賣ハ獨リ債務者ノ爲メニノミ執行スルモノニ非スシテ利害關係人全般ノ爲メニ執行スルモノナリ故ニ民事訴訟法第六百八十八條末項ニ規定セル前ノ競落人補足ノ義務ニ對スル請求權ハ債務者ニノミ專屬スヘキモノニ非スシテ利害關係人ハ皆之ヲ享有行使スルコトヲ得ヘキモノトス

三二

一〇九五

（第十六條）

○不動産ニ對スル強制執行ニ於テ再競賣ノ結果後ノ競賣代價カ前ノ競賣代價ヨリ低ク價格ニ不足ヲ生シタルトキハ抵當權者ハ前ノ競落人ノ負擔ニ屬スル右不足額ニ對シ同競落人ヨリ自己ノ優先權ニ基ク部分ノ債權ノ支拂ヲ受クル權利アリ隨テ其部分ニ限り直接ニ之ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノトス

三六

一四〇一

（第十六條）

○最初ノ競賣ニ於ケル競落人カ其義務ヲ履行セサルニ依リ民事訴訟法第六百八十八條第五項ニ從テ負擔シタル責任ハ其競賣ノ完結ニ至ルマテ存續スヘク再競賣ノ期日ニ競買申出人ナカリシトテ自然ニ消滅スヘキモノニ非ス

三六

七七

○民事訴訟法第六百八十八條第五項ニ於テ再競賣ノ競落代價カ最初ノ競落

（第十六條）

代價ヨリ低キトキ前競落人ヲシテ不足額ヲ負擔セシムルハ競落代價ノ減少ニ因リ不利益ヲ受クル者ニ對シ其損失ノ補償ヲ得セシムル爲メ負擔セシムル法意ナリトス

六

一四三四

○再度ノ競落代價ニシテ前競落代價ヨリ減少シ債權者ノ債權ヲ満足セシムルニ足ラサルトキハ債權者ハ之カ爲メ配當ヲ受クルヲ得サルカ又ハ配當額減少ノ不利益ヲ受ケ又債務者ハ最初ノ競落代價ヲ以テセハ債權者ノ債權ヲ満足セシメ餘剩アルヘカリシニ競落代價減少ノ爲メニ其得ヘキ餘剩ヲ生セサルカ又ハ餘剩額減少ノ不利益ヲ受クヘキモノナレハ不足額請求權ヲ有スル者ハ債權者又ハ債務者ナリトス

六

一四三四

○如上不足額ノ請求權ハ第一位ニ於テ不動産ノ賣却代金ニ依リ債權ノ満足ヲ得サル債權者ニ屬シ債務者ハ不足額カ債權者ノ損失ヲ補償スルニ餘リアル場合ニ於テ請求權ヲ有スルニ過キササルモノトス

六

一四三四

○再競賣ニ基ク債權者ノ不足額請求權ハ當該執行手續以外ニ別箇ノ訴ヲ以テ之ヲ主張スヘキモノニシテ債權者ハ裁判所カ不足額ノ配當ノ目的ニ加ヘサルニ對シ異議ヲ申立ツル權利ナク異議ヲ申立テスシテ配當手續ヲ終了ニ至ラシムルモ不足額請求ノ權利ヲ失フヘキモノニ非ス

六

一四三四

（第六百九十二條）

『第六百九十二條』

民事訴訟法 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強制執行 強制競賣

○各債權者ニ配當スヘキ不動産ノ賣却代金ハ民事訴訟法第六百九十二條ニ依リ計算書ヲ差出シタル債權者ニ付テハ其計算書ニ依リ計算書ヲ差出ササル債權者ニ付テハ同條第二項ニ基キ第六百二十八條第二項ノ規定ヲ準用シテ配當要求竝ニ届書ノ旨趣及ヒ證據書類ニ依リ作製シタル配當表ニ從テ配當スヘキモノトス從テ競落期日以後ニ生スヘキ利息ハ唯リ計算書ヲ差出ササル債權者ノミナラス計算書ヲ差出シタル債權者ト雖モ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百九十七條

○不動産ニ對スル強制競賣代金ノ配當表ニ對シ異議ノ申立ヲ爲シタル債權者カ提起スル配當表更正ノ訴ニ於テハ異議ノ申立ヲ承認セサル總テノ債權者ヲ共同被告ト爲スヘキモノナルモ競賣不動産ノ取得者タル第三者ハ該訴訟ニ於テ被告タルヘキ適格ヲ有セサルモノトス

第六百九十八條

○不動産競賣代金ノ配當表ニ對スル債權者ノ異議ニ付テハ民事訴訟法第六百九十八條ノ外何等ノ規定ナケレハ債權者ハ便宜上配當期日ニ異議ヲ申立ツル權利ヲ付與セラレタルニ止マリ縱令異議ノ申立ヲ爲ササルモ之カ爲メ後日ニ至リ債權者ニ對シテ債務ノ存否若クハ數額ノ多寡ヲ

爭フヘキ權利ヲ喪失スルコトナシ

第七百條

○競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行スルトキハ法律上競落許可決定ノ時ヨリ不動産ノ所有權ヲ取得シタルモノニシテ爾後民事訴訟法第七百條ノ登記ヲ經ルニ於テハ何人ニ對シテモ取得ノ時ヨリ其權利ヲ對抗シ得ヘキモノトス

第三款 強制管理

○強制管理ハ不動産ノ收益ヨリ債權ノ辨濟ヲ得セシムル強制執行ノ方法ナレハ縱令債務者ニ於テ現ニ收益ヲ得ヘカラサル場合ト雖モ債權者ニ就キ觀察シテ現ニ收益ヲ生シ得ヘキモノナル以上之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第七百十三條

○質權ノ目的物ノ強制管理開始ノ決定アリタル場合ニ於テ質權者ハ所謂強制管理ヲ許スコトヲ妨クル第三者ニ外ナラサレハ訴ヲ以テ異議ヲ主張スルコトヲ得ルハ勿論ナレトモ該決定ニ對シテ抗告ヲ申立ツルコトヲ得ヘキモノニ非ス

第三章 金銭ノ支拂ヲ目的トセサル

三七

一七三

三元

七四

三

三七

三八

七三

三三

三

九

四

一三〇〇

(第七百三十一條)

第七百三十一條

債權ニ付テノ強制執行

○僧侶ニ寺院立退ヲ命スル假處分ノ如キハ家屋明渡ノ命令ト一般民事訴訟法第七百三十一條及ヒ執達吏職務細則第四十一條第三號以下ノ規定ヲ準用シ執達吏ニ於テ其履行ヲ實施スヘキモノトス

(第七百三十二條)

第七百三十二條

○引渡スヘキ動産カ第三者ノ手中ニ存スル場合ニ於テ債務者ノ引渡請求權カ債權者ニ轉付セラレタルトキハ其請求權ハ債權者ニ移轉シ債權者ハ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ實行スルコトヲ得ルモノトス從テ他ノ差押債權者ノ爲メ發セラレタル取立命令アリトスルモ其命令ハ第三債務者ニ對シ何等ノ效力ヲ生セス

(第七百三十三條)

第七百三十三條

○公債證書ノ貸主カ之カ引渡ヲ目的トスル債權ノ強制執行ノ爲メ同公債證書ノ引渡ヲ目的トスル債務者ノ債權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ金銭債權者ハ其債權ノ強制執行ノ爲メ該公債證書ノ引渡ヲ目的トスル債務者ノ債權ヲ差押フルコトヲ得ス

(第七百三十四條)

第七百三十四條

○確定判決ノ強制執行上民事訴訟法第七百三十四條ノ規定ニ基キ第一審ノ受訴裁判所カ宣言シタル決定ニ對シ其決定自體ヲ不法トシ之ニ因ル執行ヲ不當トスル場合ハ同第五百五十八條ノ規定ニ從ヒ抗告ヲ以テ之ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘキモノニ該當シ判決ニ依リ確定シタル請求ニ關スル實體上ノ理由ニ非サレハ固ヨリ訴ヲ以テ其不服ヲ主張スヘキモノニ非ス

(第七百三十六條)

第七百三十六條

○民事訴訟法第七百三十六條ニ意思ノ陳述云トアルハ民法第四百十四條第二項但書ノ規定ニ照應スルモノナレトモ兩者自ラ其範圍ヲ異ニシ

民事訴訟法 強制執行 金銭ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ 一八一

二元七

四八三

四二二〇

三四五

一三〇

三元四〇六

元一〇八七

前者ノ所謂意思ノ陳述ハ當ニ債務者ヨリ債權者ニ對スル意思表示ノミ
 ナラス第三者ニ對スル意思表示ニ付テモ亦適用セラレヘキモノトス
 ○國有林野法施行規則第五十三條ニ當事者ヲシテ願書ニ連印シ契約書ヲ
 添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘキ旨ヲ規定シタルハ即チ大林區署
 長ニ許可ノ要求ノ意思ヲ陳述セシムル趣意ナルヲ以テ裁判所カ當事者
 ニ權利讓渡ノ許可ヲ受クル爲メ大林區署長ニ對シ出願ノ手續ヲ爲スヘ
 シト命シタル判決ハ民事訴訟法第七百三十六條ニ所謂意思ノ陳述ヲ爲
 スヘキコトノ判決ニ該當スヘキモノトス
 ○不動産所有權ノ移轉登記ヲ爲スヘシトノ請求ハ相手方ノ意思ノ陳述ヲ
 求ムルモノニシテ斯ノ如キ判決ハ其確定前ニ假執行ノ宣言ヲ付スヘキ
 モノニ非ス
 ○免許漁業權登錄書換ノ請求ハ意思ノ陳述ヲ求ムルモノナレハ其判決ノ
 確定前ニ於テ判決確定ト同一ノ效果ヲ有スル假處分命令ヲ發シ請求者
 ヲ以テ漁業權者ト爲スヲ得ス
 ○法律カ意思ノ陳述ニ付キ方式及ヒ内容ヲ定メタル場合ニ於テ意思ノ陳
 述ヲ爲スヘキコトノ判決ヲ受ケタル債務者ハ判決ノ確定ヲ以テ其方式
 及ヒ内容ニ從ヒ陳述ヲ爲シタルモノト看做スヘキモノトス

四二	一三八
四三	四二六
四五	三七七
二	二六
六	二九八

第四章 假差押及ヒ假處分

○債務者ニ對スル電話加入名義變更ノ請求ヲ爲スヘキコトヲ命シタル判
 決カ確定シタルトキハ債務者ハ電話規則第二十二條第二項所定ノ書面
 ヲ以テ加入名義變更ノ請求意思ヲ表示シタルコトヲ爲リ判決ノ執行ハ
 何等執行手續ヲ要セスシテ判決ノ確定ト共ニ當然實現セラルルモノト
 ス
 ○假差押假處分ハ執行保全ノ爲メニ要スル行爲ナレハ其申請及ヒ之ニ對
 スル命令ハ即チ一種ノ特別訴訟手續ニ屬スルモノニシテ執行手續ニ非
 ス
 ○假處分ハ假差押ト異ナリ金錢以外ノ特定給付ニ對スル請求權ノ執行ヲ
 保全スル方法ナレハ本案訴訟ニ係ル請求權ニシテ金錢給付ヲ目的トス
 ルモノナルニ於テハ之ヲ保全スルニ假差押ヲ以テスヘクシテ假處分ヲ
 以テスルコトヲ得ス
 ○地所假差押ノ登記カ抹消セラレタル後其地所ノ賣買登記ヲ受クルモ假
 差押登記ノ抹消カ不法ニ出テ假差押ヲ爲サシメタル債權者之ニ關與セ
 サルトキハ假差押ノ效力ハ依然トシテ失ハス從テ所有權ハ後ノ賣主ニ

六	二九八
三四	一
元	八四二

移轉スルモノニ非ス

○假差押申請者カ本案ノ請求立タスシテ敗訴スルトキハ不當ニ他人ノ財産ヲ差押ヘタルモノナルヲ以テ之ニ因リ生シタル損害ニ付テハ其責任スヘキモノトス

○民事裁判所ニ申請シテ假差押ノ命令ヲ得タル後申請者ノ選擇ニ依リ本案ノ訴ヲ私訴トシテ刑事裁判所ニ提起スルモ既ニ得タル假差押ノ命令ノ無効ヲ惹起セルカ如キ關係ヲ生セス

○金錢支拂ノ債權ニ對スル假差押命令ノ效力ト有價證券引渡ノ債權ニ對スル假差押命令ノ效力ト同一ニ看做スコトヲ得ヘキヤ否ヤハ其假差押命令タルノ性質上他ノ法則若クハ規約等ニ拘ハラズ專ラ民事訴訟法ノ規定ニ依リ之ヲ決セサルヘカラス

○金錢支拂ノ債權ニ對スル假差押命令ノ效力ハ有價證券引渡後ノ債權ニ及ホスコトヲ得サルモノトス

○假差押ナルモノハ金錢ノ債權ノ強制執行ヲ保全スルヲ目的トスヘキモノナルカ故ニ其金錢ノ債權ニシテ確定スルニ至レハ假差押ハ之ヲ解除セスシテ直ニ強制執行ニ移リ即チ本差押ニ變更シ之ヲ續行スルヲ得ヘキモノトス

二七	七〇
二八	三
二九	二
三〇	四九
三一	三
三二	七三
三三	七三
三四	三
三五	二九
三六	二九

(同手當)

假差押ヲ爲シタル債權者ノ權利確定シテ強制執行ヲ爲スナ得ヘキ時期ニ達スルトキハ前ニ假差押ヲ爲シタル目的ニ付キ更ニ差押ノ手續ヲ爲スノ要ナク直ニ競賣換價等ヲ爲スコトヲ得ヘシ

○假差押命令ノ取消ト假差押命令ノ執行ノ取消トハ其管轄手續共ニ相異ナルモノニシテ之ヲ混同スルヲ許サス

○裁判所カ債務者ニ對シテ發スル有體動産假差押命令ハ債務者所有ノ有體動産ニ限り之ヲ差押フヘキコトヲ命スルモノトス從テ假差押命令ニ依リ第三者所有ノ有體動産ヲ差押ユルカ如キハ該命令ノ法律上ノ效力トシテ當然發生スヘキ結果ニ非ス

(刑) ○假差押ノ處分ハ執行保全ノ方法ニ過キサレハ縱令其申請ヲ爲スモ之ヲ以テ直ニ訴訟ヲ提起シタルモノト云フヲ得ス

○債務者ハ假差押命令ノ執行ニ對シテ之ヲ拒ムコトヲ得サルト同時ニ縱令債務者ヨリ其差押物ヲ選擇指示スルモ執達吏ハ之ニ從フヘキ責任ヲ有セス故ニ差押自體ノ不法ナル場合ニ在テハ執達吏カ債務者ノ指示セラル物品ヲ差押ヘタリトモ之カ爲メニ債權者ノ責任ニ異同ヲ生スルコトナシ

○假差押ハ債權ノ強制執行ヲ保全スルコトヲ目的トシ之ヲ爲ササルトキ

三二	七六
三三	二四二
三四	二六
三五	一九二
三六	一九七
三七	一九七
三八	一九七
三九	一九七
四〇	一九七
四一	一九七

○乙者ノ敗訴ニ歸シタルハ其請求ノ根據ナキカ故ニ非スシテ起訴ノ方法其宜ヲ得サリシカ爲メナレハ對手人甲者ハ之カ爲メ乙者ニ對スル債務ヲ免脱セラレタルモノト云フヲ得ス然ラハ縱令乙者ハ一旦敗訴シタルニモセヨ本訴ニ於テ勝敗ノ判決ヲ受クルニ至リタル上ハ前訴ノ際債權保全ノ爲メ爲シタル假差押ハ決シテ不法ナリト云フヲ得サルニ付キ原裁判所カ其債權ヲ保全スルノ意思ヲ以テ假差押ヲ爲シタルハ縱令訴訟ノ目的ヲ達セサルモ違法ニ非スト説明シタルハ相當ナリ而シテ原判決ノ探證上ニ多少ノ不都合アルモ之カ爲メ損害ヲ受ケタリト云フヲ得サル筋合ナルトキハ爲メニ其判決ヲ破毀スルニ足ラス

○假差押命令ハ強制執行ヲ保全スルカ爲メニシテ單純ナル強制執行ノ一部ニ非ス

○條件附ノ請求權ト雖モ一タヒ條件到來スルニ於テハ強制執行ヲ要スルコトアルヲ以テ豫メ其執行ヲ保全スル爲メニ假差押ヲ爲スノ必要アリ從テ假差押ハ條件附ノ請求ニ付テモ亦之ヲ許スヘキモノトス

『第七百四十條』

○假差押ノ申請ニ付テハ本案請求ノ旨趣ヲ表示スルヲ以テ足り請求ノ原因ハ之ヲ開示スルヲ要セス

三五	四一	三三	二七
七	一	二	六
四三	二四	一九	四五

第七百四十一條

○民事訴訟法第七百四十一條第二項ニアル假差押ニ因リ債務者ニ生スヘキ損害トハ單ニ假差押ノ爲メニ生シタル訴訟費用及ヒ執行費用ヲ指スノミナラス不當ナル假差押ノ爲メニ生シタル總テノ損害ヲ指スモノトス

○然レトモ不當ノ假差押ニ付テハ民事訴訟法ハ法律上ノ效果トシテ訴訟費用執行費用及ヒ假差押物ヲ債務者ノ占有ニ復歸セシムル爲メノ費用ヲ債權者ニ支拂ハシムルニ過キス

○債務者ニ於テ債權者ニ對シ前項以外ノ損害ヲ請求セント欲セハ宜ク原告トシテ債權者ノ爲シタル假差押カ故意又ハ過失ニ出テタルコトヲ立證セサルヘカラス然ラサレハ民法ノ規定ニ基キ債權者ニ賠償責任ヲ生セシムルコトヲ得ス

『第七百四十三條』

○假差押債權者ハ假差押ノ目的物ニ付キ優先辨濟ヲ受タルノ權利ヲ有セサレハ其目的物ニ代ル供託金ニ付テモ亦優先辨濟ヲ受タルノ權利ナキモノトス

○民事訴訟法第七百四十三條ノ規定ニ依リ假差押命令ノ執行ヲ停止スル

三五	二	二六
三五	二	二六
三	三	八二〇

○トヲ得ル爲メ又ハ執行シタル假差押ヲ取消スコトヲ得ル爲メニ債務者ノ供託スヘキ金額ヲ定ムルニハ債權者カ假差押申請ノ基本トシテ主張スル請求ノ金額又ハ價額ヲ標準トスヘキモノニシテ假差押命令ノ執行ノ目的ト爲ルヘキ債務者ノ財産ヲ標準トスヘキモノニ非ス

第七百四十六條

○假差押ノ申請ヲ爲スニ當リ本案ノ訴訟ヲ提起スヘキ裁判所ニ付キ豫メ意思ヲ表示シタルノミニテハ未タ以テ本案訴訟カ其裁判所ニ起訴セラレタルモノト云フヲ得ス

第七百四十七條

○民事訴訟法第七百四十七條ハ裁判所カ假差押ノ命令ヲ發スル當時ニハ之ヲ發スル理由アリテ債務者ノ異議ヲ容ルルコト能ハサルモ爾後假差押ノ理由消滅シ其他事情ノ變更シタルカ如キ場合ニ於テ該命令ノ取消ヲ申請シ得ヘキコトヲ規定セルモノトス

○假差押又ハ假處分ニ付キ其本案ノ請求原因消滅シタル場合ハ民事訴訟法第七百四十七條ノ所謂事情ノ變更シタルモノニ該當ス
○民事訴訟法第七百四十七條ニ所謂事情ノ變更トハ假差押ノ續行ヲ不當トスヘキ事情ヲ謂フモノニシテ即チ假差押ノ理由ノ消滅シタル場合ヲ

指稱スルモノトス

○私訴判決ノ形式上竝ニ實質上ノ確定力ハ公訴判決ノ變更ニ因リ動カサルヘキモノニ非サレハ犯罪ニ因ル賠償請求權ノ爲メニスル假差押後同旨趣ノ私訴判決確定シタル以上ハ其後被告カ無罪ノ判決ヲ受クルコトアルモ斯ル事情ハ民事訴訟法第七百四十七條第一項ニ所謂假差押ノ理由消滅シ其他事情ニ變更ヲ生シタル場合ニ該當セサルモノトス

○本案カ控訴審ニ繫屬中ハ控訴裁判所カ所謂本案ノ裁判所ナルヲ以テ假差押取消申立ノ當時本案カ控訴審ニ繫屬スル以上ハ其申立ニ付テノ管轄裁判所ハ控訴裁判所ナリトス而シテ判決當時ニ於テハ既ニ本案カ控訴審ノ繫屬ヲ離脱スルモ之カ爲メ管轄ニ變更ヲ來スヘキモノニ非ス

第七百四十八條

○假差押命令執行ノ取消ニ付テハ民事訴訟法第七百四十八條以下ノ規定ニ依ルヘキモノナレハ債權者ニ於テ之ヲ取消シ得ヘキ裁判又ハ其他ノ書類ヲ得タルトキハ同法第五百五十條ヲ準用シ執行ノ取消ヲ求メ得ル場合アレトモ然ラサルトキハ債權者ニ於テ其取消ヲ求ムヘキハ當然ナリ

○(刑) 執達吏カ假差押ヲ爲サントスルニ當リ債務者ニ於テ供託ヲ爲シタル旨

元	七五	四	三	二	一
七五	一〇六	一三〇	一六五	二〇〇	二三五
四一	三九	二九	一九	九	〇
一〇六一	一六七	二二	二二	二六	七六

○ノ證明書ヲ提出シタルトキハ其執行ヲ停止シ之カ顛末ヲ調書ニ記載スルハ當然執達吏ノ職務ニ屬スルモノトス

(刑)

○民事訴訟法第五百四十九條ノ規定ハ同第七百四十八條ニ依リ假差押ニモ亦之ヲ準用スヘキモノトス

○民事訴訟法第五百四十九條ニ依ル假差押ニ對スル執行異議ノ訴ハ第三者カ原告トシテ執行ノ目的物ニ付キ所有權其他目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨クル權利ヲ主張シ以テ相手方ノ權利ノ實行ヲ否認スルニ外ナラサレハ訴訟中假差押カ強制執行トシテ存續スルニ至リタルトキハ原告ハ假差押ヲ許ササル旨ノ判決ヲ求ムル申立ヲ強制執行ヲ許ササル旨ノ判決ヲ求ムル申立ニ訂正スルコトヲ得ルモノトス而シテ斯ル訂正ハ民事訴訟法第九十六條第一項第一號ニ所謂申述ノ更正ニ該當シ申立ノ變更若クハ其擴張ニ屬セス

○假差押ノ執行ニ付テハ民事訴訟法第七百四十八條ニ依リ強制執行ニ關スル規定ヲ準用スルヲ以テ假差押ノ執行ニ必要ナル費用ハ同法第五百五十四條ニ依リ債務者ノ負擔ニ歸シ強制執行ノ請求ト同時ニ債務者ヨリ之ヲ取立ツルコトヲ得ルモノトス

(第七百五十一條)

○債務者所有ノ公債證書又ハ株券ヲ保管スル第三者ハ之ヲ返還スル債務ヲ負フ者ナレハ債權者ハ債權假差押ノ手續ニ依リ之カ假差押ヲ爲スコトヲ得

(第七百五十二條)

○株金拂込ノ債務ニ付キ假差押ノ存續中債務者タル株式會社カ第三債務者ニ對シテ拂込ノ催告ヲ爲スモ其行爲ハ法律ニ違背スル所ナケレハ之ヲ無効ナリト云フヲ得ス

(第七百五十三條)

○債權者カ債務者所有ノ不動産ニ對シ假差押ヲ爲シ其假差押命令ノ登記簿ニ記入セラレタル場合ニ於テ其以前他ノ債權者カ該不動産ニ付キ抵當權ヲ取得シタルモ假差押後其登記ヲ爲シタルトキハ對抗條件欠缺ノ爲メ其抵當權ヲ假差押債權者ニ對抗スルコトヲ得スト雖モ之ヲ以テ該登記後ニ配當要求ヲ爲シタル債權者ニ對抗シ得ルモノトス

○如上ノ場合ニ於テ假差押カ其儘本差押ト爲リタルトキト雖モ其效力ノ

民事訴訟法 強制執行 假差押及ヒ假處分 一八二五

四〇 六五七

四三 一〇六七

五 一七六六

六 二七〇

六 二七〇

三三 二一九

四〇 三〇七

三 二一六

○利益ヲ享クル者ハ依然假差押債權者ノミニ止マリ其利益ハ當然配當要求ヲ爲シタル債權者ニ及フヘキモノニ非サレハ抵當權者ハ此場合ニ於テモ亦抵當權ヲ以テ其登記後ニ配當要求ヲ爲シタル債權者ニ對抗シ得ルモノトス

第七百五十四條

○民事訴訟法第七百五十四條第一項ノ規定ニ依リ債務者カ假差押ノ執行ノ取消ヲ求ムルニハ執行アリタル財産ノ價額如何ニ關セス假差押命令ニ於テ定メラレタル金額ノ全部ヲ供託スルコトヲ要ス從テ執行アリタル財産ノ價額カ債權者ノ請求金額又ハ價額ヲ超過スル場合ニ於テモ其超過部分ノ價額ニ相當スル金錢ヲ供託シテ執行ノ一部ノ取消ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス

第七百五十五條

○前訴ノ確定判決ノ執行ヲ續行スル場合ニ於テ民事訴訟法第七百五十五條以下ニ依リ係争物ニ關シ假處分ヲ爲スノ規定ヲ適用シタルハ不法ナリ

○假處分命令ノ手續ハ一種ノ訴訟手續ニシテ強制執行ノ手續ニ非ス

○假處分ハ假差押ト異ナリ原告ノ地位ニ立ツ者ナルト被告ノ地位ニ立ツ者ナルトヲ問ハス之カ申請ヲ爲シ得ヘキモノニシテ其性質上該處分ニ係ル係争物ニ付キ雙方ノ權利ノ行使ヲ停止スヘキヲ常トス

○假處分ハ本案訴訟ニ於テ他日勝訴ノ判決ヲ受クルモ現狀ノ變更ニ因リ其判決ヲ執行スルコト能ハス又ハ之ヲ執行スルニ著シキ困難ヲ生スル恐アル場合ニ限り許サルル保全方法ニ外ナラサレハ判決ヲ執行スルヲ得サル第三者ノ物件ニ付キ許スヘキモノニ非ス

(同旨)

訴訟當事者以外ノ者ニ對シ假處分ヲ爲スハ不當ナリトス

第七百五十六條

○假處分ヲ以テ裁判所カ決定ニ依リ被上告人ニ對シ或行爲ノ禁止ヲ命令シタル場合ニハ其決定書ヲ被上告人ニ對シ送達シ終リタル以上別ニ執達吏ヲシテ執行ヲ爲サシムヘキモノニ非ス從テ假差押命令ノ場合トハ自ラ差違アルヲ以テ假處分送達ヲ十四日ノ期間内ニ執行セサリシトテ假處分ヲ取消スヘキモノニ非ス

○假處分申請ニ付テノ訴訟代理人ハ其決定ニ對スル相手方ノ異議申立ニ對シ民事訴訟法第六十五條ニ從ヒ當然答辯ヲ爲ス資格ヲ有ス

○假處分決定ニ對スル異議ノ申立ニハ當事者ノ表示ヲ要件トセス唯何人

三六	三六	一〇二四
六	三	九七二
三三	九	三四
三〇	二六	五四七
三	三	九二

三〇	二七	三五	三
三	三	二	二六六
一七六	一七六	七六四	

- ノ申請ニ因ル假處分ノ決定ニ對シ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由ヲ開示スレハ足レリ
- 裁判所カ終局判決ヲ以テ起訴者ノ請求ヲ排斥スルトキハ假處分ニ關スル事情ノ變更ト看做シ申立ニ依リ其處分ヲ取消スコトヲ得ヘキハ法理上當然ナリ
- 假處分ノ命令ニ對シ不服アルトキハ民事訴訟法第七百五十六條第七百四十四條ニ依リ異議ノ申立ヲ爲スヘキモノニシテ抗告スヘキモノニ非ス此手續ハ假處分ヲ命シタル裁判所カ第一審裁判所ナルト抗告裁判所ナルトヲ問ハサルモノトス

(同主旨)

假處分決定ニ對シ不服ヲ申立ツルトキハ民事訴訟法第七百四十四條第一項及ヒ第七百五十六條ニ依リ異議ヲ申立ツルコトヲ得ヘキモノ同第五百五十八條ニ從ヒ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

- 假處分申請ノ當否ハ一ニ權利ヲ實行セントスル當時ノ現狀如何ニ因リ決定スヘキモノナルヲ以テ時期ヲ異ニスルトキハ當事者ニ於テ同一權利ノ實行ニ關シ再三假處分ノ申請ヲ爲シ得ヘク斯ル場合ニハ其申請事件ハ各箇相特立スルモノニシテ同一事件ニ非ス
- 假處分ニ對スル異議ハ債務者カ其決定ノ當否ヲ争フモノニシテ該命令

- ノ取消ヲ申立ツル場合ノ如ク事由ニ制限アルコト
- 假處分ノ決定ニ對シ異議ヲ申立ツル者ハ其理由ヲ疏明スルヲ以テ足り之方證明ヲ爲スコトヲ要セス
- 假處分命令ノ申請ヲ爲シタル者ハ縱令假處分ノ理由消滅スルモ該命令ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ權利ナケレハ之カ取消ヲ申立テサリシトテ其過失ナリト謂フヲ得ス
- 假處分申請ノ基本タル請求カ其主張自體ニ於テ法律上許スヘカラサルモノナルカ若クハ理由ナキモノナルトキハ根本ニ於テ申請ノ理由ヲ缺如スルカ故ニ全然之ヲ許容スルノ要ナシ
- 假處分ニ對スル異議ノ申立ハ訴ノ性質ヲ有スルモノニ非ス故ニ右申立ニ代ヘテ損害賠償ヲ請求スルハ前訴ヲ變シテ損害賠償ヲ請求スルモノニ非スシテ新ナル訴ナリトス從テ民事訴訟用印紙法ノ定ムル所ニ從ヒ相當ノ印紙ヲ貼用スヘキモノトス
- 第三者カ假處分申請者ノ爲メ保證トシテ現金又ハ有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テモ保證債務ヲ負擔シタルモノト爲スヘキ理由ナシ
- 民事訴訟法第七百五十六條第七百五十條第四項末段ノ規定ハ假處分債權者又ハ債務者ニ換價申立ノ權能ヲ付與シタルニ止マリ其申立ノ義務

三二	二	四
三一	五	一〇三
三〇	三	一七六
二九	二	一三〇
二八	一	一〇三
二七	〇	一〇三
二六	〇	一〇三
二五	〇	一〇三
二四	〇	一〇三
二三	〇	一〇三
二二	〇	一〇三
二一	〇	一〇三
二〇	〇	一〇三
一九	〇	一〇三
一八	〇	一〇三
一七	〇	一〇三
一六	〇	一〇三
一五	〇	一〇三
一四	〇	一〇三
一三	〇	一〇三
一二	〇	一〇三
一一	〇	一〇三
一〇	〇	一〇三
九	〇	一〇三
八	〇	一〇三
七	〇	一〇三
六	〇	一〇三
五	〇	一〇三
四	〇	一〇三
三	〇	一〇三
二	〇	一〇三
一	〇	一〇三

三九	一六二七
四〇	三六〇
四一	四五五
四二	六六七
四三	二四七
四四	二

アリト爲シタル法意ニ非ス

○民事訴訟法第七百五十六條第七百四十四條第二項ニ依リ債務者カ異議申立書ニ開示スル理由ハ防禦方法ニ關スル準備書面タルノ性質ヲ有スルニ過キスシテ異議ノ申立ニ依リ假處分申請ニ關スル當事者ノ地位ハ何等變更ヲ受クルコトナキヲ以テ債權者ハ請求及ヒ假處分ノ理由ヲ疏明セサルヘカラス

○民事訴訟法第七百五十九條ハ保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スニハ特別ノ事情アルコトヲ要スルモノト爲シ此點ニ於テ假差押ノ規定ニ差異ヲ設ケタルモノナレハ保證ヲ立ツルコト以外ノ理由ニ因ル假差押ノ取消ニ付テノ同法第七百四十五條第二項第七百四十七條第一項等ノ規定ハ假處分ニ準用セラレサルモノニ非ス

(反對)

民事訴訟法第七百四十五條ハ之ヲ假處分ニ準用スルコトヲ得ス

○假處分ニ付キ其理由消滅シ其他事情ノ變更シタルトキハ民事訴訟法第七百五十六條第七百四十七條ニ依リ之ヲ取消ヲ許スヘキモノトス

○家督相續回復請求ノ訴訟ニ於テ原告カ第一審第二審トモ實體上ノ理由ニ依リ敗訴ノ判決ヲ受ケ其假處分申請ニ當リ疏明シタル事實ト反對ナ

ル事實ノ存在ヲ觀得ルニ至リタルトキハ該判決ハ未確定ナルモ事情ノ變更アリタルモノニシテ假處分ノ取消ヲ許スヘキモノトス

○仲裁契約ノ抗辯ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得ヘシト雖モ仲裁契約ノ當事者ノ一方カ仲裁判斷ニ付スヘキ爭訟ニ付キ假處分ヲ爲シタル場合ニ其相手方カ之ニ對シ起訴ヲ命スヘキコトヲ裁判所ニ申立テタルコトハ未タ以テ豫メ仲裁契約ノ抗辯ヲ拋棄シタルモノト爲スコトヲ得サルモノトス

○民事訴訟法第七百六十一條ニ基キ區裁判所ノ發シタル假處分命令ニ對シテハ本案ノ管轄裁判所ニ於テ之カ當否ノ辯論ヲ經テ其運命ヲ決スヘキモノナレハ之ニ對シ同條ノ期間經過ノ故ヲ以テ取消ノ申立ヲ爲スハ格別異議ヲ申立テ其他特別ノ事情ニ基ク取消ヲ申立ツルコトヲ得サルモノトス

○假處分ヲ許スヘキヤ否ヤヲ審理スルニハ其申請カ請求及ヒ假處分ヲ必要トスル理由ノ疏明ニ缺クル所ナキヤ否ヲ審理スルヲ以テ足り縦令相手方ヨリ假處分命令ニ對シ異議ノ申立アリテ口頭辯論ヲ開キタル場合ニ於テモ此範圍ヲ超ヘ相手方ノ提出シタル證據方法ト比較對照シ假處分申請ノ基礎タル請求權自體ノ存否ニ關シテ審理判決スヘキモノニ非

四 一七〇九

五 一九二

五 一九三

六 二〇〇

六 二七四

六 二七四

六 七六

六 一三〇

(同主旨)

假處分ノ許否ヲ決定スルニハ其假處分ノ申請ニ付キ法律ニ規定シタル假處分ヲ許スヘキ理由アルヤ否ヤヲ審理スヘキモノニシテ主タル訴訟ノ曲直ヲ豫斷シ之ニ由テ假處分ノ許否ヲ定ムヘキモノニ非ス

○假處分命令ノ申請ニ付キ前審カ口頭辯論ヲ經スシテ決定ヲ以テ裁判ヲ爲シ抗告審ニ至リ始メテ口頭辯論ヲ爲ス場合ト雖モ終局判決ヲ以テ其裁判ヲ爲スヘキモノトス

(第七百五十七條)

○地方裁判所カ本案ニ付キ事物ノ管轄違トシテ訴ヲ却下シ之ヲ區裁判所ニ移送スル言渡ヲ爲シタル場合ト雖モ該判決確定セサル間ハ其訴訟ハ依然地方裁判所ニ繫屬スルモノニシテ尙ホ本案ノ管轄裁判所ト看做スヘキモノナレハ曩ニ同裁判所ノ發シタル假處分命令ニ付テモ亦其管轄權ヲ失フコトナシ

○假處分ノ裁判ヲ爲スニ當リ急迫ノ場合ナルヤ否ヤヲ定ムルハ管轄裁判所ノ職權ニ屬スルモノトス

(第七百五十八條)

○假處分裁判所ハ其意見ヲ以テ自由ニ假處分ノ申立ノ目的ヲ達スルニ必

三三六

三三六

○要ナル處分ヲ定ムルコトヲ得ルモノトス

○假處分命令ヲ以テ株券拂込ノ催告及ヒ株主權喪失ノ通知ノ效力ノ發生ヲ一時停止シタル場合ニ後日本案ニ於テ請ホテ理由ナキモノト認メ之ヲ却下スル旨ノ確定判決アルカ又ハ其本案判決前假處分命令カ取消サルルニ至リタルトキハ該催告及ヒ通知ノ效力ノ停止ハ始メヨリ無シコトト爲ルモノトス

○假處分命令ニ依リ物ノ所有者ニ對シ處分行爲ヲ禁止セラレタル場合ニ於テハ禁止中ニ係ル物件ヲ買受タルモ其效力ヲ生スルコトナシ

○受訴裁判所カ假處分トシテ競賣申立人ニ不動産ノ競賣ヲ停止スヘキコトヲ命令シタルトキハ競賣裁判所ハ之ニ基キテ競賣ノ手續ヲ停止セラレハカラス

○假處分ノ旨趣ハ一ニ其命令ニ掲クル所ニ從ヒ解釋セサルヘカラサルモノナルヲ以テ假處分ノ旨趣ニシテ不動産ニ關スル一切ノ處分ヲ禁止スルモノナルトキハ既ニ爲サレタル處分ニ因ル登記ハ之ニ依リ禁止セラレタルモノニ非ス

○養父母ヨリ推定家督相續人タル養子ニ對シ離縁ノ訴訟ヲ提起シタル場合ニ於テ養父カ其訴訟ノ控訴審繫屬中ニ死亡シタルトキハ爾後該訴權

三

五三

四三

一〇四

三七

四五八

四

三三六

三元

三三三

三元

三三三

七

三三六

三三

三

四

六

一五二七

ヲ行使スル者ナキニ至ルヲ以テ養父子間ノ訴訟ノ權利拘束ハ當然終了シ離縁ノ裁判ヲ得ルコト全然不可能ニ歸シタルモノナレハ養子ニ對シ其身分ニ伴フ相續其他ノ行為ヲ禁止スル假處分ヲ爲スノ必要ナキモノトス

三

○假處分命令ヲ以テ執達吏ヲ保管人ト定メタル場合ニ於テ執達吏カ係争物ヲ保管スルハ執達吏トシテノ職務ノ執行ニシテ執達吏以外ノ者カ之ヲ保管スル場合ノ如ク申請人ノ代理人トシテ申請人ノ爲メニ代理占有ヲ爲スモノニ非ス

四

一七〇九

○一定ノ權利ノ讓渡ヲ禁止スル假處分アリタル場合ニ於テ之ヲ無視シテ爲シタル讓渡行為ハ善意ノ讓受人ニ對シテモ效力ヲ生スヘキモノニ非サルカ故ニ右行為ノ有效ナルコトヲ前提トシテ爲シタル免許ノ行政行為ハ自然其效力ヲ失ヒ其權利ハ原權利者ニ復歸スルモノトス

六

二二六

○債務者ノ處分ヲ禁スル假處分命令ナルモノハ其探掘特許權ナルト他ノ財産權ナルトニ論ナク將來ニ於ケル行為ヲ禁スルモノニシテ其以前ノ行為ニ付テハ縱令其行為カ賣買ノ豫約ニ係ルト雖モ其豫約ノ實行マテヲ禁スルカ如キ效力ヲ有スルモノニ非ス

三四

五

二二五

○地上權及ヒ永小作權登記請求ノ訴訟ヲ提起セントスルニ當リ其權利ノ保全方法トシテハ假登記ヲ申請スルヨリモ寧ロ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ假處分ノ申請ヲ爲シ裁判所ヲシテ同法第七百五十八條第三項ニ依リ其處分ヲ爲サシムルヲ以テ便利且相當トス

三四

九

一七七

○假處分ノ命令ニ依リ不動産ノ讓渡又ハ抵當ト爲スコトヲ禁シタルトキハ獨リ該命令ニ反スル讓渡ヲ以テ假處分ヲ申請シタル當事者ニ對抗シ得サルノミナラス其假處分中ニ在テハ相手方モ亦讓渡ヲ實行シ得サルモノトス

三七

一七九

第七百五十九條

第七百五十九條

○假處分取消ノ申立ニ付テハ民事訴訟法第七百五十六條ニ依リ假差押取消手續ニ於ケル同第七百四十七條第二項ノ規定ヲ準用シ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判スヘキモノトス

三三

二

一三七

(同主旨)

民事訴訟法第七百五十九條ニ因リ爲シタル假處分取消ノ申請ニ付テハ同法第七百四十七條ニ從ヒ終局判決ヲ以テ裁判スヘキモノニシテ決定ヲ以テ裁判スヘキモノニ非ス
特別ノ狀況ニ因レル假處分命令取消ノ申請ニ付テハ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判スヘキモノナリ

三〇

七

一三

○如何ナル事情カ民事訴訟法第七百五十九條ニ規定スル特別ノ事情ナルヤハ一ニ事實承審官ノ査定ニ依ルヘキモノトス

三五

四

一六

- 民事訴訟法第七百五十九條ハ同第七百六十條ニ規定スル假處分ノ場合ニモ之ヲ適用スヘキモノトス
- 民事訴訟法第七百五十九條ニ所謂特別事情ノ發生時期ニ付テハ法律上特ニ制限シタル所ナキヲ以テ假處分ノ前後ヲ問フヘキモノニ非ス
- 民事訴訟法第七百五十九條ハ保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スニハ特別ノ事情アルコトヲ要スルモノト爲シ此點ニ於テ假差押ノ規定ニ差異ヲ設ケタルモノナレハ保證ヲ立ツルコト以外ノ理由ニ因ル假差押ノ取消ニ付テハ同法第七百四十五條第二項第七百四十七條第一項等ノ規定ハ假處分ニ準用セラレサルモノニ非ス
- 裁判所カ原告ノ申請ニ因リ係争物ノ假處分ヲ爲シタル後被告ノ申請ニ因リ保證ヲ立テシメテ其假處分ヲ取消シタル場合ニ於テ假處分取消後被告カ係争物ヲ賣却シタルカ爲メニ原告ニ損害ヲ被ムラシメタルトキハ原告ハ其損害賠償請求權ニ基キ右假處分取消ノ爲メニ保證トシテ供託シタル金銭又ハ有價證券ニ付キ他ノ債權者ニ優先シテ辨濟ヲ受クル權利ヲ有スルモノトス
- 民事訴訟法第七百五十九條ニ所謂特別ノ事情ノ存否ハ假處分ニ依リ保全セラレタル請求權ノ存否カ尙ホ未確定ノ間ニ在ルヲ以テ獨リ債權者

四	三六〇
四	三六〇
五	二九三
五	二八七

(十二條)

- ノ利害ノミナラス債務者ノ利害ヨリモ觀察スルヲ要ス從テ債務者カ假處分ニ因リ普通ニ受クル損害ヨリモ多大ナル損害ヲ被ムルヘキ場合ノ如キハ特別ノ事情ノ存スルモノト謂ハサルヘカラス
- 民事訴訟法第七百五十九條ハ同第七百四十七條後段ノミニ對スル特別規定ニシテ保證ヲ立テシメテ假處分ヲ取消ヲ許スハ特別ノ事情アルトキニ限ルモノト解スヘキモノトス
- (同主旨)
- 假處分ノ取消ハ總令保證ヲ立ツル申立アルモ特別ノ情況アルニ在ラサレハ之ヲ許スヘキモノト非ス
- 執行力アル公正證書ヲ以テ抵當權ヲ設定シタル債務者カ強制執行ノ著手ナキ以前其債權者ニ對シ抵當無効ノ確認並ニ抵當登記ノ抹消ヲ請求セントスルトキハ民事訴訟法第七百六十條ノ規定ニ從ヒ強制執行ヲ爲スヘカラサル旨ノ假處分ヲ申請スルコトヲ得
- 家督相續權回復ノ訴ニ於テ民事訴訟法第七百六十條但書ノ規定ニ該當スル事由アルトキハ裁判所ハ當事者ノ申立ニ因リ相續財產ニ關シテ假處分ヲ爲シ得ルモノトス

六	二六〇
六	二七四
三	八
三	一〇
三五	一九三
三五	一〇三

(第七百六十條)

『第七百六十條』

○民事訴訟法第七百六十條ノ假處分ハ係争ノ權利關係カ數回ノ行爲ヲ目的トシ又ハ占有ノ狀態ヲ維持スルカ如ク其性質ニ於テ繼續スル時ニ在ラサレハ之ヲ許ササルモノトス

三元 一五八九
二 二六

第七百六十一條

○係争物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所カ民事訴訟法第七百六十一條第一項ニ依リ假處分ヲ命シタル場合ニ於テ其命令中ニ申請人ハ該命令送達ノ日ヨリ十四日以内ニ本案管轄裁判所ニ訴訟ヲ提起スヘキコトヲ掲クルモ之カ爲メニ該命令ヲ目シテ不合法又ハ無効ナリト謂フヲ得ス

四 二四〇

○民事訴訟法第七百六十一條ニ基キ區裁判所ノ發シタル假處分命令ニ對シテハ本案ノ管轄裁判所ニ於テ之カ當否ノ辯論ヲ經テ其運命ヲ決スヘキモノナレハ之ニ對シ同條ノ期間徒過ノ故ヲ以テ取消ノ申立ヲ爲スハ格別異議ヲ申立テ其他特別ノ事情ニ基ク取消ヲ申立ツルコトヲ得サルモノトス

六 一三八〇

第七百六十二條

○民事訴訟法第七百六十二條本文ノ法意ハ要スルニ本案ノ未タ何レノ裁判所ニモ繫屬セサル場合及ヒ其上告裁判所ニ繫屬スル場合ニ於テ第一審裁判所ヲ以テ所謂本案ノ管轄裁判所トスルコトヲ規定シタルニ外ナラス

三四 二七六

○本案カ控訴審ニ繫屬中ハ控訴審裁判所カ所謂本案ノ裁判所ナルヲ以テ假差押取消申立ノ當時本案カ控訴審ニ繫屬スル以上ハ其申立ニ付テノ管轄裁判所ハ控訴裁判所ナリトス而シテ判決當時ニ於テハ既ニ本案カ控訴審ノ繫屬ヲ離脱スルモ之カ爲メ管轄ニ變更ヲ來スヘキモノニ非ス

六 一六五二

第八編 仲裁手續

○仲裁人ハ特ニ委任ヲ受ケタル場合ニ在ラサレハ金圓授受ノ權限ヲ有セス

二九 九三

○仲裁判斷ノ數多ノ事項カ彼是牽連シテ分離スヘカラサルモノナルトキハ其中或一項ニ關スル判斷ニシテ取消サル以上ハ他ノ事項ニ關スル判斷モ亦之ヲ取消スヘキモノナリト雖モ或事項ト他ノ事項ト牽連セサル場合ニ於テ彼ノ判斷ヲ取消ストキハ此判斷ヲモ取消ササルヘカラサルカ如キ規定及ヒ條理ナシ

三七 一〇〇〇

○仲裁判斷ニ關シテハ民事訴訟法中補充判決ニ於ケルカ如ク特ニ規定スル所ナキヲ以テ仲裁人カ一旦民事訴訟法第七百九十九條ニ定メタル手續ヲ完了シタル後ハ補正判斷ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

元

九〇五

○仲裁手續ニ於ケル仲裁人ノ職務ハ仲裁契約ノ目的タル係争事項ニ付キ自己ノ獨立自由ナル意見ヲ以テ適當ト認ムル所ニ從ヒ裁斷ヲ與フルニ在ルモノナレハ民事訴訟法ノ認ムル一種公ナル裁判機關ニシテ單純ナル當事者ノ代理人ニ非サルモノトス

○民事訴訟法第七百八十六條以下ニ規定セル仲裁契約ハ仲裁人ヲシテ民事上ノ争訟ヲ判斷セシムル合意ニシテ其結果當事者ハ妨訴抗辯ヲ有スルニ至リ又此契約ニ基キテ爲サレタル仲裁判斷ハ確定判決ト同一ノ效力ヲ有スルニ至ルカ故ニ民事訴訟法上ノ契約ニシテ實體法上ノ契約ニ非ス

五

一〇三五

○仲裁契約ノ内容ハ實體法上ノ契約ノ如ク自由ナラサルヲ原則トシ吾民事訴訟法ニ於テ特ニ認メラレタル範圍ニ於テノミ當事者ノ自由協定ヲ許スモノトス

七

八六五

第七百九十二條

仲裁人ノ忌避ハ當事者カ判事ヲ忌避スル權利アルト同様ニ法律ノ付與

七

八六五

第七百九十三條

シタル特種ノ權利ニシテ仲裁人ヲ其職務ノ執行ヨリ除斥スル一種ノ訴訟手續ニ屬シ仲裁人ニ對スル委任契約ノ解除ニ非サルト同時ニ相手方ニ對シ其同意ヲ求ムル解任ノ意思表示トモ觀ルヘキモノニ非ス

五

一〇三五

第七百九十四條

○民事訴訟法第七百九十三條ノ規定ハ其第一號及ヒ第二號ニ掲クル出來事アリタル場合ニ於テ之ニ應スル豫定ナカリシトキハ仲裁契約ノ效力ヲ失フヘキコトヲ指示シタルモノニシテ此等ノ豫定ナキ仲裁契約ハ出來事ノ到來有無ヲ問ハス最初ヨリ效力ナシト云フニ非ス

三七

四六一

○民事訴訟法第七百九十四條ニ據レハ仲裁手續ニ付テハ當事者ノ合意ヲ認ムルカ故ニ當事者ハ自由ニ其手續ヲ定ムルコトヲ得ヘク其結果外國法ノ下ニ行ハルル手續ニ據ルヘキコトヲ定ムルモ有效ナリ
○如上ノ場合ニ於テハ單ニ手續其モノニ付キ當該外國法ニ於ケルト同一行動ニ出ツヘキ旨ヲ定ムルコトヲ許サルルニ止マリ其手續ニ依據シ若クハ依據セサルコトカ仲裁判斷ニ如何ナル效果ヲ及ホスヤニ付テ迄モ當該外國法ノ支配ヲ受クヘキ旨ノ合意ヲ許ス法意ニ非ス
○英國法ノ手續ニ於テハ仲裁人カ當事者ヲ審問シ又ハ證人ヲ取調フル場

七

八六五

合ニハ必ス豫メ其場所及ヒ日時ヲ當事者ニ通知シ之ニ立會フノ機會ヲ與フルコトヲ要スルモノトス

〔第八百一〕

〔第八百一條〕

○民事訴訟法第八百一條第一項第四號ニハ單ニ當事者ヲ審訊セザリシトキトアルカ故ニ當事者本人ノ審訊ヲ必要ト爲ササル法意ナリトス

○民事訴訟法第八百一條第五號ハ同第四百三十六條第七號ニ所謂裁判ニ理由ヲ付セサルトキトアル規定ト同シク全然理由ヲ缺キタル場合ハ勿論縱令仲裁判斷ニ理由ヲ付スルモ其理由ニシテ如何ナル旨趣ニ因リ其判斷ヲ下シタルヤノ説明即チ判斷ノ基ク事由ヲ開示セサル場合ヲモ包含セルモノトス

〔第八百二〕

〔第八百二條〕

○當事者ノ合意ニ依リ如上履踐スヘキ旨ヲ定メラレタル手續ニ據ラスシテ爲サレタル仲裁判斷ハ吾民事訴訟法第八百一條第一項第一號ニ所謂仲裁手續ヲ許スヘカラサリシトキニ該當スルモノトス(第七百九十四條七年八六五頁參照)

當トス

〔第八百五〕

〔第八百五條〕

○仲裁判斷ノ當事者カ執行判決ヲ求メタル場合ニ其訴適法ニシテ民事訴訟法第八百一條所定ノ取消原因存在セサル限ハ裁判所ハ確定事件ノ如キ執行機關ノ執行行爲ヲ要セサル時ニ於テモ該判斷ノ内容如何ヲ調査スルコトナク直ニ執行判決ヲ爲ササルヘカラス

〔第八百五〕

〔第八百五條〕

○當事者ノ一方カ仲裁人ヲ忌避スルニハ他ノ一方ヲ相手方トシ民事訴訟法第八百五條ノ規定ニ從ヒ訴ノ形式ニ依リ裁判所ニ忌避ノ權利アルコトノ確定ヲ求ムヘキモノニシテ相手方ニ對シ忌避ノ承認ヲ求ムヘキモノニ非ス

七

八六五

三六

九八七

三七

六三一

七

八六五

七

八六五

三九

一三五三

五

一〇三五

諸
法
令

民法施行法

(第二條)

『第一條』

- 民法實施前ニ生シタル借地關係ノ借地料増加ノ要求ニ付テハ民法施行法第一條ニ依リ民法ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ス
- 民法施行法第一條ニ所謂事項トハ民法施行前ニ生シタル事實及ヒ法律關係ヲ包括スル文詞ナリ
- 民法施行以前ニ出生シタル私生子ノ認知ニ付テハ明治六年第二十一號布告ヲ適用スヘキモノニシテ民法ノ規定ニ從フヘキモノニ非ス

(同主旨)

民法施行前ニ出生シタル私生兒ト其出生ニ關係アル男子トノ關係ニ付テハ民法施行法中新法ヲ適用セシムル法意ヲ認ムヘキ規定ナキヲ以テ依然舊法ニ從ヒ之ヲ定ムヘキ法意ナリトス

- 明治六年太政官布告第二百六十二號ニ基ク出願ノ許可ニ因リ廢嫡セラレタル者及ヒ其直系卑屬ニ對シテハ民法施行法第八十五條ヲ適用スヘキ限ニ在ラサレハ相續人タルヘキコトヲ許可セラレタル者ハ民法施行

民法施行法

一八四五

三六	三五
五	六
一五三	一六九
一五三	一六九

後ニ相續開始シタルトキト雖モ同第一條ノ規定ニ依リ相續權ヲ失ハサルモノトス

○民法施行前中繼相續人カ先代ノ家督相續ヲ爲シタル際先代ノ嫡子若クハ嫡孫ヲ家督相續人ニ指定シタル場合ニ於テハ其家督相續人指定ノ事實ハ民法施行法第一條ニ所謂民法施行前ニ生シタル事項ニシテ民法ノ施行ニ因リ當然其效力ヲ失フモノニ非ス

〔第四條〕

○民法施行法第四條ノ規定ハ證書作製ノ日附ニ付キ争アル場合ニ適用スヘキモノニシテ其日附ニ付キ争ナキ場合ニ適用スヘキモノニ非ス

○民法施行法第四條ノ規定ハ確定日附ナキ證書ハ其證書ノミニテハ作成ノ日附ニ付キ證據力完全ナラスト云フニ止マリ他ノ證據ヲ以テ之ヲ補足スルコトヲ禁スルノ法意ニ非ス

○確定日附ナキ證書ハ第三者ニ對シ其作成ノ日ニ付キ完全ノ證據力ヲ有セストノ規定ハ確定日附アル證書ヲ以テスルニ非サレハ主張ノ事實ヲ第三者ニ對抗シ得サル旨ノ規定アル場合ノ外絶對ニ其證書ノ證據力ナシトノ謂ニ非スシテ單ニ該證書ノミニ依リ其作成ノ日ヲ定ムル完全ノ證據ト爲シ得サルノ旨趣ニ外ナラス

〔第五條〕

○裁判所カ當事者ヨリ提出シタル書證ニ附記シタル閱覽ノ日附ハ確定日附ナリ

〔第十九條〕

○民法施行前ニ設立シタル財團ニシテ民法第三十四條ノ目的ヲ有スルモノハ民法施行法第十九條ニ依リ當然法人ト爲リタルヲ以テ縱令其代表者カ民法施行ノ日ヨリ三ヶ月内ニ同條第二項ノ手續ヲ爲ササルモ該法人ハ依然存續スルモノトス

〔第二十八條〕

○寺院ハ法人ナリト直接ニ規定シタル法令ナシト雖モ民法施行法第二十八條ニ民法中法人ニ關スル規定ハ當分ノ内神社、寺院、祠宇及ヒ佛堂ニハ之ヲ適用セストアリテ若シ民法ニ於テ寺院ヲ法人ニ非サルモノトスレハ此ノ如キ規定ヲ設クル等ナキニ此ノ如キ規定ヲ設ケタル所ニ由レハ民法ハ寺院ヲ法人ト爲シタルモノトス

〔第二十九條〕

○民法施行前ニ出訴期限ヲ經過シタル事實アル以上ハ債權辨濟ノ主張ナ

三五	七	二四〇六
四〇		二四〇六
三五	六	二四〇六
三五	五	二四〇六

三五	七	二〇一
三五	六	二〇一
三五	三	二〇一
三五	九	二〇一
三五	五	二〇一

○キモ單ニ出訴期限ノ援用アルニ於テハ民法施行法第二十九條ノ規定ニ依リ其債權ハ時効ニ因リ消滅シタルモノト看做スヲ得ヘシ

(同法)

民法施行前ニ出訴期限ヲ經過シタル債權ニ付キ辨濟ノ事實ヲ申立テサルモ出訴期限ヲ援用シタル以上ハ民法施行法第二十九條ニ基キ消滅時効ヲ適用スヘキモノトス

第三十條

『第二十條』

○民法施行前ニ出訴期限ヲ經過セサル債權ニ付キ民法施行法第三十條ニ從ヒ民法中時効ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テ其期間ヲ計算スルニハ民法施行前ニ經過シタル年月日數ニ施行ノ日ヨリ經過シタル年月日數ヲ通算スヘキモノトス

第三十二條

『第二十二條』

○明治十八年内務省達第二十號ニ依リ不動産書入公證ヲ受ケタル債權ハ出訴期限之ナキモノナルヲ以テ民法施行法第三十二條ニ依リ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從テ其時効ヲ起算スヘキモノトス

○民法施行前後見人カ親族ノ連署ナクシテ未成年者ノ不動産ヲ他人ニ賣渡シタル行爲ニ付テハ民法施行法第三十二條同第三十一條但書ニ依リ民法中取消權ノ時効ノ規定ヲ準用スヘキモノトス

○民法施行法第三十二條ニ所謂舊法ニ出訴期限ノ定ナキ權利トハ出訴期限規則ニ於テ出訴期限ヲ定メタル以外ノ時効ニ因リテ消滅シ若クハ取得シ得ヘキ凡テノ權利ヲ指稱スルモノトス

○係争賣買ニ基ク土地ノ所有權移轉ニ必要ナル意思表示ヲ請求シ得ヘキ債權カ民法施行前ニ成立シ出訴期限規則ニ出訴期限ノ定ナキモノナリト雖モ民法施行法第三十二條及ヒ第三十一條ニ依リ其時効期間ヲ民法施行ノ日ヨリ起算スルニハ民法施行ノ日ニ於テ既ニ債權ヲ行使シ得ヘキ時期ノ到來セルコトヲ要スルモノニシテ其時期カ民法施行後ニ到來シタルトキハ其時ヨリ時効期間ヲ起算スヘキモノトス

第三十四條、第三十六條

『第二十四條、第三十六條』

○嫡出子否認ノ訴ハ民法施行以前ニ在テハ別ニ出訴ニ關スル期限ノ規定ナク民法ニ於テ始メテ之ヲ定メラレタルモノナルカ故ニ民法施行以前ニ夫カ子ノ出生ヲ知リタルモノニ付テハ民法施行法第三十四條ニ依リ其第三十二條及ヒ第三十一條但書ノ規定ヲ準用シ民法施行ノ日ヲ以テ起算點ト爲スヘキモノトス

民法施行法

三一〇 六三

三三八 三三

四三 三四七

三四九 六〇

三九 一四七

四 一八五二

七 二二九八
七 二二九六

三四 一九

○民法第五百八十條第一項ハ當事者ノ定ムヘキ買戻期間ノ最長期ヲ限定シタルモノニシテ買戻期間ハ法定期間ニ非サレハ民法施行法第三十四條ヲ適用スルヲ得ス

○舊民法ノ下ニ於テ設定セラレタル質權ハ民法施行後十年ニ限り其効力ヲ有スヘキコトハ民法施行法第三十條第三十四條第三十六條ノ規定ニ徴シ明カナル所ナルヲ以テ質取主ハ民法實施ノ日ヨリ起算シ十年内ハ尙ホ質權者トシテ其權利ヲ保有スルモノトス

第三十七條

第三十七條

○登記ナルモノハ本登記ト假登記トヲ問ハス總テ第三者ニ對抗スルノ効力ヲ有ス隨テ民法施行法第三十七條ニ所謂登記ナル文字ニハ本登記ノ外尙ホ假登記ヲモ包含スルモノト解釋スルヲ相當トス

○民法施行法第三十七條ハ地上權又ハ永小作權ノ如キ從來登記ナクシテ絶對ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ權利ニノミ適用スヘキモノトス從テ所有權ノ如キ登記ナクシテ惡意ノ第三者ニノミ對抗スルコトヲ得ヘカリシ權利ニハ之ヲ適用スヘキモノニ非ス

○民法施行法第三十七條ノ規定ハ同條所定ノ期間内ニ登記セサルコトニ因リ同條所定ノ權利カ消滅シ又ハ其後ニ於テ登記スルコトヲ得サルニ

至ル旨ヲ定メタルモノニ非ス

○民法施行法第三十七條所定ノ權利ニシテ同條所定ノ期間内ニ登記セザリシモノト雖モ尙ホ其後ニ於テ登記ヲ爲スコトヲ得ル以上其權利ハ其登記ノ日ヨリ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルモノトス

○民法施行法第三十七條ハ民法又ハ不動産登記法ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ニ因リ生シタル權利ノ現在ノ狀態ハ民法施行ノ日ヨリ一年内ニ之ヲ登記スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ストノ法意ヲ有スルモノニシテ登記スヘキ事項即チ權利ノ動權事實其モノヲ登記スヘシトノ意義ニ非ス

○不動産カ民法施行前ニ於テ華族世襲財產ト爲リ其狀態カ民法施行當時尙ホ繼續スルトキハ民法施行法第三十七條ニ從ヒ其登記ヲ爲スニ非サレハ華族世襲財產タルコトヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス

第四十三條

第四十三條

○民法施行法第四十三條ノ規定ハ民法施行前ニ於テハ期間ノ定アルト否トヲ問ハス又動產ナルト不動産ナルトヲ論セス共有物ノ分割ヲ爲ササル契約ヲ締結セル慣習アリシコトヲ認メタルモノナリ

三六	四	四	四	四	四
二二六	二二六	二二六	二二六	二二六	二二六

四〇	三三	元	四三
一七五	九七	一〇七	二〇一

〔第四十四條〕

○民法施行法第四十四條ノ規定ハ慣習ノ存在スル場合ニ適用スルコトヲ得ス

○地上權存續期間指定ノ請求ハ民法施行前ヨリ地上權者カ有スル建物ノ現存スル場合ニ於テハ之ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス

○民法施行法第四十四條第一項ハ民法施行前ニ設定セル地上權ニシテ存續期間ノ定ナキモノニ付キ當事者ヨリ民法第二百六十八條第二項ノ請求アリタル場合ニ裁判所カ其存續期間ヲ定ムヘキ標準ヲ示シタルモノナルモ第二項ハ建物ノ朽廢又ハ竹木ノ伐採期ニ至ルマテヲ以テ存續期間ト定メタルモノニシテ存續期間ヲ定ムヘキ標準ヲ示シタルモノニ非ス

(反對)

○民法施行法第四十四條第一項第二項ハ民法施行前ノ設定ニ係ル地上權ニシテ存續期間ノ定ナキモノニ付キ其當事者ヨリ存續期間指定ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所カ之ヲ定ムヘキ標準ヲ示シタルモノナリ

○民法施行前ニ設定シタル地上權ニシテ存續期間ノ定ナキモノニ付テハ地上權ノ設定ヲ知ラスシテ其土地ヲ買受ケタルモノアルモ民法施行法

第四十四條第二項ニ依リ之カ地上權ハ其建物ノ朽廢ニ至ル迄存續スヘキモノナリ

○民法施行法第四十四條第二項ニ所謂建物ノ朽廢トハ自然ノ朽廢ヲ指稱シタルモノトス故ニ建物カ火災水害等ニ因リ自然ニ朽廢スヘキ時期ニ先ツテ廢壞若クハ滅失シタル場合ハ之ニ包含セス

(同義)

○民法施行法第四十四條第二項ニ所謂建物ノ朽廢トハ自然ニ到來スル所ノ滅失ヲ指稱シタルモノニシテ風水害又ハ地震火災等ニ依リテ建物ノ滅失シタル場合ヲ包含セサルモノトス

○建物所有ノ爲メニ設定シタル地上權ニシテ民法施行法第四十四條第二項ニ依リ其建物朽廢ノ時マテ存續スヘキモノナルトキハ改築ノ爲メ朽廢前ニ之ヲ取毀ツモ地上權ハ其建物ノ自然ニ朽廢スヘカリシ時マテ依然存續シ故ラニ之ヲ取毀チタル時ニ消滅スルモノニ非ス

○從物ハ常ニ主物ト運命ヲ共ニスルモノナレハ民法施行法第四十四條ノ場合ニ於テ主タル工作物朽廢セル以上ハ縱令從タル工作物殘存スルモ地上權ノ消滅ヲ妨クルコトナシ

○地上權ノ目的タル一ノ地域内ニ主從ノ區別ナク箇箇獨立シタル數箇ノ建物存在スル場合ニ於テ該權利カ各建物ノ爲メニ分割獨立シテ設定セ

三	三	三	三	三
八	二	二	二	二
四七	九	九	九	九
一四七	二六	二六	二六	二六
一五〇	二九	二九	二九	二九
二八四	三二	三二	三二	三二
一六五	三九	三九	三九	三九

ラレタルニ非サル以上ハ縦令其一ニカ朽廢スルモ特約ナキ限り之ヲ唯
 一ノ地上權ト看做シ總建物ノ朽廢ニ至ルマテ依然存續スヘキモノトス
 ○民法施行法第四十四條第二項ハ民法施行當時ノ状態ニ於ケル建物ノ朽
 廢ニ至ルマテ地上權ノ存續スヘキ旨ヲ定メタルモノニシテ其以前建物
 ニ修繕又ハ變更ヲ加ヘタルト否トヲ問ハサルモノトス

第五十條

○民法施行法第五十條ノ規定ハ民法實施前ニ成立シタル債權ニシテ其利
 息ノ同法施行後ニ生シタル分ニ付キ抵當權ノ效力ヲ定メタル法意ニシ
 テ其施行前ノ利息ニ及ホスノ法意ニ非ス

第四章 債權編ニ關スル規定

○民法施行前ニ成立シタル債權ト雖モ施行後ニ至リ之ヲ讓渡スルニ於テ
 ハ其讓渡ノ效力ハ民法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ定ムヘキモノトス

第五十三條

○民法施行法第五十三條第一項ハ民法施行前ヨリ債務ヲ負擔スル者ハ債
 務ノ不履行ニ付キ民法ノ規定ニ從ヒ責任ヲ負フヘキコトヲ規定シタル
 モノニシテ其負擔スル債務當然ノ效力ニ付キ民法ヲ適用スヘキコトヲ
 規定シタルモノニ非ス

○民法施行前ヨリ契約上ノ債務ヲ負擔スル者カ其施行ノ後ニ至リテモ尙
 ホ之ヲ履行セサルトキハ債權者ハ民法施行法第五十三條ノ規定ニ依リ
 契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

○民法施行以前ニ生シタル債務ト雖モ其履行ニ付キ確定期限アルトキハ
 民法施行法第五十三條及ヒ民法第四百十二條第一項ノ規定ニ從ヒ債務
 者ハ其期限ノ到來シタル時ヨリ當然遲滯ノ責ニ任スヘキモノトス
 ○民法施行法第五十三條第一項ハ民法施行前ノ債務ニ對シ民法第四百十
 二條以下ニ規定セラレタル遲滯及ヒ損害賠償ニ關スル規定ヲ適用スヘ
 キコトヲ謂フモノニ過キスシテ同法第四百八十四條ノ辨濟ノ場所ニ關
 スル規定ヲモ適用スヘキ旨趣ニ非ス

(同主旨)

民法施行法第五十三條中民法ノ規定ニ從ヒ不履行ノ責ニ任ストハ民法第四百十二條以下ニ規
 定シタル遲滯及ヒ損害賠償ノ責ニ任スルノ謂ニ外ナラス

第五十八條

○民法施行前ニ生シタル債權ニシテ同法施行後時効ニ因リ消滅シタルモ
 ノト雖モ其消滅前相殺ニ適シタル場合ニハ其債權ハ相殺ヲ爲スコトヲ
 得ルモノトス

三	三二	二	三六	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇	一〇一	一〇二	一〇三	一〇四	一〇五	一〇六	一〇七	一〇八	一〇九	一一〇	一一一	一一二	一一三	一一四	一一五	一一六	一一七	一一八	一一九	一二〇	一二一	一二二	一二三	一二四	一二五	一二六	一二七	一二八	一二九	一三〇	一三一	一三二	一三三	一三四	一三五	一三六	一三七	一三八	一三九	一四〇	一四一	一四二	一四三	一四四	一四五	一四六	一四七	一四八	一四九	一五〇	一五一	一五二	一五三	一五四	一五五	一五六	一五七	一五八	一五九	一六〇	一六一	一六二	一六三	一六四	一六五	一六六	一六七	一六八	一六九	一七〇	一七一	一七二	一七三	一七四	一七五	一七六	一七七	一七八	一七九	一八〇	一八一	一八二	一八三	一八四	一八五	一八六	一八七	一八八	一八九	一九〇	一九一	一九二	一九三	一九四	一九五	一九六	一九七	一九八	一九九	二〇〇
---	----	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

(同主旨)

民法施行前ニ生シタル債權ニシテ同法施行後時効ニ因リ消滅シタルモノト雖モ其消滅以前相殺ニ適シタル場合ニハ民法施行法第五十八條民法第五百八條ニ依リ其債權者ハ相殺ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第六十二條第六十三條

○民法施行法第六十二條同第六十三條ノ規定ハ民法施行前ノ法律ニ違ヒテ一家ノ家族ト爲リタル者ニ對シテハ適用スヘキモノニ非ス

第六十七條

第六十七條

○民法施行法第六十七條ハ民法ニ因リ養子縁組取消ノ原因ト爲ルヘキ事實ニシテ民法施行以前ニ於テモ取消ノ原因ト爲リシモノニ限リ其取消ノ請求ヲ爲スコトヲ許スノ法意ナリトス
○民法施行法第六十七條ノ旨趣ハ民法施行前ニ生シタル事實ニシテ當時ノ法令若クハ慣習ニ於テ適法トセス且民法ニ於テ養子縁組取消ノ原因タルヘキモノアルトキニ限リ民法施行ノ後モ其縁組ヲ取消スコトヲ得トノ法意ニ過キス故ニ縁組當時適法ナルモノハ民法施行法第六十七條ニ依リ其取消ヲ請求スルコトヲ得ス

第六十八條

第六十八條

○民法施行以前ニ在リテハ夫婦タル事實存在スルトキハ縱令其身分ヲ戸籍ニ登記セサルモ婚姻ノ效力ヲ生スルモノトス而シテ其婚姻ハ民法施行ノ日ヨリ民法ニ定メタル效力ヲ生スルモノナルカ故ニ婦カ訴訟行爲ヲ爲スニハ同法第十四條ニ依リ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
○民法ニ規定シタル養子縁組ノ效力ハ其實施以前ノ縁組ニ付テハ同法施行ノ日ヨリ始メテ發生スルモノトス

(同主旨)

民法施行法第六十八條ハ民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子縁組ハ民法施行ノ日ヨリ以後ニ在ラサレハ民法ニ定メタル效力ヲ生セサルコトヲ規定シタルモノトス

第六章 相續編ニ關スル規定

○民法施行前ニ在テハ法定ノ推定家督相續權ヲ拋棄シ得サルモノニ非ス
○民法施行前ニ於テ養嗣子カ仲繼相續ヲ爲シタル際先代ノ實子若クハ嫡孫ヲ家督相續人ニ指定シタルトキハ該指定ナル事實ハ民法施行前ニ生シタル事項ニシテ同法ノ施行ニ因リ當然其效力ヲ失フモノニ非サレハ民法ノ相續順位ニ關スル一般ノ規定ニ依ラス其指定セラレタル相續人カ養嗣子ノ家督ヲ相續スヘキモノトス

第八十五條

第八十五條

三	三	三	四	三
	六	九		九
一一九	一三九	三七	七六八	二〇〇

○明治六年太政官布告第二百六十三號ニ基ク出願ノ許可ニ因リ廢嫡セラレタル者及ヒ其直系卑屬ニ對シテハ民法施行法第八十五條ヲ適用スヘキ限ニ在ラサレハ相續人タルヘキコトヲ許可セラレタル者ハ民法施行後ニ相續開始シタルトキト雖モ同第一條ノ規定ニ依リ相續權ヲ失ハサルモノトス

商法施行法

〔第一條〕

○舊商法施行中ニ提起シタル訴訟ニ對シ商法第六十三條第三項ノ規定ヲ適用シタル裁判ハ不法ナリ

〔第三十三條〕

○株式會社カ株主總會ニ於テ資本減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ商法第二百二十條第二項第七十八條第二項商法施行法第三十三條ニ依リ所轄裁判所カ登記事項ノ公告ヲ掲載セシムヘキモノトシテ豫メ選定公告シタル總テノ新聞紙上ニ之ヲ公告スルコトヲ要ス

〔第三十八條〕

○商法施行法第三十八條第一項ノ規定ハ他ノ規定中ニ特別ノ明文ナキ限

ハ商法施行前ニ設立シタル合資會社ニハ總テ舊商法ノ規定ヲ適用スヘキ法意ナリ

○新商法施行前ニ設立セラレタル合資會社ノ解散前ニ於テ出資ノ催告ヲ受ケタルニ拘ハラヌ出資ヲ爲ササル社員ニ對シ清算人カ該出資ノ請求ヲ爲スハ會社ノ未收ノ債權ヲ行用スルニ外ナラス隨テ此場合ニハ商法施行法第三十八條ニ依リ舊商法第三百三十七條及ヒ第三百三十條ノ規定ヲ適用スヘキモノニシテ清算人ハ會社ニ現存スル財産ヲ以テ其債務ヲ完済スルニ足ラサル事實ヲ立證スルヲ要セス

○商法施行前ノ設立ニ係ル合資會社ノ解散申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ舊商法中抗告ヲ許シタル規定存セサルヲ以テ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

〔第一百七十七條〕

○商事債權ニ付キ履行期限後ニ於ケル損害金トシテ利息制限法第二條ノ制限ヲ超過スル利率ニ依リ補償ヲ爲スヘキコトヲ特約スルハ違法ニ非ス

○銀行取引ニ屬スル消費貸借ニ在テハ返濟期限後ニ於テ損害金ヲ元本ニ組入レ更ニ利息ヲ生セシムル旨及ヒ約定利率ノ外別ニ損害金ヲ附加ス

三〇	三九	三六	三四	六	三四
四〇	五九〇	六八	七	二	二四〇
七二六			六七		二七六

ヘキ旨ヲ約スルハ有效ニシテ且利息制限法第五條ノ制限ヲ受ケサルモノトス

○商法第二百七十三條ニ從ヒ商人ト商人ニ非サル者ト連帶債務ヲ負擔セルトキト雖モ其各債務ハ獨立スルモノナレハ一ハ商事債務トシテ商法施行法第一百七七條ニ依リ利息制限法第五條ノ適用ヲ除外サルヘキモ他ハ民事債務トシテ其適用ヲ受クヘキモノトス

○商事債務ノ不履行ニ因ル損害賠償ハ商事債務ノ變形シタルニ過キサレハ當事者ノ特約ニ基クトキト雖モ商事ニ屬スルヲ以テ利息制限法第五條ノ規定ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

〔第一百十九條〕

○舊商法ノ施行中満期日ノ到來シタル約束手形ニ關スル時効期間ノ計算ニ付テハ民法第四百十條ノ規定ヲ適用スヘキモノナレハ満期日ヲ算入スヘキモノニ非ス

〔第三百三十條〕

○商法施行法第三百三十七條ニ依リ民法施行法第三十一條ノ規定ヲ商事ニ準用スルニ當リテハ同條ノ規定中民法ノ文字ハ商法ノ意義ト看做シ又出訴期限ノ文字ハ民法ニ定メタル時効ノ意義ト看做シテ之ヲ解釋スル

三九

八八

コトヲ要ス

○明治二十六年舊商法ノ一部施行後請負工事ヲ營業トスル商人カ鐵道築提工事ノ請負ニ付キ他人ト當座組合契約ヲ締結シタルトキハ其契約ハ商事ニ屬スルヲ以テ該組合關係ニ基ク債權ハ商行爲ニ因リテ生シタルモノニ外ナラス故ニ明治三十一年舊商法施行後ハ其第三百四十九條ニ依リ同法施行ノ日ヨリ時効ノ適用ヲ受ケ尙ホ商法施行法第三百三十七條及ヒ現行商法第二百八十五條ニ從ヒテ時効ニ罹ルモノトス
○舊商法施行以前商行爲ニ基キ成立シタル債權ニシテ不動産書入公證ヲ受ケタルモノハ現行商法施行ノ日ヨリ五午年ノ時効ニ因リ消滅スヘキモノトス

四二

二三九

四

一一〇〇

商法施行條例

〔第二十四條〕

○破産決定ニ對スル即時抗告ハ決定ノ言渡アリタル場合ニハ其言渡ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ又決定ノ言渡ナキ場合ニハ其送達ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ起算シテ七日ノ期間内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

三八

一八二四

(同主旨)

商法施行條例

言渡シタル破産決定ニ對スル抗告ハ商法施行法第三十八條舊商法施行條例第二十四條ニ依リ其言渡ノ日ノ翌日ヨリ起算シテ七日ノ期間内ニ提起セサルヘカラス

○破産ノ宣告ヲ受ケタル者カ即時抗告ノ期間ヲ懈怠シタルトキハ縦令執達吏ニ於テ裁判ノ送達ニ關シ相當ノ手續ヲ履踐セサリシ場合ト雖モ民事訴訟法第七十四條第二項ノ規定ヲ準用スルコトヲ得ス

○破産宣告ノ決定ニ對スル即時抗告ノ期間ハ口頭辯論ヲ經サル場合ニ於テハ決定送達ノ日ノ翌日ヨリ起算シ又口頭辯論ヲ經タル場合ニ於テハ言渡ノ日ノ翌日ヨリ起算スヘキモノトス

(同主旨)

商法施行條例第二十四條所定ノ即時抗告期間ノ起算點ハ口頭辯論ヲ經サル決定ニ付テハ裁判書ノ送達ヲ受ケタル翌日ヨリ又口頭辯論ヲ經タル決定ニ付テハ言渡ノ翌日ヨリ起算スヘキモノトス

第二十五條

『第二十五條』

○抗告裁判所カ原決定中支拂停止ノ日時ヲ指定セル部分ヲ變更シテ之ヲ其レヨリ以前ノ日時ト爲シタルトキハ民事訴訟法第四百五十六條ニ所謂新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生スルモノトス

(同主旨)

抗告裁判所カ第一審裁判所ノ認メタル支拂停止ノ日時ヨリ以前ニ支拂停止アリタルモノト決定シタルトキハ之カ爲メ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生スルモノトス

○破産宣告ニ對スル抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有セス

○破産事件ニ關スル地方裁判所ノ裁判ハ抗告裁判所ノ委任裁判ニ基キ之ヲ爲シタルトキト雖モ其裁判ニ對スル抗告ハ直近上級裁判所タル控訴院ニ提出スヘキモノニシテ大審院ニ提起スヘキモノニ非ス

○破産手續ニ付テハ民事訴訟法ノ中斷ニ關スル規定ヲ準用スヘキ旨ノ法規ナケレハ縦令破産事件ノ抗告人カ死亡スルモ該事件ハ同法ノ規定ニ依リ直ニ中斷セラレタルモノト云フヲ得ス

○破産事件ニ付テハ特ニ民事訴訟法ノ規定ニ依ルヘキ旨ノ明文アル場合ノ外同法ノ規定ヲ應用スヘキモノニ非ス

○支拂猶豫ノ許可ヲ不當トシ抗告ヲ爲シタル者カ其抗告棄却ノ決定ニ對シテ再抗告ヲ爲シ得ルニハ抗告裁判所ノ裁判カ原裁判ト主文上ニ差異ヲ生シ又ハ裁判所ノ構成其他重要ナル訴訟手續ニ違背シタル事實アルコトヲ要ス

(同主旨)

舊商法ノ規定ニ依リ過料ニ處セラレタルヲ不當トシテ抗告ヲ爲シタル者カ其抗告棄却ノ裁判

三	三	三	三	三	三	三	三
六	六	六	六	六	六	六	六
八二	八二	八二	八二	八二	八二	八二	八二
二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇	二四〇
四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九
二六八	二六八	二六八	二六八	二六八	二六八	二六八	二六八
一四七	一四七	一四七	一四七	一四七	一四七	一四七	一四七

三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六
四	四	四	四	四	四	四	四
八五	八五	八五	八五	八五	八五	八五	八五
三五四	三五四	三五四	三五四	三五四	三五四	三五四	三五四
九二	九二	九二	九二	九二	九二	九二	九二
九六〇	九六〇	九六〇	九六〇	九六〇	九六〇	九六〇	九六〇

ニ對シテ再抗告ヲ爲シ得ルニハ抗告裁判所カ裁判所ノ構成者クハ重要ナル手續ニ關スル法則ニ違背セシ事實アルコトヲ要ス

○破産事件ノ抗告裁判所カ當事者ヲ呼出シ口頭辯論ヲ爲サシムル場合ニ於テハ之ヲ公行スルヲ通例トス

(同主旨)

破産宣告ニ對スル抗告ハ民事訴訟法第三編第三章ノ手續ニ依リ審理スヘキモノニシテ非訟事件手續法ニ遵由スヘキモノニ非サレハ該抗告ノ口頭辯論ハ之ヲ公開スルヲ通例トス
破産事件ノ抗告裁判所カ當事者ヲシテ口頭辯論ヲ爲サシムル場合ニハ之ヲ公開スルヲ通例トス

○破産決定ニ關シテハ特ニ民事訴訟法第二百四十五條第一項ヲ準用スヘキ旨ノ規定ナキヲ以テ破産決定ニ對スル抗告ニ付キ爲ス抗告裁判所ノ裁判ハ破産裁判所ノ決定ト同シク縱令口頭辯論ヲ經タル場合ト雖モ之ヲ言渡サスシテ當事者ニ送達スルコトヲ妨ケス

○抗告裁判所カ不服ヲ申立テラレタル破産決定中支拂停止ノ日時ニ關スル部分ヲ變更シ其他ノ部分ニ關スル抗告ヲ理由ナシトシテ棄却シタルトキハ此棄却ノ部分ニ付テハ破産裁判所ト抗告裁判所トノ裁判力内容全然符合スルカ故ニ抗告裁判所ノ裁判力裁判所構成ノ規定若クハ重要ナル訴訟手續ニ違背シテ爲サレタル場合ニ非サレハ之ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生スヘキモノニ非ス

○人證ノ申出ハ口頭辯論ニ於テ爲スヘキモノニシテ抗告狀ニ掲ケタル其申出ハ效ナキモノトス

○抗告ノ裁判ヲ爲スニ付キ口頭辯論ヲ經ルト否トハ一ニ抗告裁判所ノ自由ニ選擇シ得ヘキモノトス

(同主旨)

破産事件ノ抗告ニ付キ口頭辯論ヲ開クト否トハ抗告裁判所カ職權ヲ以テ自由ニ之ヲ決シ得ルモノトス從テ裁判所ハ當事者ノ口頭辯論ヲ開カレンコトノ申請ニ付キ必スシモ許否ノ裁判ヲ爲スコトヲ要セス

民事訴訟法施行條例

(第一條)

『第一條』

○民事訴訟法實施以前ニ再審ヲ受クルノ理由アルモノトノ判決ヲ受クルモ同法實施以後ニ再審ノ申請ヲ爲シタルニ於テハ同施行條例第一條ニ依リ民事訴訟法第四百六十九條ノ制裁ヲ受ケサルヘカラス

(第七條)

『第七條』

民事訴訟法施行條例

三九	四一	四二	三	四	四	三九	四
一〇二五	二五七	二六	二五九	二	三	七六	四

○民事訴訟法施行條例第七條ハ民事訴訟法實施前ニ受理シタル勸解ハ同法第二百八十一條ニ從ヒ和解ノ手續ヲ以テ完結スヘキコトヲ規定シタルモノニシテ勸解トシテ受理シタル訴訟ノ實體ヲ變換シ和解ト爲スノ精神ニ非ス

帝國憲法

○明治三十四年内務省令第二十九號ハ明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選舉法ヲ施行スル爲メ内務大臣カ憲法第九條各省官制通則第四條及ヒ内務省官制第一條ニ依リ執行命令トシテ規定シタルモノニシテ一箇ノ訓令トシテ規定シタルモノニ非ス

〔第二十四條〕

○憲法第二十四條ハ既定ノ法律上ヨリ得タル權利ヲ示シタルモノニシテ民事ニ非サル純然タル行政處分ニ關係ヲ有セス同法第六十一條ハ行政裁判所ニ屬スル訴訟ハ司法裁判所カ受理スヘカラサルコトヲ限定シタルニ止マリ其他ノ訴訟ハ總テ司法裁判所カ受クヘシトノコトヲ規定シタルモノニ非ス而シテ民刑以外ノ訴訟ハ司法裁判所ニ於テ受理スヘカラサルコトハ裁判所構成法第二條ノ文意ニ據テ明確ナリ

〔第二十七條〕

○個人ノ所有權ハ法律ノ規定ニ依ルニ非サレハ縱令行政處分ヲ以テスルモノヲ剝奪スルコトヲ得ス

〔第六十一條〕

○事件カ其性質上司法裁判所ノ權限ニ屬セサルモノハ縱令行政裁判所ニ於テ之ヲ管轄スル規定ナキニモセヨ司法裁判所ニ於テ受理スヘキモノニ非ス

〔同第三〕

憲法第六十一條ハ行政裁判所ニ屬スル訴訟ハ司法裁判所カ受理スヘカラサルコトヲ限定シタルニ止マリ其他ノ事件ハ性質ノ如何ニ拘ハラズ總テ之ヲ受理スヘシトノコトヲ規定シタルモノニ非ス

衆議院議員選舉法

〔第八條〕

○衆議院議員選舉法第八條第三號ノ規定ハ家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ハ死亡相續ニ因ルト隱居相續ニ因ルトヲ分タス又土地臺帳ノ名義書換ノ如何ヲ問ハサルカ故ニ隱居ニ因リテ相續開始シ而シテ隱居者

衆議院議員選舉法

二六
一
二四

五
二四三

二六
二
三五〇

三七
四八五

二九
三
九六

二五
六
一〇一

カ相續財産ノ幾分ヲ留保シタル場合ニハ其留保セサル財産ニ付テハ縱令土地臺帳上依然隱居者ノ名義ナルモ之ヲ取得セル相續人ノ納税シタルモノト看做スヘキ法意ナリ

○營業者ハ廢業スルモ其月ノ終マテ營業稅ヲ納ムヘキモノナレハ十二月十九日廢業シタル者ハ同月二十日確定シタル選舉人名簿ニ登録セラレタル當時ニハ營業ヲ廢止シタルモ尙ホ引續キ納税シ衆議院議員選舉法第八條第三號ノ要件ヲ具備シタルモノトス

○家督相續ニ因リテ財産ヲ取得シタル者ハ衆議院議員選舉資格ニ關シテハ縱令其財産ニ付キ未タ納税ヲ爲ササルモ法律上當然被相續人ノ爲シタル納税ヲ以テ自己ノ爲シタル納税ト看做サルヘキモノトス

○被相續人ノ納税カ相續人ノ納税ト看做ツルニハ土地臺帳ノ所有名義ニ相續人ノ名義ニ變更セラレタル後タルト否トヲ問ハサルモノトス

○隱居者ハ土地臺帳ノ所有名義カ變更セラレタル限リ地租條例ノ適用上納税義務者タルコト疑ナシト雖モ衆議院議員選舉資格ニ關シテハ法律上自己ノ納税ハ相續人ノ納税ト看做サレ自己ハ何等ノ納税ヲ爲スモノニ非サルモノト認メラルヘキヲ以テ隱居ニ因リ選舉資格ヲ喪失スルモノトス

三九

一〇八四

四

六

一九八九

七

一七五九

七

一七五九

七

一七五九

〔第十一條〕

(參照)

衆議院議員選舉法第十一條ハ選舉ノ時ニ當リ選舉權若クハ被選舉權ヲ有スヘキ者ノ資格ニ關スル規定ナルヲ以テ選舉終了ノ後ニ於テ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ同上第四號ノ規定中ニ包含セラルヘキニ非ス

〔第十三條〕

○衆議院議員選舉法第十三條第二項ニ所謂政府ノ請負ヲ爲ス者トハ獨リ政府ニ對シ民法上ノ請負ヲ爲ス者ノミナラス政府ヨリ一定ノ報酬ヲ得テ其需用ヲ供給スルコトヲ業トスル世ニ所謂御用達ノ如キ者ヲモ包含スルモノトス

○衆議院議員選舉法第十三條第二項ニ所謂政府ノ請負ヲ爲ス者中ニハ同法ノ施行力ヲ有セサル地域ニ於テ我政府ノ請負ヲ爲ス者ヲモ包含スルモノトス

(參照)

衆議院議員選舉法第十三條第二項ニ所謂請負ノ範圍ハ民法ノ請負ト同一ニ非ス通俗ニ謂フ所ノ廣汎ナル意義ノ請負ニシテ即チ同項ニ掲ケタル者ハ選舉ノ當時政府ノ爲メニ民法上ノ請負ヲ爲ス自然人又ハ法人ノ役員ハ勿論其他政府ト契約ヲ爲シ一定ノ報酬ヲ得テ政府ノ爲メニ其需用ヲ供給スルコトヲ業トスル自然人又ハ法人ノ役員ヲモ包含ス
法人ノ役員ナル語ハ普通慣用ノ意義ニ於テ理事又ハ取締役ニ止マラス監事又ハ監查役ヲモ包

三五

九

九五

四

二三三

四

二三三

三七

一六二〇

含ス故ニ衆議院議員選舉法第十三條第二項ニ謂フ法人ノ役員ナル文字ハ理事又ハ取締役ノ外
監事又ハ監査役ノ如キ業務監督ノ機關ヲモ包含スルモノトス

第二十條

第二十條

○衆議院議員選舉法施行令第七條及ヒ同選舉法第二十條ノ規定ハ選舉人名簿ノ正確ヲ期スルカ爲メ該名簿ノ確定前豫メ選舉人ヲシテ該名簿ノ脱漏又ハ誤載ノ有無ヲ檢シ同法第二十一條ニ依ル修正申立ノ機會ヲ得セシムルノ趣意ナリトス

○郡長市町村長カ如上ノ法令ニ違背シ縦覽場所ノ告示ヲ遅延シ又ハ縦覽期間ヲ短縮シタルトキハ選舉人カ選舉權ヲ有スルニ拘ハラズ名簿ニ脱漏又ハ誤載セラレタル結果之ヲ行使シ得サル場合ニ於テノミ當該選舉人ニ對シ名簿確定ノ效力ヲ有セスト雖モ選舉人トシテ選舉人名簿ニ登錄セラレアル者ニ對シテハ該名簿ハ何等確定ノ效力ヲ失フヘキモノニ非ス

第二十三條

第二十三條

○法令ニ於テ一定ノ期間内ニ申立ヲ爲スヘキ旨ヲ規定シタルトキハ特別ノ規定アラサル限り其申立ハ期間内ニ當該官憲ニ到達スルコトヲ要ス
○衆議院議員ノ選舉人名簿ニ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタル選舉人

カ町村役場ヲ經由シテ郡長(北海道ニ在リテハ支廳長)ニ其申立書ヲ提出スル場合ニハ必スヤ法定ノ期間内ニ其郡長又ハ支廳長ニ到達スヘキ用意アルコトヲ要ス

○選舉人カ選舉人名簿ニ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタル當時其申立ヲ爲サス縦覽期間ヲ經過シタルトスルモ苟モ納稅資格ノ如ク其誤載カ選舉ノ效力ニ影響ヲ及ボス場合ニ在リテハ選舉後選舉人ニ於テ選舉訴訟ヲ提起シテ其效力ヲ爭フコトヲ妨クルモノニ非ス

第三十四條

第三十四條

○縦令甲地ノ選舉人ヲシテ乙地ノ投票所ニ於テ投票ヲ爲サシメタル事實アリトスルモ此事實ハ單ニ其選舉人ノ投票ヲ無効ナラシムル理由タルニ止マリ毫モ他ノ選舉ノ自由公正ヲ害スルモノニ非サレハ其他ノ投票マテモ無効ナラシムルモノニ非ス

第三十六條

第三十六條

○衆議院議員選舉法第三十六條ニ於テ選舉人ハ自ラ被選舉人ノ氏名ヲ記載シト謂ヒ又同第三十八條ニ於テ自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルト謂フハ選舉人カ被選舉人ノ氏名ヲ表彰スヘキ文字ヲ認識シ獨力ヲ以テ之ヲ投票用紙ニ筆記スルノ義ナレハ筆ヲ他ノ器具ノ型内ニ托シテ被選舉人

三七

二六〇

六

二五六

六

二五六

四二

六五

四二

六五

七

二七五九

六

一九三二

ノ氏名ノ文字ヲ表現セシムル場合ノ如キハ之ニ包含セサルモノトス
○衆議院議員選舉法第三十六條第一項ニ所謂自ラ被選舉人ノ氏名ヲ記載
ストハ自筆ニテ之ヲ書スルノ義ナレハ型ヲ用ヒテ被選舉人ノ氏名ヲ記
シタル投票ハ無効ナリ

〔第三十七條〕

○衆議院議員ノ選舉人名簿ニ選舉人ノ氏名ヲ誤記シタル場合ト雖モ該選
舉人ハ名簿ニ登錄セラレサル者ニ非サルヲ以テ其投票ハ有效ナリトス

〔第三十八條〕

○衆議院議員選舉法第三十六條ニ於テ選舉人ハ自ラ被選舉人ノ氏名ヲ記
載シト謂ヒ又同第三十八條ニ於テ自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルト謂フ
ハ選舉人カ被選舉人ノ氏名ヲ表彰スヘキ文字ヲ認識シ獨力ヲ以テ之ヲ
投票用紙ニ筆記スルノ義ナレハ筆ヲ他ノ器具ノ型内ニ托シテ被選舉人
ノ氏名ノ文字ヲ表現セシムル場合ノ如キハ之ニ包含セサルモノトス
○選舉人カ筆ヲ紙型切抜ノ輪廓内ニ托シテ被選舉人ノ氏名ノ文字ヲ表現
セシメタル投票ハ衆議院議員選舉法第三十八條第二項ニ依リ投票ヲ爲
スコトヲ得サル者ノ爲シタル投票ニシテ有效ナルヘキ理由ナケレハ縱
令同法第五十八條ニ規定セル無効ノ場合ニ該當セスト雖モ亦之ヲ無効

三七五

一四八九

二八六

三七五

三七五

一四八九

一三七

〔第四十二條〕

○衆議院議員選舉法第四十二條ハ閉鎖シタル投票函及ヒ其内容ニ送致ノ
途中異變ヲ生スルカ如キ事故ノ發生ヲ豫防センカ爲メニ特ニ送致ノ方
法ヲ鄭重ニシタルモノニ外ナラサレハ其規定ニ違背シ送致ノ途中一時
投票管理者及ヒ立會人ノ管理ヲ離脱シタルノ一事ヲ以テ當然其投票函
在中ノ投票ヲ無効トシ又ハ之ニ異變ヲ生シタルモノト看做スヘキ法意
ニ非ス

○投票函送致ノ途中一時管理ヲ離脱シタルモノ之カ爲メニ其投票函ノ外部
及ヒ内部ニ何等ノ異變ヲ生シタルコトナキ事實明白ナル場合ニ於テハ

七

七

六

五

五

五

三九

五

五

其投票函在中ノ投票全部ニ異變ナキモノト認ムルヲ相當トス從テ其投票ノ計算點檢ハ投票函ノ送致方法ニ如上ノ違法ナキ場合ト同一ニ爲スヘキモノトス

〔第四十四條〕

○衆議院議員選舉法第四十四條ハ不可抗力ノ爲メ投票ヲ爲スコト能ハサルカ若クハ投票函ノ紛失其他ノ理由ニ因リ開票管理者ニ於テ投票ノ點檢ヲ爲シ其結果ヲ選舉長ニ報告スルノ不可能ナル場合ニ關シ事實上全然投票ヲ爲スコトヲ得ス又ハ之ヲ爲スモ結局之ヲ爲ササルト等シキ結果ヲ生スル場合ヲ規定シタルモノニシテ第六十四條第二項ニ規定セル場合ト區別スヘキモノトス

〔第四十六條〕

○衆議院議員選舉法第四十六條ハ公ノ秩序ニ關スル規定ニシテ何人カ隨意ニ被選舉人ノ氏名ヲ陳述スルモ其效ヲ有セサレハ裁判所モ亦其陳述ヲ取捨スヘキ限ニ在ラス

○衆議院議員選舉法第四十六條ノ規定ハ選舉人トシテ投票ヲ行ヒタル者カ實際選舉權ヲ有スルト否トヲ分タス之ヲ適用スヘキモノナリ

○衆議院議員選舉法第四十六條ハ何人ヲ選舉シタルヤノ事實ノ公表ヲ防

〔第四十七條〕

○衆議院議員選舉法第四十七條ハ投票管理者カ投票所ノ秩序ヲ保持スヘキ職責ヲ規定シ同法第四十九條ハ投票所ノ秩序ヲ紊ル者アル場合ニ於テ投票管理者ノ處置方法ヲ規定シタルモノニシテ孰レモ選舉人ヲシテ安全ニ選舉權ヲ行使スルコトヲ得セシメ以テ選舉ノ自由公正ヲ確保スル精神ニ出テタルモノトス

〔第四十九條〕

○衆議院議員選舉法第四十九條所定ノ紊亂行爲アリタルトキト雖モ其紊亂ノ程度カ選舉ノ自由公正ヲ阻害スルノ著シキ場合ニ非サレハ選舉ノ無效ヲ來ササルモノトス

〔第五十八條〕

○衆議院議員選舉法第五十八條ハ單ニ投票用紙及ヒ投票ノ記載方法ニ關シ投票自體ニ依リ無効タルコトヲ知り得ヘキモノヲ列舉シタルニ止マ

七

七

七

二二五

四二

九四二

七

一七五九

六

二二七

六

二二七

リ此等投票以外ニ選舉ノ規定ニ違背シタル投票ヲ以テ無効ト爲スコトナシト規定シタルモノニ非ス

○投票用紙ノ指定欄外ニ其氏名ヲ記載シタル投票ヲ無効トスヘキ旨ノ法規ナケレハ縱令選舉人カ用紙ノ裏面ニ被選舉人ノ氏名ヲ記載スルモ選舉ノ自由公正ヲ害セサル限り其投票ハ有效ナリトス

○衆議院議員選舉ノ投票用紙ノ印影ハ或ハ鮮明ヲ缺キ或ハ完全ナラスシテ一見直ニ當該廳府縣ノ印章タルコトヲ認識シ得サルモ之ヲ熟視シテ其印章ノ押捺シアルコトヲ認識スルコトヲ得ル以上ハ違式ノモノニ非ス

○如上内務省令ノ規定スル要件ヲ具備セサル用紙ヲ用ヒテ爲シタル投票ハ縱令選舉人カ特別ノ手段ヲ施スニ於テハ容易ニ他人ノ爲メ被選舉人ノ氏名ヲ透視セラルルコトヲ防止シ得ヘカリシトスルモ衆議院議員選舉法第五十八條第一號ニ所謂成規ノ用紙ヲ用ヒサル投票ニ外ナラサレハ當然無効ニ屬スヘキモノトス（明治三十四年内務省令第二十九號五年二一四三頁參照）

○普通ノ民人ヲ指シテ何將軍ト稱スルカ如キハ其文字自體ニ徵シテ或ハ翻弄ノ義ヲ寓シ或ハ侮蔑ノ意ヲ含ムコトアリ從テ如上ノ文字ハ衆議院

四二

五

六

六

三三

一四八九

一七〇六

一七〇六

第六十四條

議員選舉法第五十八條第五號但書ノ所謂敬稱ニ非ス
○衆議院議員選舉法第五十八條第五號ニ所謂他事ヲ記載シタルモノトハ選舉人自ラ他事ヲ記載シタル投票ヲ指稱スルモノトス從テ被選舉人ノ氏名ノ外ニ數字ヲ記シアル投票ト雖モ其數字カ選舉人ノ記載シタルモノニ非サルトキハ他事ヲ記載シタルモノト謂フヲ得ス
○投票ニ被選舉人ノ氏名ヲ記載シ之ニ振假名ヲ附スルハ被選舉人ノ何人ナルヤヲ明瞭ナラシムル爲メニスルコト通常ナレハ斯ル振假名ハ衆議院議員選舉法第五十八條第五號ニ所謂他事ノ記載ニ非ス
○投票ニ記載シアル殿閣下ノ文字ハ殿及ヒ閣下ノ文字ヲ重ネテ一箇ノ敬稱トシテ使用シタルモノナレハ衆議院議員選舉法第五十八條第五號但書ニ該當スルモノトス

第六十四條

○選舉手續ノ違法ト投票ノ瑕疵ハ有權者ノ投票ヲ無効ナラシメ當選人ノ確定ニ付キ之ヲ計算スルコトヲ得サラシムルノ點ニ於テハ其結果ヲ同フスト雖モ投票ノ瑕疵ハ單ニ其投票ノ無効ヲ惹起スルニ止マリ其投票ヲ爲シタル有權者ヲシテ更ニ再ヒ投票ヲ爲サシムルノ問題ヲ生セサルニ反シ選舉手續カ違法ナルトキハ所謂選舉ノ全部又ハ一部ノ無効ヲ惹

起スヘク無効ト爲リタル選舉ノ部分ニ付キ更ニ選舉ヲ行ヒ有權者ヲシテ投票ヲ行ハシムルノ必要ヲ生スルモノトス

○衆議院議員選舉法第六十四條第二項ハ選舉ノ全部又ハ一部無効ト爲リタル場合ニ於ケル效果如何ノ問題ニ關スルモノニシテ選舉法ニ定ムル手續違背ノ爲メ選舉ノ一部カ無効ト爲リタル場合殊ニ司法裁判所ノ判決ノ結果無効ト爲リタル場合ニ於テ其無効ト爲リタル部分ニ付キ更ニ選舉ヲ行ヒ有權者ヲシテ投票ヲ爲サシメ他ノ投票ト相竣テ當選人ヲ確定スルコトヲ要スルモノト解釋スルヲ相當トス

○選舉ノ一部無効カ總選舉ニ際シテ生シタルトキハ來ルヘキ一部ノ選舉ハ總選舉ノ一部トシテ行ハルヘク又其無効カ補闕選舉ノ際ニ生シタルトキハ之カ爲メニ爲ス選舉ハ補闕選舉ノ一部ニシテ總選舉又ハ補闕選舉以外ノ特種ノ選舉ニ屬スルモノニ非ス

○地方長官カ再選舉ヲ命スルノ時期ニ付テハ選舉會カ選舉法第六十四條ニ依リ報告書ヲ調査スルニ當リ選舉ノ無効ヲ發見シタル場合ニ於テハ直ニ其手續ヲ爲スヘク當選人確定後ニ於テハ司法裁判所ノ無効ヲ宣告スル判決ノ確定シタルトキ地方長官ハ同第七十六條ニ依リ當選證書ノ全部ヲ取消シタル上再選舉ノ手續ヲ爲スヘキモノトス

○選舉ノ一部無効ト爲リタル場合ニ於テ再選舉ヲ行フヘキ範圍ハ其一部無効カ判決ヲ以テ宣告セラレタルトキハ其部分ニ付キ再選舉ヲ行フコトヲ要シ一投票區ノ選舉手續カ違法ニシテ其全部ヲ無効トスルトキノ外其範圍ノ大小廣狹ヲ問フヘキモノニ非ス

○選舉手續ノ違法ニ因ル選舉一部ノ無効判決ニ依リ或開票區ノ投票全部ノ無効ヲ伴フ場合ニ於テハ當選人全部ニ對シ當選證書ヲ取消シタル上再ヒ同開票區一圓ニ選舉ヲ行ハシメ更ニ選舉會ヲ開キテ當選人ヲ定ムヘキモノニシテ無効投票ヲ控除シ選舉區ニ於ケル他ノ有效投票ノミニ付キ當選人ヲ定ムヘキモノニ非ス又同選舉區全部ニ涉リ再選舉ヲ行ヒ更ニ當選人ヲ定ムヘキモノニ非ス

第七十條

○當選ノ有無ヲ確定スルニハ特定ノ投票カ特定候補者ノ得票ニ歸シタルコトヲ確定スルモノナレハ一定ノ投票カ何人ノ得票ニ歸シタルヤ不明ナル場合ニ於テハ到底當選ノ有無ヲ確定シ得ヘキモノニ非ス
○衆議院議員ノ選舉ニ關シ選舉有權者ノ爲シタル投票カ有效ニシテ當選人ヲ定ムルニ付キ之ヲ計算スルコトヲ得ルカ爲メニハ選舉有權者カ選舉法ニ定ムル手續ニ從ヒ適式ニ投票ヲ爲シタルコトト選舉有權者ノ爲

二二五

二二五

二二五

二二五

二二五

二二五

二八九

シタル投票ニ選舉法上其無効ヲ惹起スヘキ瑕疵ノ存在セザルコトヲ必要トス

○衆議院議員選舉法第七十條第三項ノ場合ニ於テ選舉訴訟若クハ當選訴訟ノ結果當選無効ノ判決アリタルトキハ其效力カ單ニ投票ノ無効ニ因由スルニ於テハ直ニ同條ノ規定ヲ適用シ當選人ヲ定ムヘク當選ノ無効カ選舉ノ一部無効ニ因由スルトキハ其部分ニ付キ更ニ選舉ヲ爲シ開票管理者ノ報告ヲ待テ同條ノ規定ヲ適用シ當選人ヲ定ムヘキモノトス

第七十四條

○如上ノ場合ニ於テハ衆議院議員選舉法第七十四條ヲ準用シ地方長官ハ選舉期日ヲ定メ豫メ之ヲ告示シ更ニ選舉ヲ行ハシムルコトヲ得ルモノト解スルヲ相當トス

第七十六條

○當選者ハ選舉訴訟若クハ當選訴訟ノ判決其他選舉ニ關スル處罰ノ結果當選ノ無効ニ歸スルニ依テ始メテ其議員タル資格ヲ失ヒ從テ之ニ屬スル權利ヲ失フモノニ非ス
○選舉訴訟ノ判決ニ依リ選舉無効ト爲リタルトキハ地方長官ハ當選證書

第八十條

○取消スヘキモノナレハ其判決ノ結果カ當選者ニ法律上直接ノ效力ヲ及ホスコト明確ナルヲ以テ該訴訟ニ於ケル當選者ハ民事訴訟法第五十三條ニ所謂權利上利害ノ關係ヲ有スルモノニ該當ス

第八十條

○衆議院議員選舉法第八十條ニ所謂選舉ノ效力ニ關シ異議アル場合トハ選舉ニ瑕疵アルコトヲ爭フ場合ヲ指稱ス從テ補闕選舉ニ依リ選舉セラレタル者カ總選舉ノ際選舉セラレタル議員ノ補闕ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤノ如キ爭訟ハ之ニ包含セス
○選舉訴訟ハ其目的選舉ノ效力ヲ爭フニ在ルヲ以テ原告カ其訴ノ原因トシテ選舉權ナキ者ノ無効投票及ヒ被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キ無効投票ヲ以テ有效ナリトシ當選人ト爲スヘカラサル者ヲ當選人ト爲シタルコトヲ主張シ以テ選舉ノ效力ヲ爭フハ不適法ニ非ス
○選舉訴訟ニ於ケル訴ノ原因タル事實ノ提出ニ付テハ何等ノ制限ナキヲ以テ最初提出シタル原因ニ代フルニ他ノ原因ヲ以テスルモ或ハ更ニ新ナル原因ヲ加フルモ自由ナリトス從テ一旦三十日ノ法定期間内ニ訴ヲ提起シタルトキハ其進行中ハ縱令法定期間經過後ト雖モ訴ノ原因ヲ變更シ又ハ新ナル原因ヲ追加スルコトヲ得ルモノトス

- 衆議院議員選舉法第八十條第一項ニ依リ選舉人ノ提起スル選舉訴訟ハ選舉ノ一部又ハ全部ノ無効宣言ヲ求ムルモノニシテ選舉ノ規定ニ違背シタルコトカ當選ノ結果ニ異動ヲ及ホスノ虞アル場合ニ限ルモノトス
- 衆議院議員選舉法第八十條第一項第八十二條第一項ニ所謂控訴院トハ當該選舉ノ行ハレタル地ヲ管轄スル控訴院ヲ指スモノトス
- 衆議院議員選舉ノ效力ニ關スル異議ノ訴ハ選舉人ニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス從テ當該選舉ニ於ケル選舉人タル事實ハ同訴訟ヲ理由アラシムルニ缺クヘカラサルモノナルヲ以テ原告ヨリ之ヲ主張シ且立證スヘキモノトス
- 衆議院議員選舉法第八十條第一項ニ所謂選舉ノ日ハ同第二十八條第七十四條第一項若クハ第七十八條第三項等ノ規定ニ依リ定メラレタル選舉ノ期日即チ選舉ノ行ハルヘキ日ヲ指稱スルモノトス
- 衆議院議員選舉法第八十條ニ依リ選舉長ニ對シ選舉訴訟ヲ提起スルニハ單ニ當該選舉區ニ於テ選舉人トシテ選舉權ヲ有スルヲ以テ足り現ニ投票ヲ爲シタルコトヲ必要トセス

第八十一條

○衆議院議員選舉ニ於テ投票人員百四名ニ對シ投票ノ數百五票アリタル

四	二二〇一
四	二二三
五	二四三
五	一四三六
五	一〇七

場合ト雖モ當選ノ結果ニ異動ヲ及ホササルコトノ明確ナル限ハ其選舉ヲ無効ト爲スヘキモノニ非ス

三七 一六二七

- 衆議院議員選舉法第八十一條第一項ニ所謂當選ノ結果ニ異動ヲ及ホスノ虞アル場合トハ當選人ト定メラレタル者ノ當選ニ付キ立言シタルモノナレハ同法第七十八條第一項ニ依ル補充當選ニ影響ヲ及ホスノ虞アル場合ヲ包含セサルモノトス
- 衆議院議員選舉カ投票記載所ナル卓子ノ目隠枰板ニ選舉候補者ノ氏名ヲ記載セルモノヲ發見シ管理者ハ直ニ之ヲ取替ヘ又之ト前後シテ投票所内ニ選舉候補者用名刺ヲ散布シアルヲ發見シテ收去シタルモ入場選舉人多數ノ目撃スル所ト爲リタルカ如キ事實ノ下ニ行ハレタル場合ニ於テモ直接法令ノ規定ニ違背セサルハ勿論之ヲ有効トスルモ選舉法規ノ精神ニ背戾スル所ナキモノトス
- 選舉ノ規定ニ違背シテ爲シタル投票カ如何ナル場合ニ無効タルヘキヤハ選舉法及ヒ附屬法令ノ規定ニ照シ選舉ノ自由公正ヲ害スルヤ否ヤニ依リ之ヲ判定スヘキモノトス
- 衆議院議員選舉法施行令第十一條ニ違背シ投票記載場所ノ設備ニ多少不完全ノ點アリトスルモ必スシモ其投票ノ無効ヲ來スヘキモノニ非ス

六	二八九二
六	一一三七
六	一八三二
四	一一〇一

ト雖モ其設備極メテ不完全ニシテ選舉法ノ採リタル秘密選舉ノ主義ニ反シ選舉ノ自由公正ヲ害スル程度ニ達スルトキハ其投票ハ何等ノ設備ナキ公ノ場所ニ於テ爲サレタル投票ト同シク全然無効ニ歸スルモノト認ムルヲ相當トス

○衆議院議員選舉法第八十一條第一項ニ所謂當選ノ結果ニ異動ヲ及ホス虞アル場合トハ選舉ノ規定ニ違背シテ爲シタル無効投票ヲ控除スルノ結果當選者タル資格ヲ失フヘキ者ヲ生スル虞アルカ如キ場合ヲモ指稱スルモノトス

○如上ノ事實アルトキハ當然選舉ノ全部又ハ一部ノ無効ヲ宣言スヘキモノニシテ特定ノ當選者ニ對スル無効ヲ宣言スヘキモノニ非サレハ當選者中當選ノ結果ニ影響ヲ及ホス虞ナキ者ト然ラサル者トヲ區別シ其影響ヲ受クヘキ當選者ニ對スル關係ニ於テノミ無効ヲ宣言スヘキモノニ非ス

○選舉訴訟ニ於テ衆議院議員選舉法第八十一條第一項ニ該當スルモノト認メタルトキハ縱令當選訴訟ノ提起セラレサル場合ト雖モ裁判所ハ選舉ノ全部又ハ一部ノ無効ヲ判決スルコト得ルモノトス

○衆議院議員選舉法第八十一條第一項ノ當選ノ結果ニ異動ヲ及ホス虞アル場合トハ「異動ヲ及ホスヘシト思料セラレル場合」ヲ意味スルモノニシテ具體的ニ當選者カ當選者タラス落選者カ當選者ト爲ルノ結果ヲ惹起スヘキ事情ノ存在ヲ必要トスルハ勿論ナリトス

○衆議院議員選舉法第八十一條第一項ニ所謂「當選ノ結果ニ異動ヲ及ホスノ虞アル場合」トハ「異動ヲ及ホスヘシト思料セラレル場合」ヲ意味スルモノニシテ具體的ニ當選者カ當選者タラス落選者カ當選者ト爲ルノ結果ヲ惹起スヘキ事情ノ存在ヲ必要トスルハ勿論ナリトス

○衆議院議員選舉法施行令第十一條ニ違背シ不完全ナル設備ヲ爲シタル場所ニ於テ投票ヲ爲サシメタル選舉ハ違法ニシテ衆議院議員選舉法第八十一條第一項ニ所謂選舉ノ規定ニ違背シタルモノトス

○然レトモ衆議院議員選舉法第八十一條第一項ハ選舉ノ規定ニ違背シタル選舉ト雖モ事實上選舉ノ自由公正ヲ害スル程度ニ至ラサルトキハ之ヲ無効ト爲ササル法意ナリトス

○選舉人ノ投票ヲ爲スニ當リ現ニ其投票ヲ窺視スル者アリテ投票ノ秘密カ破レタリト認ムヘキ事實ナキ以上ハ其選舉ハ之ヲ無効ト爲スヘキモノニ非ス

六

六

六

六

六

二三五

二三五

二三五

一八九二

一八九二

六

六

六

六

二八九二

二八九二

二八九二

二八九二

〔第八十二條〕

○衆議院議員選舉法第八十條第一項第八十二條第一項ニ所謂控訴院トハ當該選舉ノ行ハレタル地ヲ管轄スル控訴院ヲ指スモノトス

〔第八十三條〕

○檢事ハ當選訴訟ノ口頭辯論ニ立會フニ止マリ其裁判ニ與カルモノニ非サレハ裁判所ヲ構成スル一員ナリト謂フヲ得ス

〔第八十五條〕

○衆議院議員選舉法第八十五條第一項供託法第一條ニ依リ供託ヲ爲シタル場合ニ於ケル供託者ト金庫トノ關係ハ所謂供託契約ニ基ク私法的法律關係ナルヲ以テ供託法第八條第二項ニ依リ供託原因ノ消滅シタルコトヲ理由トシテ供託物ノ取戻ヲ請求スル權利ハ一種ノ債權ナリトス
○衆議院議員選舉人カ民事訴訟法第四十八條第三號ニ依リ共同シテ一箇ノ訴ヲ以テ選舉訴訟ヲ爲ス場合ニ於テハ選舉法第八十五條第一項ニ依ル保證金ハ一箇ノ訴ニ對スルモノヲ供託スルヲ以テ足レリトス

〔第八八條〕

○衆議院議員選舉法第八八條ハ選舉訴訟ニ付テハ民事訴訟法中其性質上準用ヲ許ササル規定ヲ除キ他ノ規定ハ總テ之ヲ準用スルノ法意ナリ故

六	二二二
四	二二三
五	二四九
六	二五二
四	一〇六
五	二四三

〔第八八條〕

ニ從參加ヲ爲スノ權能ヲ與ヘタル民事訴訟法第五十二條ノ如キモ亦該訴訟ニ準用スヘキモノトス
○選舉長ニ屬スル權利ノ如キハ固ヨリ選舉長タル資格ニ專屬スルモノニシテ其資格ヲ有スル者ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得サルヤ勿論ナレハ民事訴訟法第五十八條ノ規定ノ如キハ之ヲ選舉訴訟ニ準用スヘキモノニ非ス

○選舉訴訟ニ於テ選舉無効ナリト確定スルトキハ當選者ハ其議員タルノ權利ヲ喪失スルヲ以テ即チ其訴訟ニ關シ權利上利害ノ關係ヲ有スル第三者ナリトス

○衆議院議員ノ選舉訴訟ニ於テ選舉長タル知事カ被告ト爲リタル場合ニ其指定セル官吏ハ自ラ知事代理トシテ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得ルモ知事代理カ更ニ他ノ代理人ヲ任命シテ訴訟行爲ヲ爲サシムルコトヲ得ヘキ明文ナケレハ衆議院議員選舉法第八條民事訴訟法第六十三條ニ依リ辯護士ヲ以テ訴訟代理人トシ之ヲ爲サシムルノ外法律ノ許ササル所ナリトス

○原告甲ハ市部乙ハ郡部ノ選舉ノ效力ニ關シ選舉長ヲ被告トシ同一性質ノ事實上及ヒ法律上ノ原因ニ基キ衆議院議員選舉法第八十條ニ於ケル

三五	一〇
三五	一〇
三五	一七二
三六	二四七

選舉訴訟ニ依ル投票無効ノ宣言ノ請求ヲ爲ストキハ右原告ハ總テ同法
第百八條ニ依リ民事訴訟法第四十八條第三號ノ共同訴訟人ニ該當スル
モノトス

○衆議院議員選舉法第百八條ハ選舉訴訟及ヒ當選訴訟ニ付テハ純然タル
訴訟手續ニ屬スルモノナルト否トヲ問ハス選舉法ニ特別規定アルモノ
ノ外悉ク民事訴訟法ヲ適用スヘキ法意ナリトス從テ里程猶豫ノ爲メニ
スル出訴期間ノ伸長ニ關シ別段ノ規定ナキ衆議院議員選舉法ニ在リテ
ハ此點ニ付キ民事訴訟法第六十七條ノ規定ヲ適用スル旨趣ト認ムル
ヲ相當トス

○選舉法其他ノ法規ニ於テ民事訴訟法第五十四條第二項ノ適用ヲ除外ス
ヘキ何等ノ規定ナケレハ衆議院議員選舉無効訴訟ヲ判斷スルニ當リ右
法條ヲ適用シタル判決ハ相當ナリ

(參照)

衆議院議員當選訴訟ハ原判破毀ノ理由アルモ審判中衆議院解散ノ命アルトキハ之ヲ他ニ移送
セズ破毀ノ上直ニ棄却ス

衆議院議員選舉法ニ據レハ當選訴訟提出ノ期限ハ當選人カ姓名告示日ヨリ三十日以内ニ控訴
院ニ出訴スヘキモノナルトモ里程猶豫ノ如キハ普通民事ノ規定ニ隨フヘキモノトス
衆議院議員選舉法ニ所謂選舉人名簿ノ確定トハ當時名簿ニ記載セラレタル事實ニ依リ選舉資

格ヲ有スルモノタルコトヲ確定スルニ止マリ爾後選舉人ノ身分又ハ財產ニ變動ヲ來シ其資格
ヲ失フコトアルモ其投票ハ常ニ有效ナリト確定セシ法律ニハ非ス

衆議院議員選舉法第五十二條及ヒ同施行規則第二十九條ニ掲ケタル選舉長ノ決定ニ付キ異議
アル時ノ規定ハ一般有權者ヲ指シタルモノニシテ選舉委員ニ應用スヘキモノニ非ス

當選訴訟ハ其理由ニ制限ナキヲ以テ縱令投票ノ有效無効ヲ理由トスルモ之ヲ以テ當選訴訟規
定以外ノモノト爲スコトヲ得ス

衆議院議員選舉法第三十四條ノ投票時限ハ容易ク伸縮スヘキモノニ非スト雖モ事ニ害ナキ以
上ハ時間前ニ閉鎖シタリトノ一事ヲ以テ破毀ノ理由ト爲スコトヲ得ス

法文ニ投票ノ無効ヲ制裁シタル條項中選舉人ノ住所ノ記載ナキモノヲ算入シアラサル以上ハ
之ヲ以テ無効ノ投票ニ非ストス

法文ニ捺印ナキ投票ハ無効ナリトノ規定ナキヲ以テ是レ亦無効ノモノニ非ストス

所得税ニ關クニ地租ヲ以テスルモ尙ホ其地租ヲ選舉人名簿調製期日即チ四月一日前滿一年以
上納ムル者ニ非サレハ選舉法第八條ノ被選資格ヲ有スル者ト爲スヲ得ス

衆議院議員選舉法第七十八條ハ選舉全體ノ手續ニ瑕疵アル如キ場合ノミニ限ラス各箇投票ノ
效力有無ヲ選舉全體ノ效力ニ影響ヲ及ホスヘキ場合ニ於テハ其各箇投票ノ效力有無ニ論及シ
得ヘキ法意ナリ

衆議院議員選舉法第三十七條乃至第三十九條ノ規定ニ違背シタル投票ハ當然無効タリ
選入名簿ニ關スル選舉長ノ決定アリト雖モ其名簿記載ノ根元ニ於テ錯誤無効等ノ事實アル
ニ於テハ裁判上該決定ニ反シテ選舉人ノ資格ヲ有無ヲ確定スルヲ得ヘシ

衆議院議員選舉法第五十一條第五號ハ選舉人又ハ被選人ノ誰タルヤヲ認知シ得ルヤ否ヤヲ以
テ投票ノ效力ヲ定ムルノ標準ト爲シタル法意ニ過キスシテ例示的ノ規定ナリトス

二五	二五	二六	二七	二九	二九	三三
五	五	六	一	八	八	八
八一	九七	六七	五	一九二	一九二	四四
				四四	四五	四五
				四五	四五	五二

二五	二五	七	六	五
四	一			
二〇	三九	一七五九	二七九二	二四三

衆議院議員選舉法第七十八條ノ訴訟ト同法施行規則第二十九條ノ訴訟トハ二者互ニ其目的及
 七當事者ヲ異ニスルノミナラス第七十八條ノ當選訴訟ニ付テハ其當選ヲ無効トスル理由ニ制
 限ナキヲ以テ選舉長ノ決定シタル投票ニ對シ更ニ論争スルヲ妨ケス
 衆議院議員選舉資格ニ付キ營業稅ヲ納ムル者カ其營業ヲ他人ニ讓渡シタル事實アルトキハ縱
 令未タ營業稅法規則第十三條ニ從ヒ其讓渡ノ届出ヲ爲ササルモ既ニ納稅ノ資格ヲ失ヒタルモ
 ノトス
 被選人ノ名ヲ記載シタル投票ト雖モ投票以外ノ證據即チ投票明細書ニ依リテ其姓ノ何々
 ルヤチ知リ得ルトキハ之ヲ有效トスルモ違法ニ非ス
 選舉人名簿ニ記載シアル選舉人ノ資格ヲ判定スルニ人證ヲ採用スルモ違法ニ非ス
 衆議院議員選舉法ニ於テハ自選投票ヲ禁スルノ明文ナシト雖モ條理上投票ナルモノハ選舉人
 ニ於テ被選人タル資格ヲ有スル者ノ中ニ就キ自己以外ノ他人ヲ選定スヘキモノナレハ自己ヲ
 被選人ト爲シタル投票ハ無効ナリ
 衆議院議員ノ被選人タルヘキモノハ選舉人名簿調製前現ニ法定ノ國稅ヲ納メ仍ホ引續キ之ヲ
 納ムル者ニ限リ後日錯誤等ノ名義ヲ以テ國稅ヲ追納スルモ其資格ヲ補充スルヲ得ス

衆議院議員選舉法施行規則

(參照)

衆議院議員選舉法施行規則第三條ハ同選舉法第六條ノ三ニ於ケル「直接國稅云云仍ホ引續キ
 納ムル者ト」ノ意義ヲ解釋シタルモノニシテ單ニ納稅ノ意義ヲ示シタルニ止マラス必ス十五
 圓以上ノ稅ヲ納ムヘキ土地ヲ仍ホ選舉ノ際引續キ納付スルモノナリトモナラズトモナリ

義ヲ包含スルモノナリ
 衆議院議員選舉法第五十二條及ヒ同施行規則第二十九條ニ掲ケタル選舉長ノ決定ニ付キ異議
 アル時ノ規定ハ一般有權者ヲ指シタルモノニシテ選舉委員ニ應用スヘキモノニ非ス
 衆議院議員選舉法施行規則第三條第一項ノ規定ハ選舉人名簿調製期日ヨリ起算シ其前滿一年
 以上地租土納ヲ爲スチ要スル意ニ非スシテ其名簿調製ノ期日ヨリ以前滿一年以上ノ地租ヲ負
 擔シ之カ完納ヲ要スルノ旨趣ナリトス
 衆議院議員選舉法施行規則第二十九條ニ依リ選舉長ノ決定ニ對シ出訴シ得ヘキ場合ハ同選舉
 法第五十二條ノ場合ニ限ルモノトス
 地租十五圓以上ヲ納ムル土地ノ所有者カ其土地ノ全部又ハ一部ヲ他ニ賣渡スコトアルモ更ニ
 同一日ニ於テ他ヨリ土地ヲ買入レタル爲メ納稅額十五圓以上タル場合ニハ其買入カ賣渡ノ後
 ナリトスルモ衆議院議員選舉法施行規則第三條ノ所謂引續キ所有スルト云フチ妨ケス

衆議院議員選舉法施行令

○衆議院議員選舉法施行令第七條及ヒ同選舉法第二十條ノ規定ハ選舉人
 名簿ノ正確ヲ期スルカ爲メ該名簿ノ確定前豫メ選舉人ヲシテ該名簿ノ
 脱漏又ハ誤載ノ有無ヲ檢シ同法第二十一條ニ依ル修正申立ノ機會ヲ得
 セシムルノ趣意ナリトス
 ○衆議院議員選舉法施行令ハ衆議院議員選舉法ヲ執行スルカ爲メニ規定
 セラレタル勅令ニシテ法律ト等シク一般遵由ノ效力ヲ有シ單ニ選舉事

二五	二五	二九	二五	二五	二五
八	八	八	八	八	八
二四	二四	二四	二四	二四	二四
二五	二五	二五	二五	二五	二五

三五	三五	三五	三五	三五	三五
一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二
四	四	四	四	四	四
二	二	二	二	二	二

務ニ從事スル當該吏員ニ對スル訓令ヲ以テ目スヘキモノニ非ス

○衆議院議員選舉法施行令第十一條ニ於テ投票記載ノ場所ニ所定ノ設備ヲ要求スルハ選舉ノ自由公正ヲ確保スルカ爲メニ選舉法カ採用シタル祕密投票ノ主義ヲ貫徹セシムル爲メニ外ナラサルモノトス

○祕密投票主義ハ選舉人ヲシテ自由公正ヲ維持スルヲ目的トスルモノナレハ聊カナリトモ選舉人ヲシテ自己ノ意思ヲ枉ケテ投票ヲ爲サシムル虞アル場所ニ於テ行ハシムルハ選舉ノ自由公正ヲ維持スルノ途ニ非サルヲ以テ衆議院議員選舉法施行令ハ之ヲ禁シタルモノトス

○衆議院議員選舉法施行令第十一條ハ客觀的ニ選舉人カ自己ノ意思ヲ枉ケテ投票ヲ爲スノ虞ナキ設備アル場所ニ於テ投票ヲ爲サシムル旨趣ニシテ他ヨリ選舉人ノ投票ヲ視ヒ又ハ投票ノ交換其他ノ不正手段ヲ行フノ餘地アル場所ニ於テ投票ヲ爲サシムルハ選舉人ヲシテ任意ニ自己ノ推舉セント欲スル人ヲ投票スルコトヲ得セシムル方法ニ非スシテ選舉ノ自由公正ヲ害スルヲ以テ此等不正手段ヲ行フコトヲ得サラシムル設備ヲ要求スル法意ナリト解スル相當トス

○如上ノ設備ニシテ不完全ナルトキハ縱令投票者ノ簡單ナル注意ヲ以テ容易ニ投票ノ窺視ヲ防クコトヲ得ル場合ニ於テモ尙ホ同條ニ所謂相當

ナル設備ヲ爲シタルモノト云フヲ得サルモノトス

(同三言)

投票記載場所ノ設備カ選舉場外ヨリ容易ニ投票記載所ニ於ケル選舉人ノ投票ヲ視ヒ得ル如ク不完全ナルトキハ之ヲ以テ衆議院議員選舉法並ニ同法施行令ノ規定ニ從ヒタル設備ヲ爲シタルモノト謂フヲ得ス

○投票記載場所ノ設備極メテ不完全ニシテ殆ト公開ノ場所ト擇フ所ナキ程度ニ非スシテ其設備縱令不完全ナルモ投票者ノ簡單ナル注意ト相違テ他人ノ窺視又ハ投票交換等ノ不正手段ヲ防クコトヲ得ル程度ニ在ル場合ニ於テハ反證ナキ限り投票者ハ隱蔽手段ヲ行フ等相當ノ注意ヲ用ヒテ投票ヲ爲シタリト推測スヘク從テ選舉人ノ自由意思ハ妨害セラレサリシモノト推測スヘキモノトス

法 例

○外國裁判所ノ裁判カ假處分タルノ性質ヲ有スルニ止マリ確定力ヲ有スル終局判決ノ性質ヲ有セサルトキハ日本ニ於テ效力ヲ是認スヘキモノニ非ス

(第一條)

【第一條】

法例

トキハ債務者ハ債權者ノ所在ニ就テ義務ヲ履行スヘキモノナリ
 ○法例第七條ノ如ク法律行為ノ成立及ヒ效力ニ付テハ當事者ノ意思ニ從
 ヒ其何レノ國ノ法律ニ依ルヘキカヲ定ムヘク當事者ノ意思分明ナラサ
 ルトキハ行為地法ニ依ルヘキコトハ同法施行前ニ在リテモ國際私法上
 認容セラレタル所ナリトス
 ○消滅時効ハ法律行為ノ效力タル債權債務ヲ消滅セシムル效果ヲ生スル
 モノナルヲ以テ係争債權ノ消滅時効カ完成シタルヤ否ヤハ當事者ノ意
 思不明ナル場合ニ於テハ行為地法ニ依リテ決スヘク訴訟地法ニ依ルヘ
 キモノニ非ス

(參照)

内外國人ノ取引ト雖モ内國ニ於テ締約シ履行スヘキモノニシテ之カ履行ノ訴訟ヲ内國裁判所
 ニ提起シタルトキハ之内國ノ出訴期限規則ヲ適用スルハ相當ナリ

〔第十一條〕

(參照)

日本ノ裁判權ニ服スル韓國人カ韓國ニ於テ行ハレタル不法行為ヲ原因トシ同國人ニ對シテ損
 害賠償ヲ請求スル事件ニ付キ其事實カ何レノ地ニ發生シタルヤヲ確定セスシテ漫然民法ヲ適
 用シタル判決ハ違法ナリ

〔第十六條〕

○離婚ノ訴訟ニ於テ起訴者カ請求ノ原因トシテ主張スル事實ハ果シテ夫
 ノ本國法ニ於テ離婚ノ原因ト認ムルモノナルヤ否ヤヲ判斷スルニ當リ
 若シ該國法上相手方カ惡意ヲ以テ起訴者ヲ遺棄シタルコトヲ必要トセ
 ハ其惡意ノ有無ノ如キハ固ヨリ右ノ本國法ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノ
 トス

〔第二十六條〕

○英國法ニ依ル遺言執行者ハ一千八百九十七年ノ土地移轉條例施行以後
 ニ在リテハ實產ニ付テモ亦死者ヲ代表シ訴訟ヲ提起スルノ權限ヲ有ス
 ルモノトス

〔第三十條〕

○時効期間ノ長短ハ國際公安ニ影響ヲ及ホスモノナルカ故ニ行為地法ノ
 消滅時効ニシテ我國ノ消滅時効ヨリ長期ナルトキハ法例施行ノ前後ヲ
 問ハス同法第三十條規定ノ如ク我國ノ時効ヲ適用スヘク行為地法ヲ適
 用スヘキ限ニ在ラス

舊刑法

四 一〇八五

六 三七八

六 三七八

三 二七

四一 七九五

三六 二六八

三六 二四四

三六 三七八

(第一條)

【第一條】

(第四十七條)

【第四十七條】

○刑事トハ刑法ニ規定セル重罪輕罪違警罪ノ三種ノ刑ヲ謂フ

(第二百十條)

【第二百十條】

○刑法上處罰スヘキ私書ノ偽造トハ記録者ノ資格ヲ詐リテ私書ヲ作成スルノ謂ナレハ記録者カ自己ノ資格ヲ以テ虚偽ノ事實ヲ記載セル私書ヲ作成シテ行使スルモ他ノ犯罪ヲ構成セサル以上ハ之ヲ罰セサルヲ原則トス

刑法附則

(明治四十一年法律第二十九號) 刑法施行法ニ依リ廢止

(參照)

係争事件ノ性質刑事裁判ノ確定ニ依ルニ非サレハ之ヲ定ムヘカラサルトキハ先ツ刑事裁判進行ノ結果如何ヲ極メ果シテ其性質贓物ナルニ於テハ刑法附則第五章ノ法條ニ準據スヘキモノナルニ未タ實施セサル商法ノ法理ヲ説キ之ヲ判決ノ基礎ト爲シテ下シタル判定ハ違法タルヲ免レス

物現在スルトキハ之カ還求ヲ拒ムコトヲ得ス
犯罪ニ關スル物件ナルヲ知ラスシテ贓物ニ取リタルモ真正ノ所有者ヨリ返還ヲ求ムルトキハ之ヲ拒ムヲ得ス

刑法附則第五十五條ノ所謂「贓物轉轉シテ他ノ手ニ在ル時公商ニ由リ買取シタル物品ハ其公商若クハ被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直ニ還給セシムルコトヲ得ス」トハ公商ニ限リ一ノ例外ヲ規定シタルモノナリ而シテ公商ニ由リテ買取シタルト競買ニ由リテ買取ケタルトハ之ヲ同一ニ論スルヲ得ス

刑法附則第五十九條但書ハ倉敷料等ヲ領收シテ他人ノ物品ヲ保管スル營業者カ自己ノ過失ニ因リ火ヲ失シ其物品ヲ滅失セシメタル場合ニ適用スヘキモノニ非ス
刑法附則第五十五條ニ所謂公商トハ商事ヲ營業トスル權能ヲ有スル者ニシテ事實上公然商業ヲ營ム者ヲ指稱シ必スシモ官署ヲ得タル商業者ノミヲ謂フニ非ス從テ公署又ハ官署ニ對シ營業届ヲ爲シ若クハ營業稅ヲ納メサルモノト雖モ尙ホ公商ト稱スルコトヲ得ヘシ
刑事上ノ制裁ト民事上ノ制裁トハ全ク其性質ヲ異ニスルニ依リ刑法第四百十四條ノ規定アレハトテ民事上ノ制裁モ失火ト同一ナラサルヘカラストノ論理ヲ生セス又刑法附則第五十九條但書ハ一ノ例外法ナルニ依リ之ヲ比附援引シテ明文以外ノ事實ニ適用スルコトヲ得ス
刑法附則第五十九條前段ハ犯人ハ勿論其民事擔當人ニ於テ損害賠償ノ責任アルコトヲ規定シ從テ同條但書ハ犯人及ヒ其民事擔當人共ニ失火ニ付キ損害賠償ノ責任ナキコトヲ規定シタルモノトス

二五	二六	二七	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

二五	二六	二七	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

刑事訴訟法

〔第四條〕

○犯罪ヲ原因トスル損害賠償ノ訴ハ公訴附帶ノ私訴トシテ刑事裁判所ニ若クハ單獨ノ民事訴訟トシテ民事裁判所ニ提起スルハ被害者ノ隨意ナリ

○公訴ニ附帶シテ提起シタル私訴ハ刑事訴訟法中特ニ民事訴訟法ノ規定ヲ適用スヘキコトヲ定メタル場合ノ外ハ總テ刑事訴訟法ノ規定ニ從ヒ之ヲ審判スヘキモノトス

〔第九條〕

○刑事訴訟法第九條第一項ハ犯罪ヲ原因トシテ損害ノ賠償又ハ贓物ノ返還ヲ請求スル場合ニ於テ其訴ヲ公訴ニ附帶シテ刑事裁判所ニ提起スルト公訴ニ附帶セスシテ民事裁判所ニ提起スルトヲ問ハス公訴ノ時効ト同一ノ期間ニ於テ該請求權カ時効ニ罹ル旨ヲ定メタルモノトス

〔第十條〕

○不法行為ニ基ク損害賠償ノ請求カ犯罪ヲ原因トスル場合ニ於テハ其時効ノ期間起算點及ヒ中斷ニ付テハ公訴ノ時効ニ於ケルト同一ノ規定ニ

依ルヘキモノニシテ民法第七百二十四條其他民法ノ規定ニ從フヘキモノニ非ス

〔第十一條〕

○公訴ハ以テ私訴免責時効ノ進行ヲ止ムヘカラス故ニ「公訴事件ノ結局マテ出訴期限ヲ中斷シタルモノト云ハサルヘカラス」ト判決シタルハ不法ノ裁判ナリ

〔第十三條〕

○告訴人又ハ告發人ノ賠償責任ニ關シ刑事訴訟法ニ於ケルカ如ク特別ノ規定存スル以上此規定ニ依ルノ外告訴人ニ對シ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

○刑事訴訟法第十三條ハ告訴告發等ニ關シ特別ニ損害賠償ノ責任ヲ定メタル法條ニシテ一般ノ賠償責任ヲ定メタル民法第七百九條ト牴觸スルモノニ非サルカ故ニ民法實施ノ後ト雖モ依然其效力ヲ有スルコト勿論ナリ

○檢事カ不起訴處分ヲ爲シタル場合ニ於テモ無罪又ハ免訴ノ言渡アリタル場合ト同シク告訴人又ハ告發人カ被告人ニ對シテ損害賠償ノ責任スルハ惡意又ハ重大ナル過失アルヲ要スルモノトス

六 一六三一

二六 二二〇

三四 九 一〇九

三五 九 一七

四五 三二三

二九 二 四九

三一 一 六二

六 一六三一

○刑事訴訟法第十三條第一項ハ被告人カ免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ノミニ限ラス不起訴處分アリタル場合ノ如キモ包含スルモノトス

○捜査官ニ對スル申告カ告訴又ハ告發ノ方式ニ適セサル場合ニ於テモ苟モ其申告ヲ爲シタル以上ハ捜査官ハ之ニ基キ犯罪アルコトヲ認知シ捜査ニ著手スルコトヲ得ヘキモノナルヲ以テ尙ホ刑事訴訟法第十三條第一項ノ適用ヲ受クヘキモノトス

【第二百二十五條】

○贓物ノ返還ヲ目的トシテ提起シタル私訴ニシテ犯罪ハ之ヲ贓物ナリト論定シ得サル事實ナリトスルモ附帶トシテ受ケタル裁判所ハ之ヲ以テ直ニ私訴ヲ斥クヘキモノニ非ス他人相當ノ理由ヲ以テ之カ判決ヲ與スヘキモノトス

第五編 上訴 第一章 通則

○公訴ニ附帶シテ提起シタル私訴ハ刑事訴訟法第二百九十條後段ノ規定ニ依リ上告裁判所カ他ノ裁判所ノ民事部ニ移シタル場合ノ外ハ公訴ノ完結シタルト否トヲ問ハス刑事裁判所ニ於テ裁判スルヲ當然トス從テ公訴判決ノ確定後ト雖モ刑事裁判所ノ爲シタル私訴判決ニ對スル上告ハ之ヲ刑事裁判所ニ提起スヘキモノトス

(同義語)

○刑事附帶ノ私訴ハ刑事裁判所ニ上告スルモノトス
 ○被害者カ公訴ニ附帶シテ私訴ヲ刑事裁判所ニ提起シ該裁判所ノ判決ヲ受ケタル以上ハ其判決ニ對スル上訴ハ刑事訴訟法ノ規定ニ從ヒ之ヲ上級裁判所ノ民事部ニ提起セサルヘカラス而シテ公訴判決ニ對シ上訴アルト否トハ固ヨリ問フ所ニ非ス

(第二百九十條)

【第二百九十條】

○大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百九十條ニ依リ私訴事件ノ判決ヲ破毀シテ控訴裁判所ノ民事部ニ移送シタルトキハ同裁判所ハ普通ノ民事事件トシ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ審判スヘキモノトス

第六編 再審

○公訴ニ附帶スル私訴ノ確定判決ニ對スル再審ニ關シテモ刑事訴訟法ノ規定ニ從フヘク民事訴訟法ノ規定ニ依ルヘキモノトス

裁判所構成法

(第二條)

【第二條】

○憲法第二十四條ハ既定ノ法律上ヨリ得タル權利ヲ示シタルモノニシテ民事ニ非サル純然タル行政處分ニ關係ヲ有セヌ同法第六十一條ハ行政

裁判所構成法

二五	二	三二
三三	一	六
三五	五	一四二
三九		三六
四一		四四

二	二	四九
二七		三五〇
六		八四四

裁判所ニ屬スル訴訟ハ司法裁判所カ受理スヘカラサルコトヲ限定シタルニ止マリ其他ノ訴訟ハ總テ司法裁判所カ受クヘシトノコトヲ規定シタルモノニ非ス而シテ民刑以外ノ訴訟ハ司法裁判所ニ於テ受理スヘカラサルコトハ裁判所構成法第二條ノ文意ニ據テ明確ナリ

○大字ノ境界確定ヲ目的トスル訴件ハ司法裁判所ニ屬スヘキモノニ非ス
○村會カ議決シタル事柄ニ對シ之カ當否ヲ論スルモ民事訴訟トシテ判決スヘキ限ニ在ラス

○村長カ村會ノ決議ヲ執行スル爲メ區有ノ地所ヲ賣却スルトキハ其行爲ハ公務上ニ出ツルト雖モ其賣買ハ私法上ノ行爲タル性質ヲ失フモノニ非ス村長カ公務ニ依リ一ノ私法上ノ行爲ヲ爲スモノトス從テ其賣買ノ取消ヲ求ムル訴ハ民事ニ屬シ裁判所構成法第二條ニ依リ司法裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノトス

○町村ノ如キ自治團體ノ公法人カ國家公權ノ分任ヲ受ケ其代表者タル町村長ヲシテ公ノ行政ヲ施行セシムル場合ニ於テ一個人ヨリ妨害ヲ受ルモ其救済ヲ通常裁判所ニ訴求スヘキモノニ非ス

○町村税ノ徵收處分ヲ受ケタル町村民カ其徵稅決議ノ取消アリタルコトヲ理由ト爲シ町村ヲシテ其納付金ヲ返還セシメントスルハ町村ノ行政處分ノ取消又ハ變更ヲ求ムルモノニ外ナラス從テ法令ノ規定ニ依リ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルハ格別司法裁判所ニ對シ之カ救済ヲ請求スルコトヲ許サス

○町村カ公民總會ノ決議ヲ經テ自ラ起業者ト爲リ縣知事ノ監督ヲ受ケ公ノ道路ヲ設クル場合ニ於テ其工事カ他ノ町村ニ涉リ起業者ノ行政權ノ範圍ヲ超エタルヤ否ヤハ其行政行爲ノ執行ハ行政上ノ法令ニ違背シタルヤ否ヤノ問題ニ屬シ司法裁判所ニ於テ之ヲ判定スヘキ限ニ在ラス
○電車經營者タル東京市カ公法人ニシテ其事業ハ公共ノ利害ニ關シ且其經營ニ必要ナル軌道カ市ノ營造物ナリトスルモ乗車ニ關シ市ト乘客トノ權利關係ニ付テハ私法ノ適用ヲ免ルルコトヲ得サルト共ニ之ニ關スル爭議ハ司法裁判所ノ裁判權ニ屬スルモノトス

○町會ノ決議ノ旨趣ニ準據セサル工事ノ施行ニ因リ所有權ヲ侵害セラレタリトシ其施設ノ撤廢復舊ヲ請求スル訴ハ名ヲ民事訴訟ニ藉リ直接町ノ權限ニ屬スル公法上ノ行政作用ヲ無効ナラシムルコトヲ目的トスルモノニ外ナラサレハ民事訴訟事件トシテ司法裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノトス

○檀家總代ナルモノハ寺院ノ財産管理上ニ關スル行務ヲ有シ普通民事ノ

二六	二	三五〇
二五	四	八四
二五	五	九
二七		二四四
三二	五	六〇

三六		九三
四〇		一四八
六		三五
六		七〇一

○範圍内ニ在ルヲ以テ該總代ニ係ル訴訟ハ司法裁判ノ管轄ニ屬スルモノトス

○宗制上ノ憲章中ニ記載シタル事項ト雖モ金穀出納等ノ事務ハ其性質普通民法上ノ權義ニ屬スヘキモノナルヲ以テ此等ノ事項ノ論争ハ尙ホ民法上ノ訴訟タルヲ免レサルモノトス

○宗教部内ノ紛議ニ基ク争訟ハ司法裁判所ノ管轄スヘキモノニ非ス

(同主旨)

宗教其物ノ争論ハ或ハ法律ヲ以テ之カ是非ヲ判定スル能ハサルコトアルモ宗教執行上ノ權理義務ニ關スル争訟ハ多少宗教ニ關スルコトアレハトテ必ス裁判スヘキモノニ非スト云フヲ得ス

宗教事務ニ關スル問題ハ司法裁判所ノ判定スヘキモノニ非ス

○明治十四年七月内務省乙第三十三號達ハ内務省カ宗務ニ關スル行政上ノ取締ノ爲メニ設ケタルモノニシテ私法上各人ノ權利義務ニ基キタルモノニ非ス故ニ檀家總代選舉ノ當否ヲ争フ訴訟ハ司法裁判所ノ管轄ニ非サルモノトス

○神社ノ祭典ニ關スル訴訟ハ宗教上ノ事項ニシテ裁判所構成法第二條ニ所謂民事ノ事項ニ屬スヘキモノニ非ス

(聯)

○寺院ノ住職任免ノ當否ヲ判斷スルコトハ司法裁判所ノ職權ニ屬セスト雖モ主タル私權上ノ争ニ住職任免ノ當否ノ如キ争ノ加ハルトキハ司法裁判所ニ於テ此争ヲ豫斷スルコトヲ得ルモノトス

○明治十七年太政官布達第十九號ニ於テ國家ハ寺院住職ノ任命ヲ各管長ニ委任スル旨ヲ宣明シ同第四條ニ管長ハ寺院住職ノ任免ニ關シ其條規ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ得ヘキ旨ノ規定等ヨリ看レハ寺院住職ノ任免ニ關スル行爲ハ内務大臣ノ監督ニ屬スル行政事務ニシテ民事上ノ行爲ニ非ス

○如上ノ法規ニ基キテ各派管長ノ爲シタル寺院住職ノ任免行爲ノ效力ノ有無ヲ確定スルコトヲ主タル目的トスル訴ハ行政行爲ノ當否ニ付キ判斷ヲ求ムルモノニシテ民事訴訟ニ非サレハ司法裁判所ノ裁判權ニ屬セサルモノトス

(同主旨)

寺院ノ住職ノ任命ハ民法上ノ行爲ニ出ツルモノニ非ス從テ其當否ヲ判定スルカ如キハ司法裁判所ノ裁判權ニ屬セス

○職權ヲ以テ調査スヘキ性質ノモノハ縱令第一審ニ於テ提出者自身ニ一旦取消シタルモ更ニ之ヲ大審院ニ提出スルモ敢テ不當ナリト云フヲ得

二五	二六	三〇	二四	二七	三三	三四
五	二	六	一		五	九
二六五	二二五	二七七	二五二	二五三	二六	六五

三五	三六	三三	三六	三三	三三	三三
三					二	
八二	二〇六	二〇六	二〇六	二〇六	二〇六	二〇六

ス(民訴四五四條六號四一四條)又本件ハ行政廳ニ係リ營業免許ノ取消ヲ求ムル者ニ非スシテ漁業權ノ侵害ヲ救済センカ爲メ對手人カ行政廳ヨリ受ケタル所ノ免許取消願ノ手續ヲ爲サシメント求ムルモノナレハ司法裁判ニ屬スルモノトス

○渡船營業ハ一私人營業的ノ業務ニシテ行政官廳ノ爲スヘキ事ニ非ス唯此營業ニシテ行政官廳ノ免許ヲ要スルモノハ其業務タル公衆ノ利害安危ニ關ハルヲ以テ之カ取締ヲ爲スニ過キス故ニ甲者ノ論旨カ乙者ノ此營業ヲ爲スハ法式ニ背キテ其免許ヲ得且自己ノ營業ヲ害スルモノニ付キ之ヲ排斥セラレ度ト云フニ在テ行政官廳ノ處分ヲ不當視スルモノニ非サレハ此争訟ヲ管轄スル裁判所ハ司法裁判ニ屬スヘキモノトス

○一地方ノ出水ニ際シ知事カ職務上鐵道線路ヲ決潰セシメ其會社ニ損害ヲ生セシメタリトノ事ニ付キ知事ノ不法行爲ヲ原因トセル損害賠償ノ訴訟ハ司法裁判所ノ管轄ニ屬ス

(反對)

争訟カ村長ノ職務上ノ行爲ニ關シ縱令私權利ヲ侵害シタル事實アルモ行政處分ニ關スル以上ハ司法裁判ニ屬スヘキモノニ非ス

○行政上ノ處分ヲ廢除若クハ變更スルコトヲ目的トスル訴訟ハ其請求者

二七	三〇	二七	二七
	三		
	一七	三四	一八九
六			

カ一私人タルト公法人タルトノ別ナク司法裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノニ非ス

○行政處分ヲ受ケサル者カ他人ニ對スル行政處分ノ爲メニ民法上ノ權利ヲ侵害セラレタルトキハ民事訴訟ノ手段ニ依リテ其救済ヲ求メ得ルヲ以テ通例トス

(同主旨)

行政處分ヲ受ケサル者カ他人ニ對スル行政處分ノ爲メニ民法上ノ權利ヲ侵害セラレタルトキハ民事訴訟ノ手段ニ依リテ其救済ヲ求メ得ルヲ以テ通例トス

○水利ニ關スル甲村組合ノ施行セル工事カ乙村組合ノ水利權ヲ侵害シタルト爲シ其排除ヲ請求スル訴訟ハ司法裁判所ニ於テ判斷ヲ與フヘキ限ニ在ラス

○起訴者カ各私人ニシテ行政處分ニ關係ナキ第三者ナル場合ト雖モ民事訴訟ノ方法ヲ以テ該處分ニ依リ作成シタル工事ノ取除若クハ變更ヲ請求シ得サルハ當然ナリ

○被處分者カ直接若クハ間接ニ行政行爲ノ取消變更若クハ其實行ヲ求メ又ハ該行爲ニ因リ私法上ノ權利ヲ侵害セラレタリト主張スル如キ訴訟ニ非スシテ被處分者以外ノ者カ其行爲ニ因リ私法上ノ權利ヲ侵害セラ

三三	三六	三五	三七
六	一〇一	八	三七
八九		五	八七
			八七

レタリトスル如キ訴訟ハ其性質民事ノ訴訟ナルカ故ニ法令ヲ以テ特ニ之ヲ司法裁判所ノ權限ヨリ除外セサル以上ハ同裁判所ニ於テ之ヲ受理判決スヘキハ當然ナリ

○行政處分ニ因リ土地ノ賣拂付與處分ノ取消ヲ爲シタルコトヲ訴ノ原因トスル場合ニ於テハ司法裁判所ハ其處分ノ當否ヲ判斷スルコトヲ得ス

○國家行政ノ機關タル行政官カ徵發令ニ遵由シテ臣民ノ物件ヲ徵發シ賠償金ヲ下付スル行爲ハ總テ公法ノ支配ヲ受クヘキモノトス從テ徵發物ノ賠償ニ關スル請求事件ハ通常裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノニ非ス

○地租改正處分ニ依リ誤テ官有ニ編入セラレタル土地ヲ原狀ニ回復セシコトヲ求ムル訴訟ハ民事事件トシテ司法裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノニ非ス

○行政官廳ノ境界査定處分ニ依リ國有ニ確定シタル山林ヲ起訴者ノ所有ニ回復センコトヲ求ムル訴訟ハ司法裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノニ非ス

○大林區署ノ境界査定處分ニ依リ自己ノ所有地ヲ侵害セラレタルモノトシ國有林ト其所有地トノ境界ヲ確認シテ査定處分ヲ變更セシメントスル訴訟ハ司法裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノニ非ス

○河川法ノ適用又ハ準用ナキ河川ニ對スル工事設備等ニ因リ單ニ私人カ受ケタル損害ノ賠償ヲ請求スル場合ニ於テハ縱令其工事設備等カ行政處分ニ基クトキト雖モ司法裁判所ハ其處分ノ當否ヲ判斷スルコトヲ妨ケサルモノトス

○境界査定處分ニ依ラスシテ境界標ヲ不當ニ設置セラレタル爲メ所有權ヲ侵害セラレタリトシ其確認ヲ求ムル訴ハ若シ其境界標カ前ニ境界査定處分ノ在ルアリテ之ニ依リ設置セラレタルモノヲ改設シタルモノナルトキハ司法裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノトス

○普通水利組合カ灌漑排水ニ關スル事業トシテ爲ス行爲ハ府縣其他ノ地方公共團體カ其事業ニ付キ爲スモノト同シク公權ノ發動トシテ爲ス一ノ行政處分ナレハ他人カ其行爲ニ依リ妨害セララルル虞アル權利ノ救済ハ司法裁判所ノ權限ニ屬セサルモノトス

○北海道廳長官カ原告ノ架設セル橋梁ヲ其設置許可期間ノ滿了後不當ニ命令ヲ以テ無償ニテ官有ニ編入シタル爲メ該橋梁ノ價格ニ相當スル金額ヲ不當ニ利得シ原告ニ損害ヲ及ボシタルコトヲ理由ト爲シ其返還ヲ求ムル訴訟ハ畢竟同長官ノ行政處分ノ取消又ハ變更ヲ求ムルモノニ外ナラサレハ司法裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノトス

三六

三六

四〇

四三

四四

三三

七六

三二八

四七六

三六五

三五

四

四

四

五

五五

一九一〇

一九九五

四六七